福島県内遺跡分布調査報告８

序　　文

福島県教育委員会では，大規模開発等により消滅する埋蔵文化財包蔵地を保護するため，開発事業が行われる以前に詳細な分布調査を実施し，開発関係機関と保存協議を行い，埋蔵文化財の現状保存に努めています。

平成13年度は，各種開発事業地内の埋蔵文化財包蔵地について，表面調査と試掘調査を財団法人福島県文化振興事業団へ委託して実施しました。

表面調査は，あぶくま南道路，こまちダム，一般国道289号南倉沢バイパス，県営かんがい排水事業相馬第二地区関連の各建設予定地で実施し，75箇所の遺跡と試掘調査により遺跡の存否を確認する地点24箇所を発見いたしました。

また，試掘調査は，常磐自動車道建設予定地内８箇所，あぶくま南道路建設予定地内11箇所，一般国道６号相馬バイパス建設予定地内４箇所，一般国道289号南倉沢バイパス建設予定地内９箇所，県営かんがい排水事業相馬第二地区関連２箇所，隈戸川農業水利事業関連（田の沢ダム）５箇所，こまちダム建設予定地内７箇所，会津縦貫北道路建設予定地内１箇所において実施しました。

本報告書は，これらの成果をまとめたものですが，埋蔵文化財の保護や地域の歴史を解明するため，また，生涯学習等の基礎資料として広く県民の皆様にご活用いただければ幸いに存じます。

おわりに，この調査に御協力いただいた財団法人福島県文化振興事業団はじめ関係各位に対し，深く感謝の意を表します。

平成14年３月

福島県教育委員会

教育長　髙　城　俊　春

緒　　言

1．本書は，平成13年度に実施した地域高規格道路（会津縦貫北道路，福島空港・あぶくま南道路）・一般国道６号相馬バイパス・一般国道289号南倉沢バイパス・こまちダム・常磐自動車道・国営隈戸川農業水利事業・県営かんがい排水事業相馬第二地区の各建設予定地内遺跡または遺跡推定地（試掘調査により遺跡の存否を確認する地点）の試掘調査と，県営かんがい排水事業相馬第二地区・地域高規格道路（福島空港・あぶくま南道路）・一般国道289号南倉沢バイパス・こまちダムの各建設予定地内の表面調査の報告書である。

2．この調査は，国庫補助を受け福島県教育委員会が実施した。

3．福島県教育委員会は，調査を財団法人福島県文化振興事業団に委託した。

4．財団法人福島県文化振興事業団は，遺跡調査部遺跡調査課の下記職員を配置して調査を実施した。

文化財主査　斎藤竜一　　文化財副主査　香川愼一

文化財主事　小野忠大　　文化財主事　三浦武司

他に，高橋信一・安田　稔・大竹正浩・関　博人・井　憲治・菊田順幸・国井秀紀・大河原勉・阿部知己・津田直子・吉田泰弘・横須賀倫達・稲村圭一・遠藤千映美が参加した。

5．本書が報告する県営かんがい排水事業相馬第二地区・地域高規格道路（福島空港・あぶくま南道路）・一般国道289号南倉沢バイパス・こまちダムの各建設予定地内について地図上に示した遺跡の範囲は，表面調査の結果から推定したものであり，今後の試掘調査の結果によっては変更されることもある。また，新たに遺跡が発見されることも予想される。

6．本書は，第１章を福島県教育庁文化課文化財主査小林雄一・木田寿憲・丹野隆明が執筆し，第２章以下は，財団法人福島県文化振興事業団県内遺跡分布調査担当職員が執筆した。

7．本書に掲載の地図は，国土地理院長の承認を得て，同院発行の１/25,000地形図を複製したものである。（承認番号　平13東複第414号）

8．調査にあたっては，地元地権者・地権者会・行政区長をはじめ下記の機関に多くの協力をいただいた。玉川村教育委員会，平田村教育委員会，小野町教育委員会，大信村教育委員会，富岡町教育委員会，双葉町教育委員会，塩川町教育委員会，相馬市教育委員会，新地町教育委員会，下郷町教育委員会，小野町都市整備課，福島県県中建設事務所・南会津建設事務所，福島県土木部高速道路整備室，福島県あぶくま高原自動車道建設事務所，国土交通省東北地方整備局郡山国道工事事務所・磐城国道工事事務所，日本道路公団東北支社いわき工事事務所・相馬工事事務所，東北農政局隈戸川農業水利事業所，福島県相馬北部用水改良事務所，福島県土地開発公社浪江支所，関東森林管理局福島森林管理署白河支署・大屋森林事務所

9．事業名称が長いものについては，一部省略した表現を用いている。

10．本書に使用した，遺跡の調査記録および出土資料は，福島県教育委員会で保管している。

用　　例

1．本書における用例は次のとおりである。

⑴　遺跡および遺跡推定地の位置図は，国土交通省国土地理院発行縮尺１/25,000地形図を複製した。

⑵　トレンチ配置図は，福島県土木部・福島県地域振興整備公団作製の縮尺１/2,500地形図，東北地方整備局郡山国道工事事務所および日本道路公団作製の縮尺１/1,000地形図を基とした。

2．本書第２章における遺跡・遺跡推定地およびトレンチ配置図の用例は次のとおりである。なお，遺跡推定地の名称は便宜上，アルファベットの「Ｂ」と算用数字の組合せ表記とするが，試掘調査によって遺跡であることが確定すれば所在地の字名や地名を取り，新たに遺跡名称を付している。

⑴ 保　存　：遺跡保存範囲（発掘調査範囲）⑵ 未試掘　：未試掘範囲

⑶ 除　外　：発掘調査範囲から除外　　⑷ 未確定　：未確定範囲

⑸ ：遺構・遺物が確認できたトレンチ　⑹ ：遺構・遺物が確認できなかったトレンチ

⑺ ：工事予定範囲　　⑻ ：表面調査による遺跡推定範囲

3．本書第３章における遺跡および遺跡推定地の位置図の用例は次のとおりである。

⑴ ：遺跡範囲　　⑵ ：遺跡推定地範囲

4．遺構図の用例は次のとおりである。

⑴　トレンチおよび遺構の平面図は，縮尺１/80を基本とし，縮尺率は各図スケールの右側に記した。

⑵　検出した遺構は網点で表示した。

⑶　土色の判定に際しては，『新版標準土色帖』（日本色研事業株式会社　1994）を用いた。

5．遺物図の用例は次のとおりである。

⑴　縮尺率は各図スケールの右側に記した。

⑵　土器断面

①　縄文土器・弥生土器・土師器は白ヌキで示した。須恵器はベタ黒で示した。

②　胎土中に繊維混和痕の認められる土器については，断面図中の▲で示した。

③　土師器の内面を黒色処理したものについては，断面左側に網点を付した。

6．本書で使用した略号は，次のとおりである。

Ｔ：トレンチ　　Ｌ：遺構外堆積土　　ℓ：遺構内堆積土

ＳＩ：竪穴住居跡　　ＳＫ：土　坑　　ＳＥ：井戸跡　　ＳＤ：溝　跡　　Ｐ：小穴

相馬市…ＳＭ　　小野町…ＯＮ　　富岡町…Ｔ　　双葉町…Ｆ　　新地町…ＳＴ

下郷町…ＣＧ　　塩川町…ＣＫ　　玉川村…ＴＧ　　平田村…ＨＴ　　大信村…ＴＳ

目　　次

第１章　遺跡分布調査の概要 …… 1

第２章　試　掘　調　査 …… 3

第１節　地域高規格道路（福島空港・あぶくま南道路）建設予定地 …… 3

(1)　小野町の遺跡 …… 5

［黒森館跡］ 5　［ＯＮ－Ｂ３（関場Ｂ遺跡）］ 6　［ＯＮ－Ｂ５（仁井殿遺跡）］ 7
［ＯＮ－Ｂ６］ 9　［ＯＮ－Ｂ７（反田Ｂ遺跡）］ 9

(2)　平田村の遺跡 …… 11

［中根館跡］ 11　［後曲遺跡］ 15　［曲山Ｂ遺跡］ 15　［曲山Ｃ遺跡］ 16　［ＨＴ－Ｂ１］ 17

(3)　玉川村の遺跡 …… 17

［宮ノ前Ａ遺跡］ 17

第２節　こまちダム建設予定地 …… 18

［堂田Ａ遺跡］ 19　［Ｂ８（西田Ｈ遺跡）］ 21　［西田Ｃ遺跡］ 25　［堂田遺跡］ 25
［Ｂ10］ 25　［Ｂ11］ 26　［Ｂ12］ 27

第３節　国営隈戸川農業水利事業予定地 …… 27

［田ノ沢Ｃ遺跡］ 28　［田ノ沢Ｇ遺跡］ 31　［Ｂ１（田ノ沢Ｈ遺跡）］ 32　［Ｂ６］ 34　［Ｂ７］ 34

第４節　常磐自動車道建設予定地 …… 35

(1)　富岡町の遺跡 …… 37

［後作Ａ遺跡］ 37　［大石原遺跡］ 40　［清水遺跡］ 40　［Ｔ－Ｂ25］ 41

(2)　双葉町の遺跡 …… 41

［萩平遺跡］ 41　［Ｆ－Ｂ１］ 42　［Ｆ－Ｂ２］ 43　［Ｆ－Ｂ３］ 44

第５節　一般国道６号相馬バイパス建設予定地 …… 44

(1)　相馬市の遺跡 …… 45

［本笑和田横穴墓群］ 45

(2)　新地町の遺跡 …… 46

［山中Ｂ遺跡］ 46　［洞山Ａ遺跡］ 48　［ＳＴ－Ｂ２］ 50

第６節　県営かんがい排水事業相馬第二地区建設予定地 …… 50

［堂ヶ平Ａ遺跡］ 51　［ＳＭ－Ｂ101（宿仙木Ａ遺跡）］ 51

第７節　地域高規格道路（会津縦貫北道路）建設予定地 …… 53

［荒屋敷遺跡］ 54

第８節　一般国道289号南倉沢バイパス建設予定地 …… 55

［南倉沢遺跡］ 56　［稲干場遺跡］ 59　［ＣＧ－Ｂ１］ 60　［ＣＧ－Ｂ２］ 60　［ＣＧ－Ｂ３］ 60
［ＣＧ－Ｂ４］ 60　［ＣＧ－Ｂ５］ 62　［ＣＧ－Ｂ６］ 62　［ＣＧ－Ｂ７］ 64

第３章　表　面　調　査 …… 66

第１節　県営かんがい排水事業相馬第二地区建設予定地 …… 66
第２節　地域高規格道路（福島空港・あぶくま南道路）建設予定地 …… 66
第３節　一般国道289号南倉沢バイパス建設予定地 …… 69
第４節　こまちダム建設予定地 …… 70

第４章　ま　と　め …… 71

挿図・表・目次

［挿　図］

図１　県内遺跡分布調査位置図……１
図２　小野町の遺跡……３
図３　平田村の遺跡……４
図４　玉川村の遺跡……５
図５　黒森館跡・ＯＮ－Ｂ３(関場Ｂ遺跡)トレンチ配置図…６
図６　ＯＮ－Ｂ３（関場Ｂ遺跡）出土遺物……７
図７　ＯＮ－Ｂ５（仁井殿遺跡）トレンチ配置図……８
図８　ＯＮ－Ｂ５（仁井殿遺跡）出土遺物……８
図９　ＯＮ－Ｂ６トレンチ配置図……９
図10　ＯＮ－Ｂ７（反田Ｂ遺跡）トレンチ配置図……10
図11　ＯＮ－Ｂ７（反田Ｂ遺跡）出土遺物……10
図12　中根館跡概略図……11
図13　中根館跡トレンチ配置図(1)……12
図14　中根館跡トレンチ配置図(2)……13
図15　63号トレンチ断面図……14
図16　中根館跡検出遺構・出土遺物……14
図17　後曲遺跡・曲山Ｂ遺跡トレンチ配置図……15
図18　曲山Ｃ遺跡トレンチ配置図……16
図19　ＨＴ－Ｂ１トレンチ配置図……17
図20　宮ノ前Ａ遺跡トレンチ配置図……18
図21　小野町の遺跡……19
図22　堂田Ａ遺跡トレンチ配置図……20
図23　堂田Ａ遺跡検出遺構・出土遺物……20
図24　Ｂ８(西田Ｈ遺跡)トレンチ配置図……21
図25　Ｂ８(西田Ｈ遺跡)検出遺構・土層柱状図……22
図26　Ｂ８(西田Ｈ遺跡)出土遺物(1)……23
図27　Ｂ８(西田Ｈ遺跡)出土遺物(2)……24
図28　西田Ｃ遺跡トレンチ配置図……25
図29　堂田遺跡・Ｂ10トレンチ配置図……26
図30　Ｂ11トレンチ配置図……26
図31　Ｂ12トレンチ配置図……27
図32　大信村の遺跡……28
図33　田ノ沢Ｃ遺跡トレンチ配置図……29
図34　田ノ沢Ｃ遺跡検出遺構・出土遺物……30
図35　田ノ沢Ｇ遺跡トレンチ配置図……31
図36　田ノ沢Ｇ遺跡検出遺構・出土遺物……32
図37　Ｂ１(田ノ沢Ｈ遺跡)トレンチ配置図……33
図38　Ｂ６トレンチ配置図……35
図39　Ｂ７トレンチ配置図……35
図40　富岡町の遺跡……36
図41　双葉町の遺跡……37
図42　後作Ａ遺跡トレンチ配置図……38
図43　後作Ａ遺跡検出遺構・出土遺物……39
図44　大石原遺跡トレンチ配置図……40
図45　清水遺跡トレンチ配置図……40
図46　Ｔ－Ｂ25トレンチ配置図……41
図47　萩平遺跡・Ｆ－Ｂ３トレンチ配置図……42
図48　Ｆ－Ｂ１・Ｂ２トレンチ配置図……43
図49　相馬市の遺跡……44
図50　新地町の遺跡……45
図51　本笑和田横穴墓群トレンチ配置図……45
図52　本笑和田横穴墓群出土遺物……46
図53　山中Ｂ遺跡トレンチ配置図……47
図54　山中Ｂ遺跡検出遺構・出土遺物・土層柱状図…48
図55　洞山Ａ遺跡・ＳＴ－Ｂ２トレンチ配置図……49
図56　相馬市の遺跡……50
図57　堂ヶ平Ａ遺跡トレンチ配置図……51
図58　ＳＭ－Ｂ101(宿仙木Ａ遺跡)トレンチ配置図…52
図59　ＳＭ－Ｂ101(宿仙木Ａ遺跡)検出遺構・出土遺物…53
図60　塩川町の遺跡……53
図61　荒屋敷遺跡トレンチ配置図……54
図62　荒屋敷遺跡検出遺構・出土遺物……55
図63　下郷町の遺跡……55
図64　南倉沢遺跡・稲干場遺跡トレンチ配置図……57
図65　南倉沢遺跡・稲干場遺跡土層柱状図……57
図66　南倉沢遺跡・稲干場遺跡出土遺物……58
図67　ＣＧ－Ｂ１トレンチ配置図……61
図68　ＣＧ－Ｂ２トレンチ配置図……61
図69　ＣＧ－Ｂ３トレンチ配置図……61
図70　ＣＧ－Ｂ４トレンチ配置図……63
図71　ＣＧ－Ｂ５トレンチ配置図……63
図72　ＣＧ－Ｂ６トレンチ配置図……64
図73　ＣＧ－Ｂ７トレンチ配置図・検出遺構……65
図74　相馬市の遺跡と遺跡推定地……67
図75　新地町の遺跡と遺跡推定地……68
図76　平田村の遺跡と遺跡推定地……69
図77　Ｂ15位置図……70

［　表　］

表１　小野町所在遺跡試掘調査成果一覧……３
表２　平田村所在遺跡試掘調査成果一覧……４
表３　玉川村所在遺跡試掘調査成果一覧……５
表４　ＯＮ－Ｂ３(関場Ｂ遺跡)トレンチ一覧……６
表５　ＯＮ－Ｂ５(仁井殿遺跡)トレンチ一覧……８
表６　ＯＮ－Ｂ７(反田Ｂ遺跡)トレンチ一覧……10
表７　中根館跡トレンチ一覧……13
表８　曲山Ｃ遺跡トレンチ一覧……16
表９　宮ノ前Ａ遺跡トレンチ一覧……18
表10　小野町所在遺跡試掘調査成果一覧……19
表11　堂田Ａ遺跡トレンチ一覧……20
表12　Ｂ８(西田Ｈ遺跡)トレンチ一覧……22
表13　大信村所在遺跡試掘調査成果一覧……28
表14　田ノ沢Ｃ遺跡トレンチ一覧……30
表15　田ノ沢Ｇ遺跡トレンチ一覧……32
表16　富岡町所在遺跡試掘調査成果一覧……36
表17　双葉町所在遺跡試掘調査成果一覧……37
表18　後作Ａ遺跡トレンチ一覧……39
表19　相馬市所在遺跡試掘調査成果一覧……44
表20　新地町所在遺跡試掘調査成果一覧……45
表21　山中Ｂ遺跡トレンチ一覧……46
表22　相馬市所在遺跡試掘調査成果一覧……50
表23　ＳＭ－Ｂ101(宿仙木Ａ遺跡)トレンチ一覧……52
表24　荒屋敷遺跡トレンチ一覧……54
表25　下郷町所在遺跡試掘調査成果一覧……56
表26　南倉沢遺跡トレンチ一覧……57
表27　稲干場遺跡トレンチ一覧……57
表28　ＣＧ－Ｂ５トレンチ一覧……62
表29　ＣＧ－Ｂ７トレンチ一覧……64
表30　かんがい排水事業相馬第二地区関連遺跡推定地一覧…66
表31　あぶくま南道路関連新発見遺跡推定地一覧(平田村)…69
表32　こまちダム関連新発見遺跡推定地一覧……70
表33　あぶくま南道路関連遺跡試掘調査成果一覧……71
表34　こまちダム関連遺跡試掘調査成果一覧……71
表35　隈戸農水関連遺跡試掘調査成果一覧……71
表36　常磐自動車道関連遺跡試掘調査成果一覧……72
表37　国道６号相馬バイパス関連遺跡試掘調査成果一覧…72
表38　かんがい排水事業相馬第二地区遺跡試掘調査成果一覧…72
表39　会津縦貫北道路関連遺跡試掘調査成果一覧……72
表40　国道289号南倉沢バイパス関連遺跡試掘調査成果一覧…72

第１章　遺跡分布調査の概要

１　地域高規格道路（福島空港・あぶくま南道路）遺跡分布調査

福島空港・あぶくま南道路は，東北自動車道矢吹ＩＣから福島空港を経て磐越自動車道小野ＩＣを結ぶ自動車専用道路である。福島県教育委員会は福島県土木部高速道路整備室・あぶくま高原自動車道建設事務所と埋蔵文化財の保護について協議を行い，平成８年度は福島県教育委員会が矢吹町，小野町への調査協力を通して表面調査及び試掘調査を実施した。

平成９年度から福島県教育委員会が調査主体となり，財団法人福島県文化センター（現福島県文化振興事業団）に委託し，調査を実施している。平成13年度は整備区間の宮ノ前Ａ遺跡，中根館跡ほか９ヵ所の遺跡及び試掘調査を必要とする箇所66,500㎡で試掘調査を行うとともに，県道古殿須賀川線から国道49号までの調査区間（４～６工区）の平田村分60haを対象に表面調査を実施し，22ヵ所の遺跡及び試掘調査を必要とする箇所を確認した。

２　こまちダム遺跡分布調査

こまちダムは，夏井川の支流である黒森川流域の小野町菖蒲谷・雁股田地内に計画されている県営の多目的ダムである。福島県教育委員会は福島県土木部と埋蔵文化財の保存協議を行い，平成11年度，ダム建設に伴い付け替えが行われる県道建設予定区間20haの表面調査を行い，13の遺跡及び試掘調査を必要とする箇所を確認した。平成13年度はこのうちの堂田Ａ遺跡，Ｂ８ほか５ヵ所の試掘調査と，ダムを周回する道路建設予定地10haの表面調査を実施し，新たに１ヵ所の試掘調査を必要とする箇所を確認した。

３　隈戸川農業水利事業遺跡分布調査

国営隈戸川農業水利事業は，田の沢ダム建設及び基幹水路の改修を行い，須賀川市他２町４村に用水の安定供給をめざすものである。ダム建設予定地周辺については，平成10年度に福島県教育委員会が大信村教育委員会に協力して表面調査を行い，12ヵ所の遺跡及び試掘調査が必要な箇所を確認した。福島県教育委員会は農林水産省隈戸川農業水利事務所と埋蔵文化財の保護について協議を行い，平成13年度は田ノ沢Ｃ遺跡ほか４ヵ所111,600㎡の試掘調査を実施した。

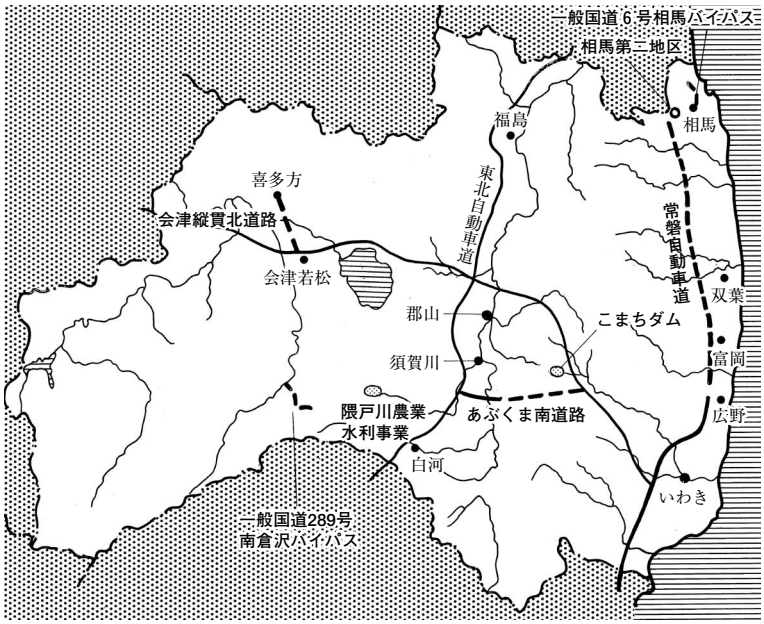


図１　県内遺跡分布調査位置図

4　常磐自動車道遺跡分布調査

常磐自動車道は，現在いわき四倉～富岡間で工事が進められ，富岡～新地間については施工命令が出されている。新地～宮城県境間は整備計画路線となっている。福島県教育委員会は福島県土木部高速道路整備室及び日本道路公団と埋蔵文化財の保存協議を行い，財団法人福島県文化センター（現福島県文化振興事業団）に委託して，平成６年度から継続して調査を実施してきた。表面調査は平成10年度までに全区間終了している。平成13年度は富岡町・双葉町に所在する後作Ａ遺跡ほか７ヵ所，41,540㎡の試掘調査を実施した。

5　一般国道６号相馬バイパス遺跡分布調査

一般国道６号相馬バイパスは，相馬市塚部から新地町駒ヶ嶺を区間とする相馬地区の幹線道路として建設が進められている道路である。福島県教育委員会は建設省東北地方建設局（現国土交通省東北地方整備局）磐城国道工事事務所と埋蔵文化財保護の協議を行い，財団法人福島県文化センター（現福島県文化振興事業団）に委託し，昭和63・平成13年度に表面調査，平成３・11年度に工事計画に沿って試掘調査を実施してきた。平成13年度は，相馬市の本笑和田横穴墓群，新地町の洞山Ａ遺跡，山中Ｂ遺跡，ＳＴ－Ｂ２の14,500㎡を対象とした試掘調査を実施した。

6　県営かんがい排水事業相馬第二地区遺跡分布調査

県営かんがい排水事業相馬第二地区は，相馬市・新地町にまたがる3,243haに及ぶ農耕地区について鴻ノ巣ダムと松ヶ房ダムの築造と農業用水路の建設により水源の確保と通水の適正化を進めているものである。福島県教育委員会は福島県農林水産部農地建設課と相馬北部用水改良事務所で工事計画地域内の埋蔵文化財保護の協議を行い，財団法人福島県文化センター（現福島県文化振興事業団）に調査を委託した。相馬市，新地町の協力のもと昭和63年度に表面調査を実施し，宇田川左岸地区用水路工事にかかる遺跡を対象に，平成９年に試掘調査ならびに発掘調査を実施した。平成13年度は，変更計画された用水路線範囲100haの表面調査ならびに堂ヶ平Ａ遺跡ほか１ヵ所の試掘調査を実施した。

7　地域高規格道路（会津縦貫北道路）遺跡分布調査

会津縦貫北道路は喜多方市と会津若松市を結ぶ自動車専用道路である。平成８年度に都市計画道路の決定がなされ，平成９年度から建設省（現国土交通省）直轄事業として進められた。福島県教育委員会は建設省東北地方建設局（現国土交通省整備局）郡山国道事務所と埋蔵文化財保護の協議を行い，財団法人福島県文化センター（現福島県文化振興事業団）に委託し，平成９年度に表面調査，平成12年度に塩川町の麻生館，荒屋敷遺跡の試掘調査を実施した。平成13年度は荒屋敷遺跡の7,500㎡を対象に試掘調査を実施した。

8　一般国道289号南倉沢バイパス遺跡分布調査

一般国道289号は，新潟市からいわき市に至る幹線道路であり，南倉沢バイパスは，甲子トンネルとともに交通不能区間を解消し，県南地域と南会津地域の交流・連携を目的とした道路である。福島県教育委員会は福島県南会津建設事務所と埋蔵文化財保護の協議を行い，その結果を受けて財団法人福島県文化振興事業団に調査を委託した。平成13年度は下郷町分25haの表面調査，南倉沢遺跡ほか８ヵ所の71,800㎡を対象に試掘調査を実施した。

第２章　試　掘　調　査

第１節　地域高規格道路（福島空港・あぶくま南道路）建設予定地

［**小野町**］　小野町は，阿武隈高地のほぼ中央部に位置し，標高500m前後の山地性丘陵が発達している。丘陵の基盤層は旧期花崗岩類であり，その表層部は風化による真砂化が進行している。そのため，小野町は丘陵表層部の崩落による埋没谷の形成が顕著な地域でもある。

平成13年度，７工区における小野町側の試掘調査は，同町南西部の菖蒲谷・雁股田地区に所在する計５ヵ所の遺跡・遺跡推定地（表１）について実施した。ＯＮ－Ｂ７は，平成13年５月に実施した表面調査で遺跡推定地とした場所である。なお，黒森館跡の西側にあるＯＮ－Ｂ４は，平成９年度の表面調査で館に付属する平場施設の可能性を指摘したが（『福島県内遺跡分布調査報告４』），今年度，樹林伐採後に確認調査を行った結果，後世の削平であったことが判明し，遺跡として取り扱わないことにした。

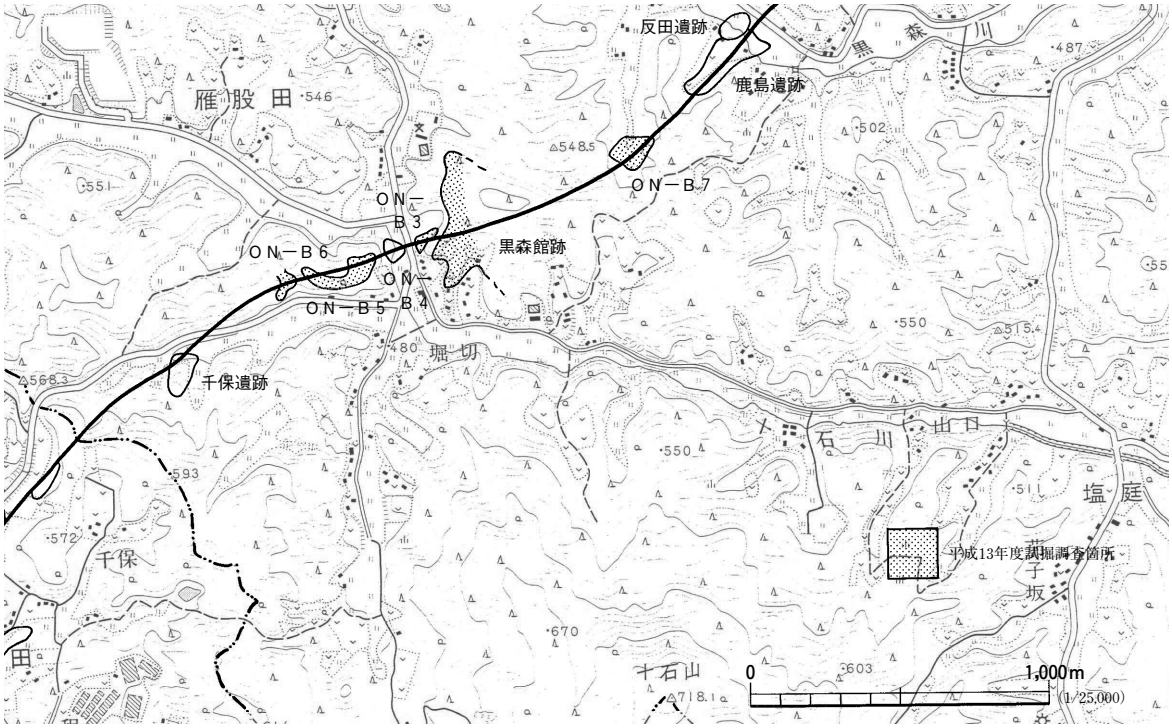


図２　小野町の遺跡

表１　小野町所在遺跡試掘調査成果一覧

No.	遺　跡　名	遺跡工区内面　　積	平成13年度調査		未試掘面積	平成13年度調査	
			調査対象面積	保存面積		検出遺構	出土遺物
1	黒森館跡	2,600㎡	2,600㎡	0㎡	0㎡		
2	ＯＮ－Ｂ３ (関場Ｂ遺跡)	2,400㎡	2,400㎡	1,200㎡	0㎡	土坑・溝跡 遺物包含層（縄文）	縄文土器・石器 陶磁器・鉄滓
3	ＯＮ－Ｂ５ (仁井殿遺跡)	8,300㎡	8,300㎡	2,100㎡	0㎡	土坑・遺物包含層(縄文)	縄文土器・石器
4	ＯＮ－Ｂ６	3,400㎡	3,400㎡	0㎡	0㎡		
5	ＯＮ－Ｂ７ (反田Ｂ遺跡)	5,000㎡	5,000㎡	1,300㎡	0㎡	土坑・焼土遺構 遺物包含層（縄文）	縄文土器・石器
小野町計		21,700㎡	21,700㎡	4,600㎡	0㎡		

［平田村］　７工区における平田村側の試掘調査は，同村北東部の大字蓬田新田・上蓬田地区に所在する計５ヵ所の遺跡・遺跡推定地（表２）について実施した。蓬田新田地区は，国道49号に沿って北須川の支流が並行しており，狭長な開析谷が南北に展開する地形となっている。この国道49号と県道矢吹小野線の分岐点付近には向舘遺跡・蓬田館跡など中世城館跡があり，今回，試掘調査を実施した中根館跡との関連性も考えられる。なお，蓬田館跡は「舘山公園」として整備され，当時の土塁や空堀を観察することができる。

上蓬田地区は東部で小野町と接しており，同町から山地性丘陵が続く。上蓬田地区の低地は，樹枝状に入り組んだ開析谷が大半である。今回，同地区の試掘対象となった遺跡・遺跡推定地は，概ね県道矢吹小野線沿いの低地部に立地しており，後曲遺跡から縄文土器，曲山Ｃ遺跡から土師器が出土している。

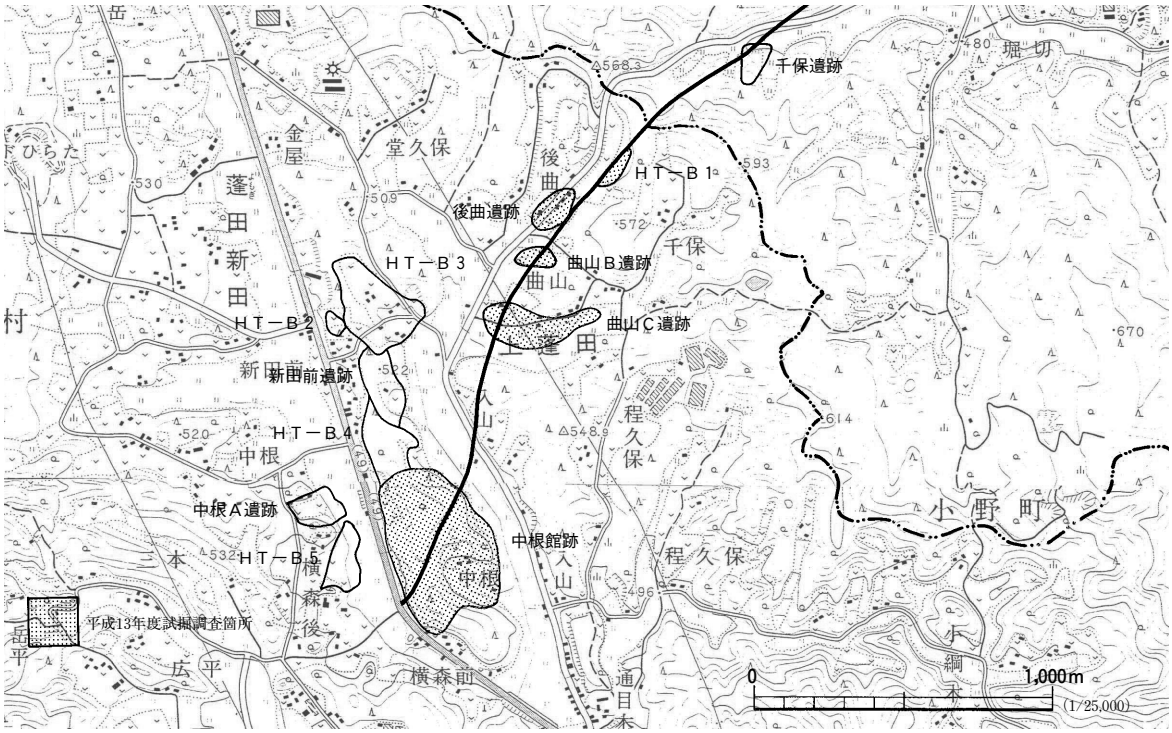


図３　平田村の遺跡

表２　平田村所在遺跡試掘調査成果一覧

No.	遺　跡　名	遺跡工区内面　　積	平成13年度調査		未試掘面積	平成13年度調査	
			調査対象面積	保存面積		検出遺構	出土遺物
1	中根館跡	26,000㎡	26,000㎡	22,000㎡	1,100㎡	土塁・平場 土坑（縄文）・焼土面	縄文土器・弥生土器 須恵器
2	後曲遺跡	3,200㎡	3,200㎡	未確定	1,000㎡		縄文土器
3	曲山Ｂ遺跡	4,400㎡	4,400㎡	0㎡	0㎡		縄文土器・土師器
4	曲山Ｃ遺跡	6,500㎡	6,500㎡	0㎡	1,800㎡	土坑（不明）	土師器・剥片
5	ＨＴ－Ｂ１	4,400㎡	4,400㎡	0㎡	0㎡		
平田村計		44,500㎡	44,500㎡	22,000㎡	3,900㎡		

［玉川村］　玉川村では，大字吉地区（３工区）に所在する宮ノ前Ａ遺跡の第３次試掘調査を実施した。平成12年度に実施した第２次試掘調査（『福島県内遺跡分布調査報告７』）では，漆器を含む木質遺物や土師器・古銭などが出土した。第２次試掘調査によって確認された遺物包含層は，当初の遺跡範囲からさらに北～東側へ広がっていることが予想された。今回の第３次試掘調査は，宮ノ前Ａ遺跡の東隣に盛土工事が計画されたために実施したものである。なお，第２次試掘調査で確定した宮ノ前Ａ遺跡の保存範囲は，平成13年４月から発掘調査を実施した（『福島空港・あぶくま南道路遺跡発掘調査報告15』）。

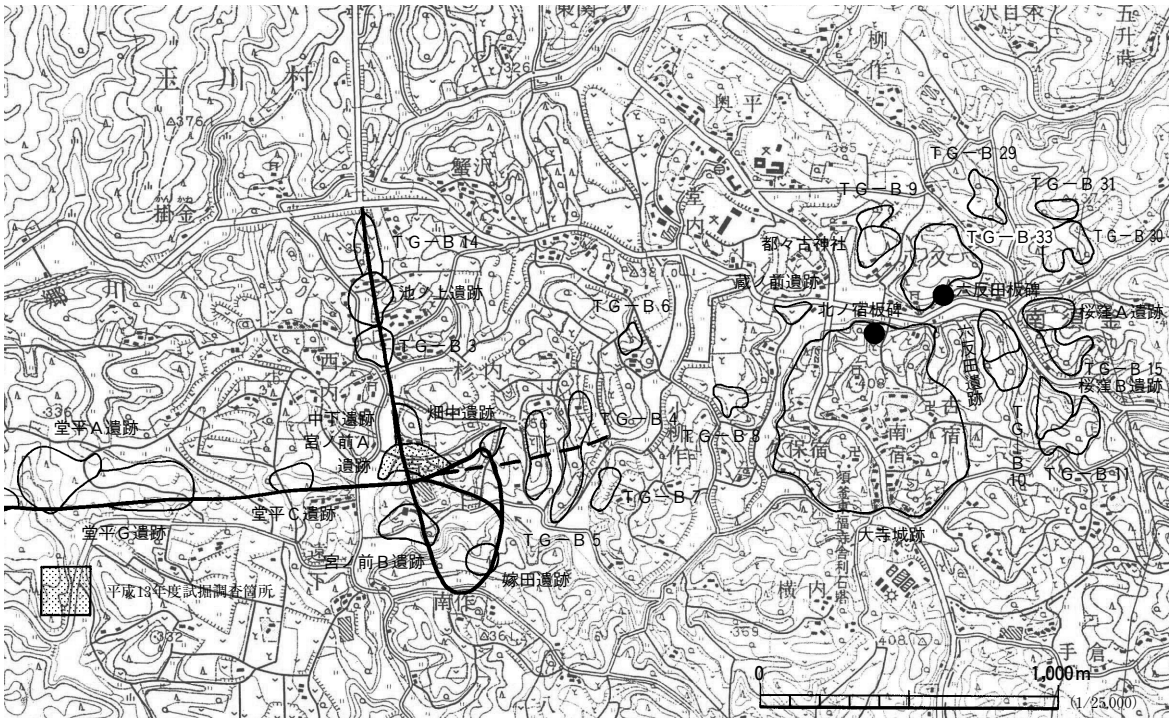


図４　玉川村の遺跡

表３　玉川村所在遺跡試掘調査成果一覧

No.	遺　跡　名	遺跡工区内面　　積	平成13年度調査		未試掘面積	平成13年度調査	
			調査対象面積	保存面積		検出遺構	出土遺物
1	宮ノ前Ａ遺跡	3,900㎡	300㎡	300㎡	0㎡	遺物包含層（平安）	土師器
玉川村計		3,900㎡	300㎡	300㎡	0㎡		

(1)　小野町の遺跡

１．黒森（くろもり）館跡

所　在　地　田村郡小野町雁股田字黒森・堀切　　**調 査 期 間**　平成13年７月４日～12日

調査対象面積　2,600㎡　　**トレンチ数**　13本　　**検 出 遺 構**　なし

保 存 面 積　０㎡　　**出 土 遺 物**　なし

［概　　要］　黒森館跡の位置は，十石川の上流と県道矢吹小野線が交差する付近である。黒森館跡は中世小野氏の居館であった可能性が推測されており（『小野町史』），遺跡南西部に館跡を示すような「堀切」という小字名が認められる。現況は山林である。

黒森館跡の地形は，十石川～県道矢吹小野線側の南～西縁部は急勾配の傾斜地となっているが，東～北部は丘陵尾根が連続するため館跡の範囲が判然としない。遺跡南西部の丘陵裾部に数段の平場が認められ，延寶六年（1678）銘の墓石が埋もれていた。丘陵頂部では，土塁・平場など人工的に造成したような痕跡はほとんど認められない。

［ま　と　め］　今回の調査区は，黒森館跡とされた範囲の西縁部である。計13本のトレンチを設定したが，館跡を裏付けるような痕跡を確認することはできなかった。また，中世以前の遺構・遺物も確認できなかった。このことから，今回の調査範囲については保存の必要がない。

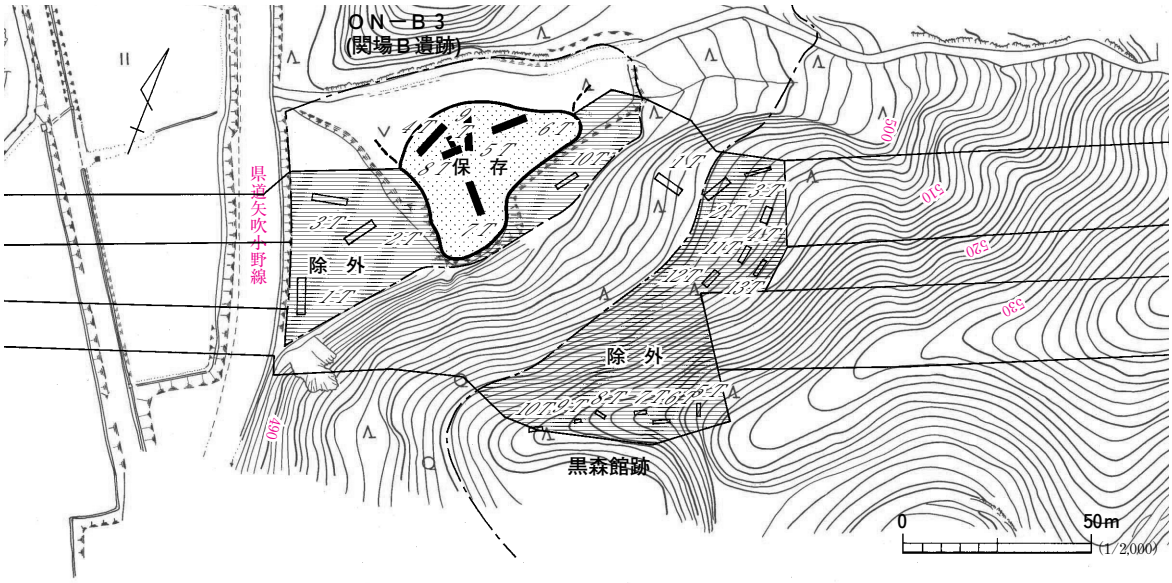


図５　黒森館跡・ＯＮ－Ｂ３（関場Ｂ遺跡）トレンチ配置図

２．ＯＮ－Ｂ３（関場（せきば）Ｂ遺跡）

所　在　地　田村郡小野町雁股田字関場

調査対象面積　2,400㎡　　**トレンチ数**　10本

保 存 面 積　1,200㎡

調 査 期 間　平成13年６月11日～28日

検 出 遺 構　遺物包含層

出 土 遺 物　縄文土器・石器・陶磁器・土人形

関場Ｂ遺跡（西から）

［概　　要］　ＯＮ－Ｂ３は，平成９年度の表面調査（『福島県内遺跡分布調査報告４』）で遺跡推定地とした場所である。ＯＮ－Ｂ３の立地は黒森館跡の西側に隣接する低地であることから，中世城館跡に関連する遺構・遺物の存在も推測された。現況は，南西向きの沢地を利用した畑地・水田である。その水田部は強湿土壌の小谷地となっている。

［遺構・遺物］　１Ｔ～３Ｔを設定した調査区西部の１段低い水田部では，遺構・遺物を確認することはできなかった。しかし，４Ｔ～９Ｔを設定した調査区中央部では，現地表面から深さ25～50cmのところで盛土層（ＬⅡ）が認められた。ＬⅡは暗褐色シルト（10ＹＲ３／３）に黄褐色シルト塊（10ＹＲ５／６）が斑状に混入し，その厚さは15～60cmである。ＬⅡ上面はほぼ水平に整地されており，４Ｔで溝跡・土坑・小穴を，９Ｔで土坑を確認した。９Ｔの土坑は，掘り込みを行ったところ底面から多量の湧水があり，井戸跡の可能性がある。ＬⅡから陶磁器類が多量に出土したが，いずれも近世以降の遺物であることからＬⅡの形成時期も近世以降であり，おそらく民家など構築する際に整地した盛土層であったと思われる。

表４　ＯＮ－Ｂ３（関場Ｂ遺跡）トレンチ一覧

トレンチ番号	検出遺構 種類(時代)	検出遺構 確認面までの深さ	検出遺構 遺構内掘込み	出土遺物(時代)	トレンチ番号	検出遺構 種類(時代)	検出遺構 確認面までの深さ	検出遺構 遺構内掘込み	出土遺物(時代)
４Ｔ	土坑・溝跡・小穴	160cm	○	縄文土器・陶磁器・鉄滓	７Ｔ				縄文土器・陶磁器
５Ｔ				縄文土器・石器・陶磁器	８Ｔ				陶磁器
６Ｔ				縄文土器・陶磁器・鉄滓	９Ｔ	土坑	60cm	○	縄文土器・陶器

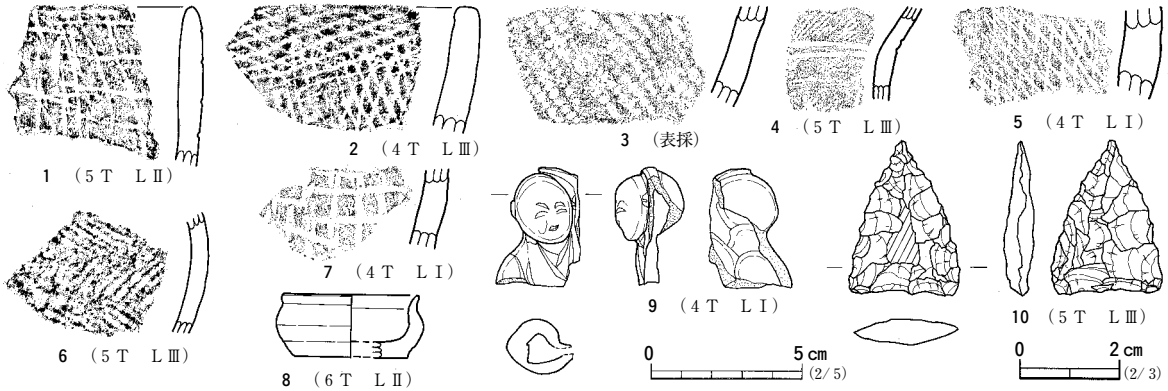


図６　ＯＮ－Ｂ３（関場Ｂ遺跡）出土遺物

次層のＬⅢはやや粘質の黒褐色シルト層（10ＹＲ２/２）で，４Ｔ～９Ｔから縄文土器・石器が出土した。図６－１～６は，いずれも晩期の粗製土器の破片である。同図－10は頁岩製の凹基石鏃である。縄文時代晩期の遺物が含まれているＬⅢの厚さは18～50cmで，現地表面から深さ70cm前後でＬⅢ上面に達する。

［ま　と　め］　今回の試掘調査によって縄文時代晩期の遺物包含層を発見し遺跡であることを確認した。遺跡範囲は，４Ｔ～９Ｔを中心とする工区内1,200㎡からさらに北側丘陵裾部の緩斜面に広がるものと考えられ，おそらくこの地点に集落を構成する竪穴住居跡等が埋没しているものと推測される。

遺跡の名称は本地点の字名から「関場Ｂ遺跡」とし，工区にかかる1,200㎡については平成13年10月から発掘調査を実施した（『福島空港・あぶくま南道路遺跡発掘調査報告16』）。

３．ＯＮ－Ｂ５（仁井殿（にいどの）遺跡）

所　在　地　田村郡小野町雁股田字仁井殿

調査対象面積　8,300㎡　　**トレンチ数**　20本

保 存 面 積　2,100㎡

調 査 期 間　平成13年９月３日～13日

検 出 遺 構　遺物包含層・土坑

出 土 遺 物　縄文土器・石器

仁井殿遺跡（西から）

［概　　要］　ＯＮ－Ｂ５は，県道矢吹小野線と町道永風線によって挟まれた丘陵の東端部にあり，その立地は概ね東西方向に延びる標高520m前後の丘陵尾根筋である。調査区中央部の標高512m付近は，尾根が低く窪んだ鞍部地形になっているため，風の流入が少ない場所となっている。現況は山林である。

［遺構・遺物］　遺構・遺物は，調査区中央部の10Ｔ・12Ｔを中心とする鞍部一帯で確認した。この鞍部付近の基本土層は，表土のＬＩが黒褐色シルト（10ＹＲ2/2），ＬⅡがにぶい黄褐色シルト（10ＹＲ4/3）～明黄褐色シルト（10ＹＲ６/６），地山としたＬⅢが明黄褐色シルト（10ＹＲ6/8）である。ＬⅡ下位の色調はＬⅢと類似しており，その区別は難しい。遺物はＬⅡ下位から縄文時代早・前期の土器・石器が出土したが（図８），早期末葉頃の貝殻条痕文系土器が最も多い。図８－５・７・８は流紋岩製，同図６は頁岩製の石鏃である。

遺構は，11Ｔから時期不明の土坑１基を確認した。また，20ＴのＬⅢ上面で直径約15cmの焼土面を確認した。20Ｔが縄文時代の遺物が最も多く出土した10Ｔと近いことから，20Ｔの焼土面は，縄文時代の遺構の可能性があり地床炉などの焚火跡と推測される。

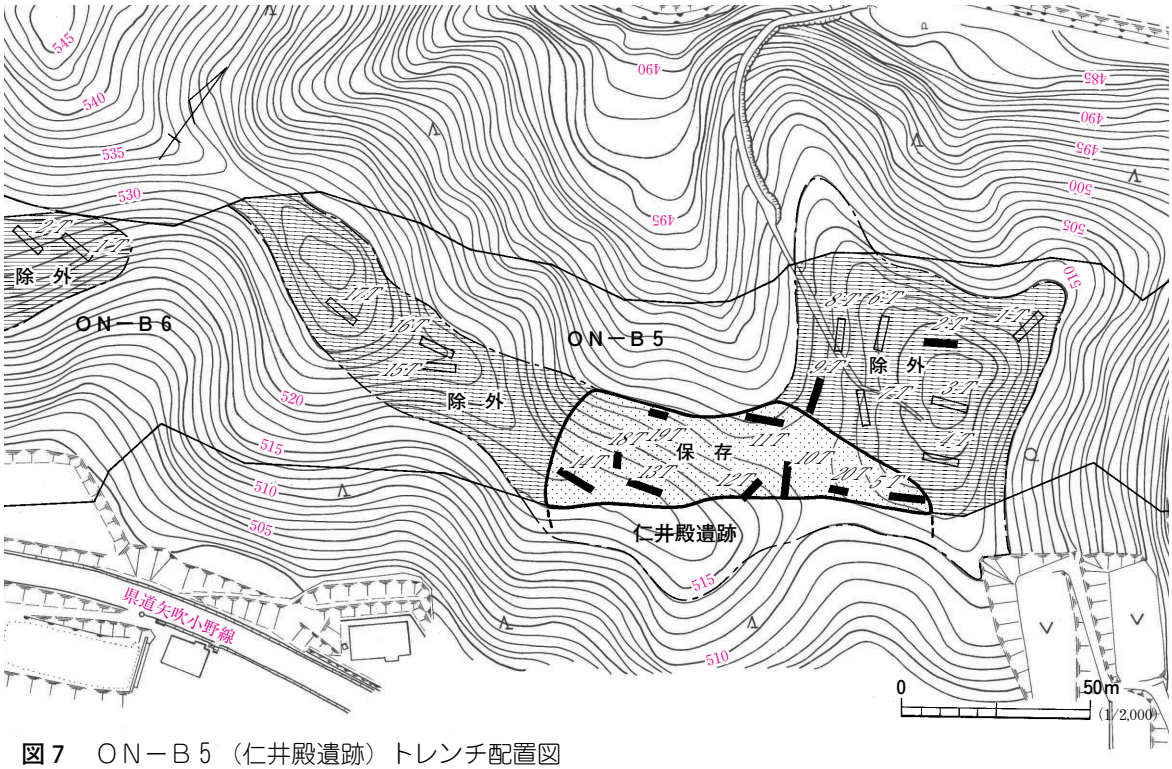


図７　ＯＮ－Ｂ５（仁井殿遺跡）トレンチ配置図

表５　ＯＮ－Ｂ５（仁井殿遺跡）トレンチ一覧

トレンチ番号	検出遺構 種類(時代)	確認面までの深さ	遺構内掘込み	出土遺物(時代)	トレンチ番号	検出遺構 種類(時代)	確認面までの深さ	遺構内掘込み	出土遺物(時代)
２Ｔ				縄文土器	13Ｔ				縄文土器
５Ｔ				縄文土器	14Ｔ				縄文土器・剥片
９Ｔ				縄文土器	18Ｔ				縄文土器・石鏃
10Ｔ				縄文土器	19Ｔ				縄文土器・石鏃
11Ｔ	土坑	17cm	○	縄文土器（早期）	20Ｔ	焼土面	20cm	×	
12Ｔ				縄文土器（早期）・石鏃					

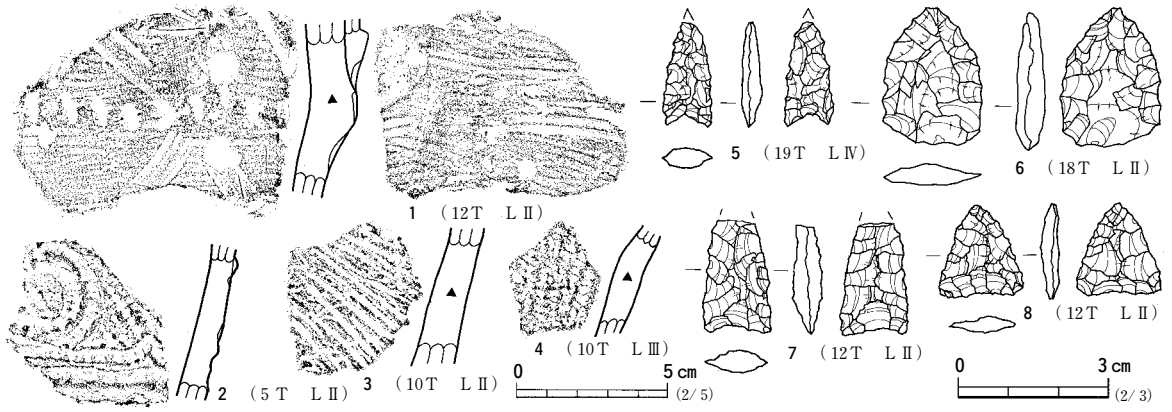


図８　ＯＮ－Ｂ５（仁井殿遺跡）出土遺物

［ま　と　め］　今回の試掘調査によって縄文時代早・前期の遺物包含層を発見し遺跡であることを確認した。遺跡範囲は調査区中央部の鞍部地形を中心とする箇所で，工区内にかかる面積は2,100㎡である。縄文時代の遺物が10Ｔ・12Ｔで最も多く出土したことから，おそらく10Ｔ・12Ｔの南側緩斜面に集落を構成する竪穴住居跡等が埋没しているものと推定される。なお，遺跡の名称は本地点の字名から「仁井殿遺跡」とした。

４．ＯＮ－Ｂ６

所　在　地　田村郡小野町雁股田字仁井殿　　**調査期間**　平成13年９月14日～19日

調査対象面積　3,400㎡　　**トレンチ数**　10本　　**検出遺構**　なし

保存面積　０㎡　　**出土遺物**　なし

［概　　要］　ＯＮ－Ｂ６は，ＯＮ－Ｂ５の西隣にあり，県道矢吹小野線に面した南向きの丘陵尾根～斜面に立地する。ＯＮ－Ｂ６の南西部は，丘陵尾根の端部が舌状に張り出しており，傾斜の緩やかな平場が広がっている。現況は山林である。

［ま　と　め］　ＯＮ－Ｂ５・Ｂ６は同一丘陵上に立地するが，ＯＮ－Ｂ６では遺構・遺物を確認することはできなかった。ＯＮ－Ｂ５（仁井殿遺跡）の鞍部地形と違って，ＯＮ－Ｂ６が風除けのない吹きさらしの地形であるため，生活の場には適さなかったためと考えられる。このため，ＯＮ－Ｂ６の調査範囲は，遺跡として取り扱わない。

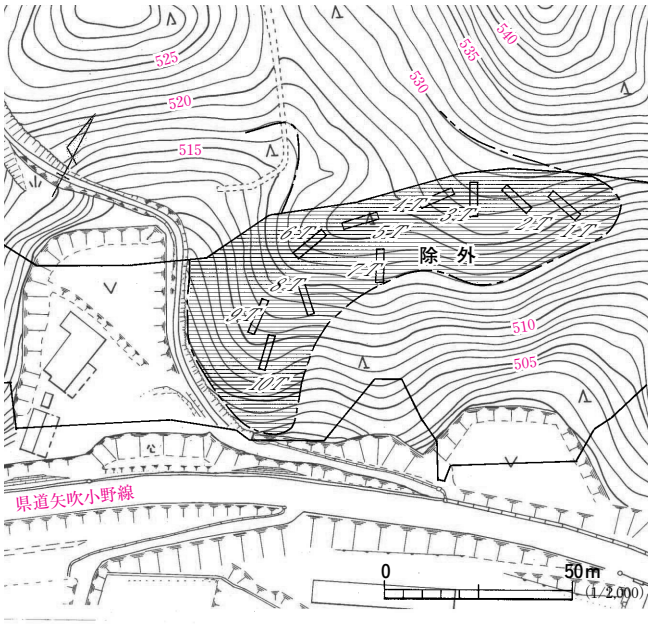


図９　ＯＮ－Ｂ６トレンチ配置図

５．ＯＮ－Ｂ７（反田（そりた）Ｂ遺跡）

所　在　地　田村郡小野町菖蒲谷字反田・鹿島

調査対象面積　5,000㎡　　**トレンチ数**　22本

保存面積　1,300㎡

調査期間　平成13年７月２日～13日

検出遺構　遺物包含層・土坑・焼土遺構

出土遺物　縄文土器・石器

反田Ｂ遺跡（東から）

［概　　要］　ＯＮ－Ｂ７は，平成13年４月に実施した表面調査で遺跡推定地とした場所である。ＯＮ－Ｂ７の地形は，扇状に開く２ヵ所の沢が東西に対面し，その中央部を狭長な谷地が北方向に延びている。現況は，調査区東・西部の扇状に開く沢が山林，調査区中央部は強湿土壌の水田である。試掘調査にはバックフォーを使用し，大石の除去や地形確認用のテストトレンチ（①～④Ｔ）の掘削を行った。

［遺構・遺物］　１Ｔ・２Ｔ・８Ｔを設定した調査区東部から，遺構・遺物を確認することはできなかった。また，10Ｔ・11Ｔを設定した調査区中央部でも遺構・遺物を確認することはできなかった。

しかし，調査区西部では，縄文時代中・晩期の土器が出土した（図11）。特に谷地沿いの15Ｔ～19Ｔで，ＬⅢとした暗褐色砂質シルト層（10ＹＲ３／３）から中期後葉～末葉の土器が多く出土した。ＬⅢの分布は５Ｔでは確認できたが，３Ｔ・12Ｔ～14Ｔ・①～③Ｔでは確認できなかった。遺構は，19Ｔで60cm×25cm範囲の焼土面と直径約１ｍの土坑を確認した。両遺構の時期は，周辺で出土した遺物から縄文時代の可能性がある。

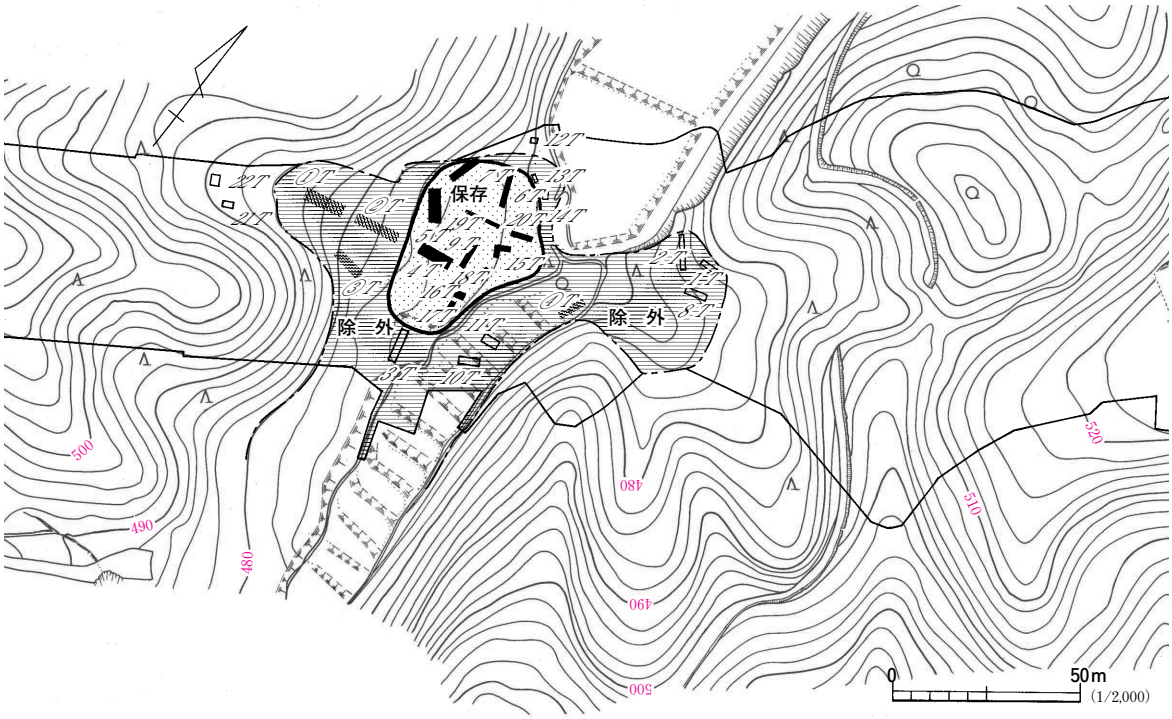


図10　ＯＮ－Ｂ７（反田Ｂ遺跡）トレンチ配置図

表６　ＯＮ－Ｂ７（反田Ｂ遺跡）トレンチ一覧

トレンチ番号	検出遺構 種類(時代)	確認面までの深さ	遺構内掘込み	出土遺物(時代)	トレンチ番号	検出遺構 種類(時代)	確認面までの深さ	遺構内掘込み	出土遺物(時代)
４Ｔ				縄文土器（晩期）	16Ｔ				縄文土器
６Ｔ				縄文土器	17Ｔ				縄文土器
９Ｔ				縄文土器	18Ｔ				縄文土器
15Ｔ				縄文土器	19Ｔ	焼土遺構・土坑	20cm	○	縄文土器

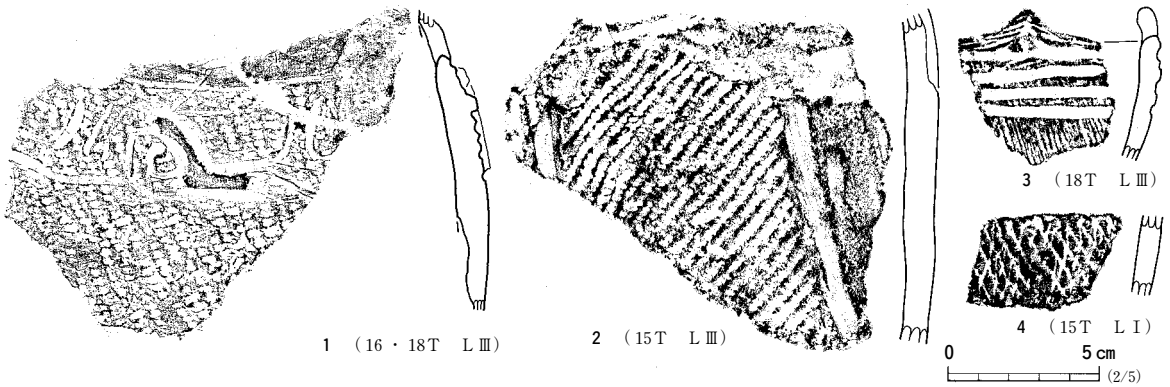


図11　ＯＮ－Ｂ７（反田Ｂ遺跡）出土遺物

［ま　と　め］　今回の試掘調査によって縄文時代中・晩期の遺物包含層を発見し遺跡であることを確認した。遺跡範囲は調査区西部の５Ｔ～15Ｔを中心とする工区内1,300㎡で，19Ｔで確認した焼土面が地床炉跡の可能性もあることから，竪穴住居跡等の遺構が埋没している可能性がある。

遺跡の名称は本地点の字名から「反田Ｂ遺跡」とし，平成13年10月から発掘調査を実施した（『福島空港・あぶくま南道路遺跡発掘調査報告16』）。

⑵　平田村の遺跡

１．中根（なかね）館跡

所　在　地　石川郡平田村大字上蓬田字中根

調査対象面積　26,000㎡　　**トレンチ数**　93本

保 存 面 積　22,000㎡以上

調 査 期 間　平成13年９月20日～11月22日

検 出 遺 構　土塁・平場・土坑

出 土 遺 物　縄文土器・弥生土器・須恵器

中根館跡（北西から）

［概　　要］　中根館跡は，平成９年度の表面調査によって発見された中世城館跡と推測される遺跡であり，図12の中根館跡概略図は，その時に作成されたものである。(『福島県内遺跡分布調査報告４』)。中根館跡は，国道49号と県道矢吹小野線の分岐点北側に位置する。中根館跡が立地する丘陵は，周囲を２条の北須川支流によって開析され，南北に長い半島状となっている。中根館跡の頂部の標高は約520ｍで，西隣の国道49号との比高は約25ｍである。

館跡の施設と考えられる遺構は主に丘陵東部で認められ，２～３重に巡る土塁状の盛土・平場など人工的に造られた地形を確認することができる。中世の蓬田新田・上蓬田地区は石川庄の北東部にあたり，田村庄・小野保と接する要害の地であったことは，同地区に所在する向舘遺跡・蓬田館跡など中世城館跡の存在からも推測される（『平田村史』)。なお，現在のところ，中根館跡に関連する文献記録や地元の伝承は確認されていない。

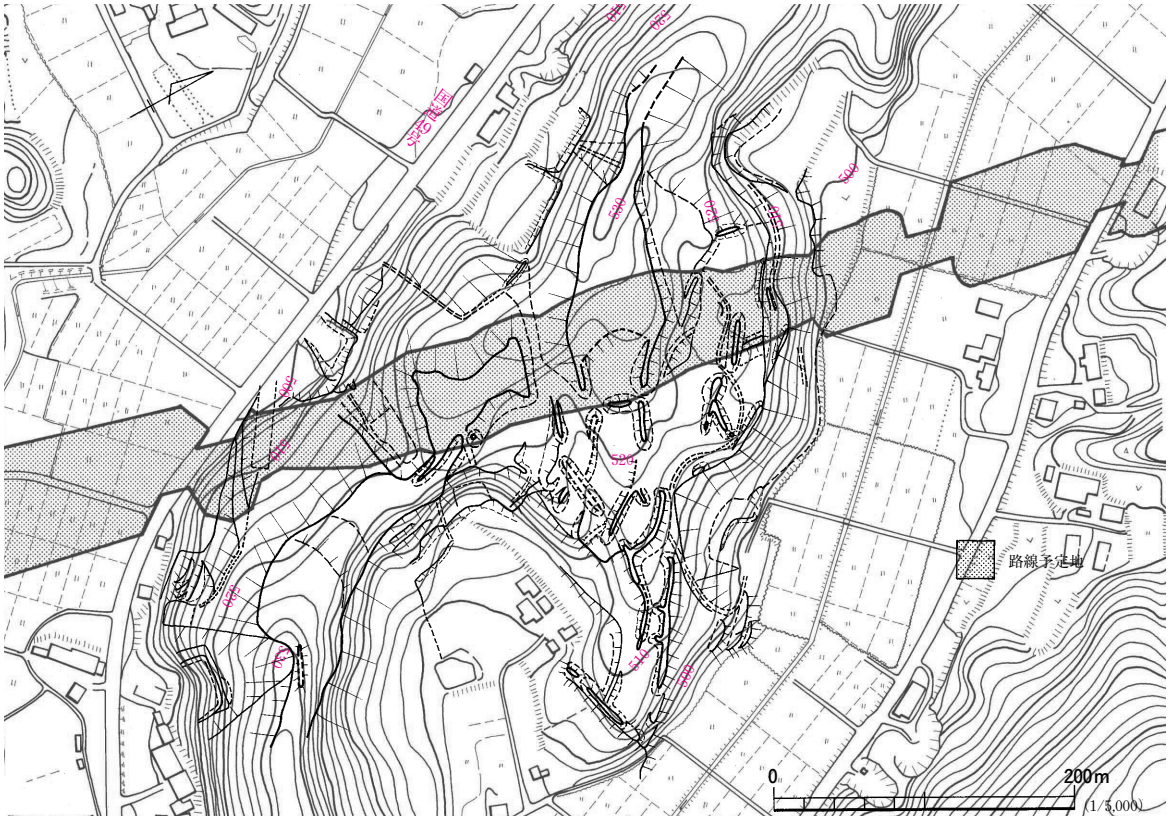


図12　中根館跡概略図

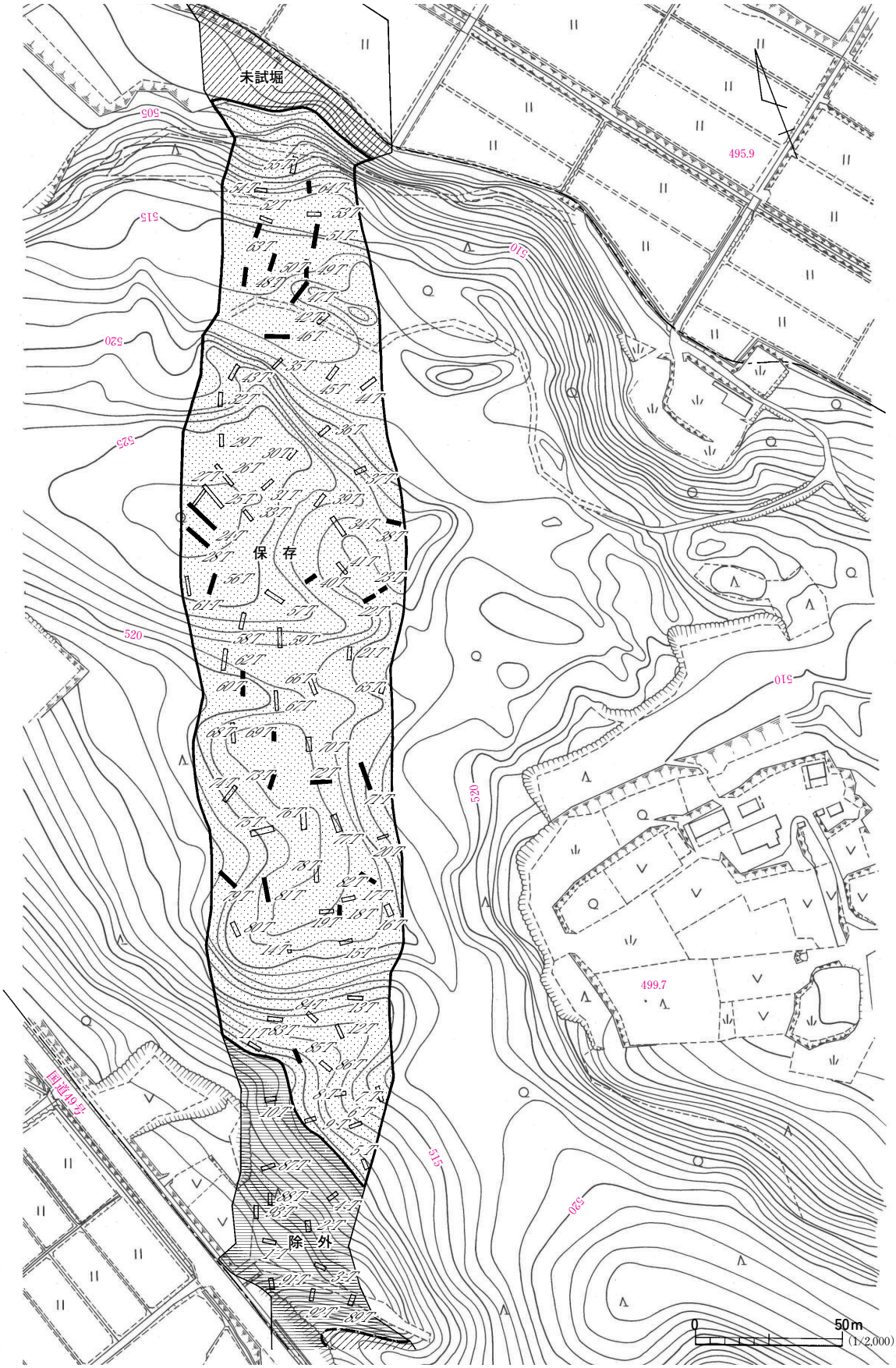


図13　中根館跡トレンチ配置図（１）

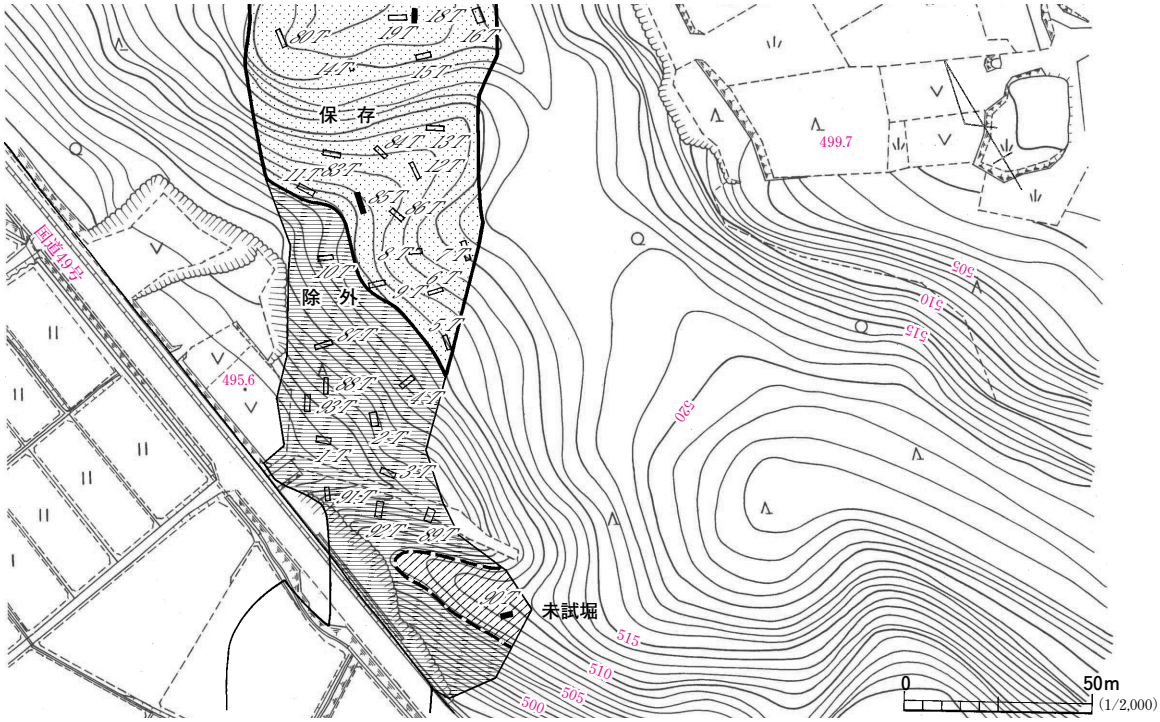


図14　中根館跡トレンチ配置図（２）

表７　中根館跡トレンチ一覧

トレンチ番号	検出遺構 種類(時代)	確認面までの深さ	遺構内掘込み	出土遺物(時代)	トレンチ番号	検出遺構 種類(時代)	確認面までの深さ	遺構内掘込み	出土遺物(時代)
18Ｔ	土坑	30cm	○		63Ｔ	平場	12cm	○	
21Ｔ	土塁状施設		×		64Ｔ				縄文土器
22Ｔ	土塁状施設	0～30cm	○		69Ｔ				縄文土器
23Ｔ	土塁状施設	8～13cm	○		71Ｔ	溝跡	18cm	○	
24Ｔ				縄文土器	72Ｔ	焼土遺構	56cm	×	
28Ｔ	土坑	25cm	○	縄文土器	73Ｔ				縄文土器
38Ｔ	土塁状施設		×		79Ｔ				縄文土器
47Ｔ	土塁状施設	0 cm	○		81Ｔ				縄文土器
49Ｔ	土塁状施設	0 cm	○		82Ｔ				須恵器
51Ｔ	平場	9 cm	○		85Ｔ				縄文土器
56Ｔ				縄文土器	89Ｔ	土坑	41cm	○	
60Ｔ	土坑	55cm	○	縄文土器	90Ｔ				弥生土器

［遺構・遺物］　中根館跡が文献記録等から確認できないことから，城館跡としての痕跡を確認するため土塁状施設の断割りを行った（22・23・47・49Ｔ）。調査区中央部の東側において，北・東・南辺を３条の土塁状施設で方形に区画された箇所があり，その南東角は約９ｍの幅で開口している。22・23Ｔをこの開口部に設定したが，土塁状施設の端部をわずかに断割った程度のため詳細は不明である。方形区画内は凹レンズ状に窪んでおり，区画内の土を周囲に盛って土塁状施設を造った可能性がある。なお，この方形区画内に設定したトレンチ（34Ｔ・39Ｔ～41Ｔ）からは，柱跡や中・近世の遺物を確認することはできなかった。

47・49Ｔは，調査区北部を東西方向に延びる土塁状施設の西端部を断割ったもので，高さ１ｍ以上の盛土施設であることを確認した。盛土は版築ではなく，全体的に各層のしまりは弱かった。なお，この土塁状施設の中央部を小道が鉤型に通過しており，くい違いの小口状となっている。

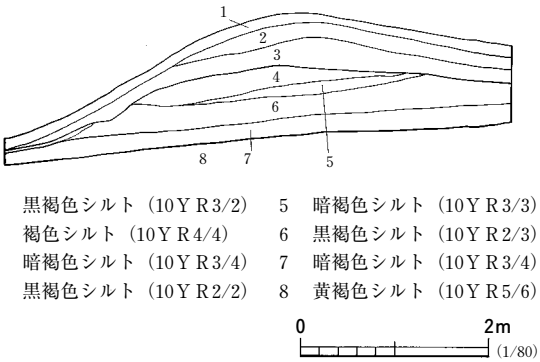


図15　63号トレンチ断面図

調査区北部に設定した51Ｔ・63Ｔにおいて，平場の端部を盛土によって整形していることを確認した。図15に63Ｔの断面図を示した。ℓ１～３とℓ５～７は盛土である。ℓ４は旧表土の可能性もあり，盛土の形成時期に時間差があった可能性がある。ℓ８は地山である。調査区内において大小の平場状地形が認められるが，各平場状地形に設定したトレンチから中・近世の遺構・遺物を確認することはできなかった。

なお，調査区南部の５Ｔ～11Ｔを結ぶ線よりも南側は，機械等によって開削された地形であると考えられる。調査区北端部の畑（800㎡）は，作付けのため調査ができなかった。中世よりも古い遺構としては，18Ｔ・60Ｔで縄文時代と考えられる落し穴状土坑を検出した。また，縄文土器が主に調査区中央部で出土した。図16－17・18の弥生土器は90Ｔから出土したものであるが，90Ｔの北西側の尾根部分（300㎡）は，樹木が密生していたために調査ができなかった。

［ま　と　め］　本遺跡は，石川庄北東部の要害の地に立地していることや，明らかに人工的に盛られた土塁状施設や平場状地形などから，現時点では城館跡であるととらえる。また，縄文・弥生時代の遺物も出土し，複合遺跡であることを確認した。今回の試掘調査による保存範囲は，開削によって保存の必要がない調査区南部（2,900㎡）と調査区北・南端の未試掘部（計1,100㎡）を除いた22,000㎡である。

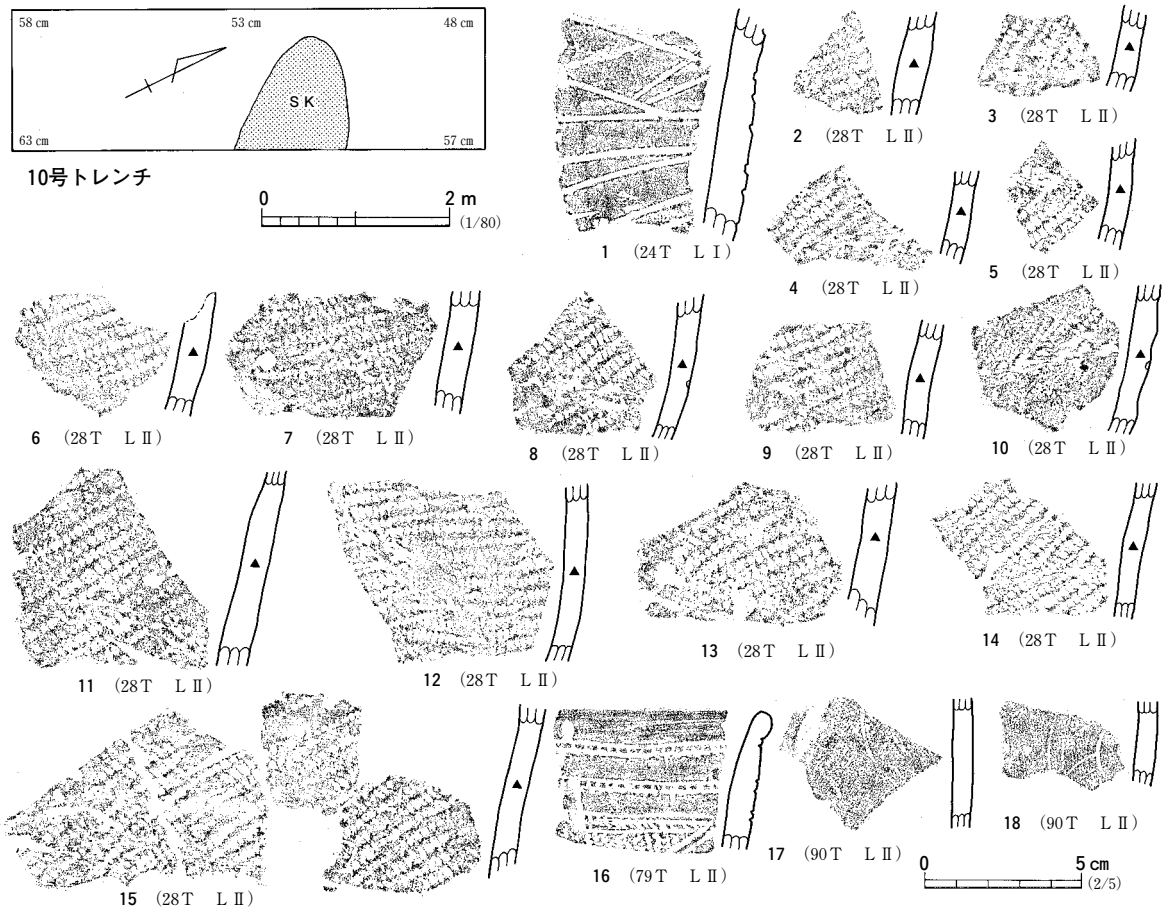


図16　中根館跡検出遺構・出土遺物

２．後曲（うしろまがり）遺跡

所　在　地　石川郡平田村大字上蓬田字後曲　　**調査期間**　平成13年12月６日～10日

調査対象面積　3,200㎡　　**トレンチ数**　７本　　**検出遺構**　なし

保存面積　未確定　　**出土遺物**　縄文土器

［概　　要］　後曲遺跡は，平成９年度の表面調査で発見され，奈良～平安時代頃の土師器が採取されている。調査区北～中央部に計７本のトレンチを設定し，３Ｔ・７Ｔから縄文時代早期後葉頃の土器が出土した。しかし，調査区南部の畑地（1,000㎡）は，作物の栽培が行われていたために試掘調査を実施することができなかった。

［ま　と　め］　調査区中央部に設定した３Ｔ・７Ｔで縄文土器が出土していることから，調査区南部1,000㎡の試掘調査の結果により保存範囲を確定する。

３．曲山（まがりやま）Ｂ遺跡

所　在　地　石川郡平田村大字上蓬田字曲山　　**調査期間**　平成13年11月26日～30日

調査対象面積　4,400㎡　　**トレンチ数**　13本　　**検出遺構**　なし

保存面積　０㎡　　**出土遺物**　縄文土器・土師器

［概　　要］　曲山Ｂ遺跡は，後曲遺跡の南西側約150ｍの所に位置しており，平成９年度の表面調査では縄文土器が採取されている。今回の調査区は，丘陵裾部を利用した牧草地である。調査区内に計13本のトレンチを設定したが，遺構は確認できなかった。遺物は１Ｔから平安時代の土師器の甕片が，９Ｔから縄文土器片が出土しているが，いずれも盛土内に含まれていた。

［ま　と　め］　試掘調査の結果，調査区全域が大規模に土地改変されており，旧地形は既に失われていた。このことから，今回の調査範囲ついては保存の必要はない。

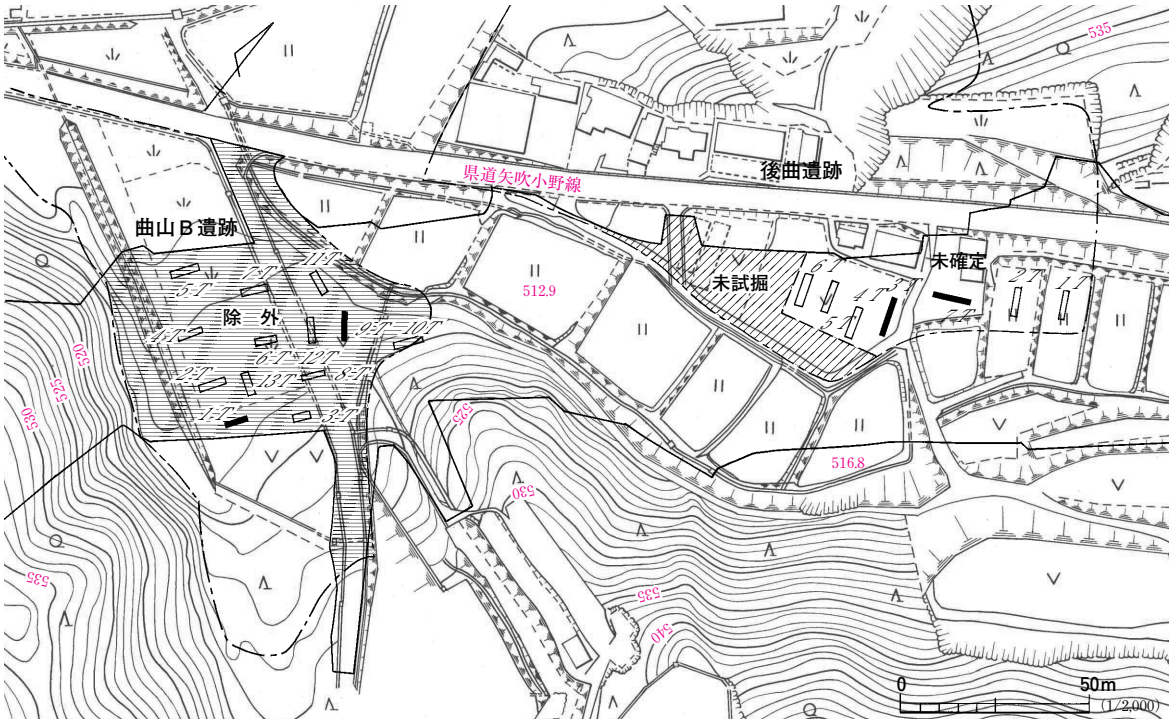


図17　後曲遺跡・曲山Ｂ遺跡トレンチ配置図

４．曲山（まがりやま）Ｃ遺跡

所　在　地　石川郡平田村大字上蓬田字曲山

調査対象面積　6,500㎡　　**トレンチ数**　14本

保 存 面 積　未確定

調 査 期 間　平成13年12月３日～７日

検 出 遺 構　なし

出 土 遺 物　土師器・石器剥片

10Ｔ作業風景

［概　　要］　曲山Ｃ遺跡は，平成９年度の表面調査によって発見され，奈良～平安時代頃の遺物の散布地として登録された遺跡である。曲山Ｃ遺跡の立地は，西方向の支谷と南西方向の小支谷が合流する丘陵裾部～沖積地である。現況は，調査区北半部の丘陵裾部が庭木等の園芸林・畑地，調査区南部の沖積地が水田である。

［遺構・遺物］　今回の試掘対象区の内，調査区北部の園芸林（1,800㎡）は，庭木栽培のため調査を実施することができなかった。調査区中央部の畑には計７本のトレンチを設定したが，１Ｔ～４Ｔ付近は，開墾等による削平を受けて旧地形が失われていたことを確認した。

遺物は，２Ｔで時期不明の土師器片１点が，３Ｔで頁岩製の小剥片１点がいずれも表土中から出土した。遺構は，５Ｔで土坑を２基検出した。しかし，両土坑の掘り込みが表土中で行われていることがトレンチ断面から確認できたため，いずれも現代の撹乱坑と判断した。

調査区南半部の水田に８Ｔ～13Ｔを設定した。同水田部では，旧地形は失われていなかったが，遺構・遺物を確認することはできなかった。また，調査区北端部に設定した14Ｔ付近は開削されており，遺構・遺物を確認することはできなかった。

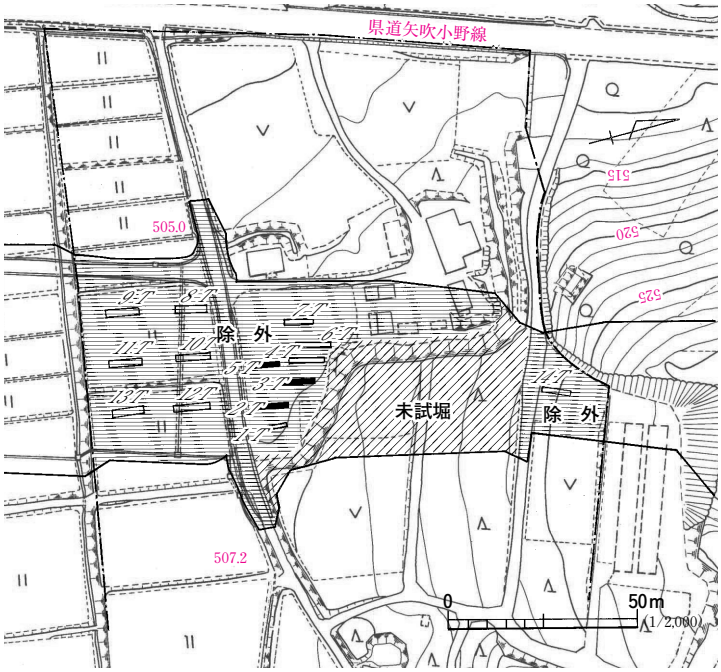


図18　曲山Ｃ遺跡トレンチ配置図

［ま　と　め］　調査区北半部の園芸林の箇所（1,800㎡）が未試掘のため，現時点では保存面積を確定することができない。この未試掘部1,800㎡の範囲は，周辺より１段高くなっているため，１Ｔ～４Ｔ付近の畑とは異なって旧地形が遺存している可能性がある。

しかし，今回，トレンチを設定することができた計4,700㎡の範囲については，遺構・遺物が明確に認められなかったため保存の必要はない。

表８　曲山Ｃ遺跡トレンチ一覧

トレンチ番号	検出遺構 種類(時代)	検出遺構 確認面までの深さ	検出遺構 遺構内掘込み	出土遺物(時代)	トレンチ番号	検出遺構 種類(時代)	検出遺構 確認面までの深さ	検出遺構 遺構内掘込み	出土遺物(時代)
２Ｔ				土師器	３Ｔ				剥片

５．ＨＴ－Ｂ１

所　在　地　石川郡平田村大字上蓬田字後曲　　**調査期間**　平成13年12月７日～17日

調査対象面積　4,400㎡　　**トレンチ数**　16本　　**検出遺構**　なし

保存面積　０㎡　　**出土遺物**　なし

［概　　要］　ＨＴ－Ｂ１は，平成９年度の表面調査で遺跡推定地とした場所である。ＨＴ－Ｂ１の立地は南西向きの丘陵斜面で，現況は山林・畑である。調査区中央部の畑は，テラス状に張り出す平場地形となっている。

［ま　と　め］　試掘調査の結果，今回の調査区全域は，重機によって大規模に土地改変されていたことが判り，旧地形は既に失われていた。また，いずれのトレンチからも遺構・遺物を確認することはできなかった。このため，ＨＴ－Ｂ１の調査範囲は，遺跡として取り扱わない。

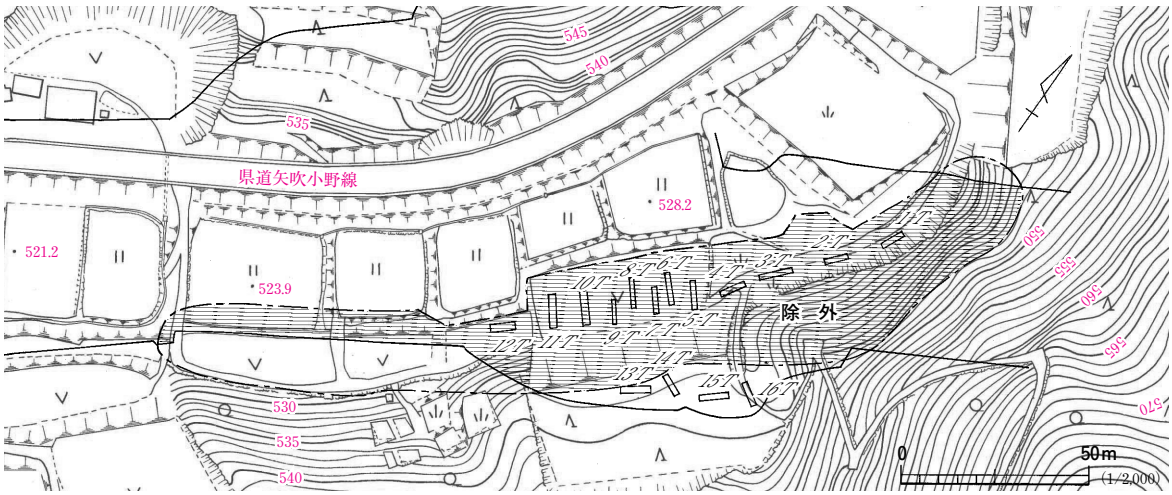


図19　ＨＴ－Ｂ１トレンチ配置図

(3)　玉川村の遺跡

１．宮ノ前Ａ遺跡（第３次試掘調査）

所　在　地　石川郡玉川村大字吉字宮ノ前

調査対象面積　300㎡　　**トレンチ数**　１本

保存面積　300㎡

調査期間　平成13年４月17日・18日

検出遺構　遺物包含層

出土遺物　土師器

宮ノ前Ａ遺跡（南から）

［概　　要］　平成11年度に第１次試掘調査（『福島県内遺跡分布調査報告６』），平成12年度に第２次試掘調査（『福島県内遺跡分布調査報告７』）を実施した。第２次試掘調査によって宮ノ前Ａ遺跡の範囲が北側丘陵裾部まで広がることが予想され，今回の第３次試掘調査は，宮ノ前Ａ遺跡の北東隣部分（300㎡）に盛土造成が行われることになったため，９Ｔを設定して遺跡範囲の確認調査を実施したものである。現況は畑である。

［遺構・遺物］　第１次試掘調査では，遺跡南西部に１Ｔ・２Ｔを設定したが遺構・遺物は確認できなかった。第２次試掘調査では，遺跡中央部に３Ｔ～８Ｔを設定した。その結果，強湿土壌の谷水田に設定した７Ｔ・

図20　宮ノ前Ａ遺跡トレンチ配置図

表９　宮ノ前Ａ遺跡トレンチ一覧

トレンチ番号	検出遺構			出土遺物（時代）
	種類(時代)	確認面までの深さ	遺構内掘込み	
９Ｔ	遺物包含層(平安)			土師器

８Ｔから漆器・曲物などの木製品，土師器，元豊通寶などが出土し，遺物包含層が形成されていることを確認した。第２次試掘調査によって確定した保存範囲については，北隣の中下遺跡とともに平成13年４月から発掘調査を実施した（『福島空港・あぶくま南道路遺跡発掘調査報告15』）。

今回の第３次試掘調査で設定した９Ｔは，谷筋と直交する方向に配した。９Ｔの堆積土は砂層と粘土層の互層となっており，水成堆積の様相を呈していた。遺物は，ＬⅣとしたオリーブ灰色砂質シルト層（５ＧＹ６／１）に平安時代頃の土師器が含まれていた。ＬⅣの厚さは40cm前後である。地表面からＬⅣ上面までの深さは約120cmである。

［ま　と　め］　９Ｔの調査の結果，平安時代の遺物包含層を検出し，宮ノ前Ａ遺跡の範囲が北東側に広がることを確認した。この平安時代の遺物は，北側の丘陵南斜面裾部付近から流れ込んできたものと考えられる。なお，今回の調査範囲300㎡については盛土保存を行った。

第２節　こまちダム建設予定地

平成11年度に実施された表面調査の結果（『福島県内遺跡分布調査報告６』）を受け，平成12年度からこまちダム建設予定地内の遺跡・遺跡推定地の試掘調査を開始した。こまちダム建設予定地は，小野町菖蒲谷字西田・堂田・反田地区，同町雁股田字沢目木地区の黒森川流域であり，ダムサイトが予定されている堂田・反田地区は，谷の両岸が狭くＶ字状に切れ込んだ地形となっている。一方，西田・沢目木地区は谷幅が80m前後と広がり，水田地帯となっている。

平成12年度の試掘調査では，Ｂ６（堂田Ａ遺跡）で縄文時代・平安時代の竪穴住居跡を，Ｂ９（沢目木遺跡）で縄文時代の遺物包含層を確認した（『福島県内遺跡分布調査報告７』）。平成13年度の試掘調査は，計７ヵ所の遺跡・遺跡推定地（表10）について実施した。その結果，西田地区所在の遺跡推定地Ｂ８で縄文時代の竪穴住居跡・土坑などを確認し，名称を西田Ｈ遺跡とした。

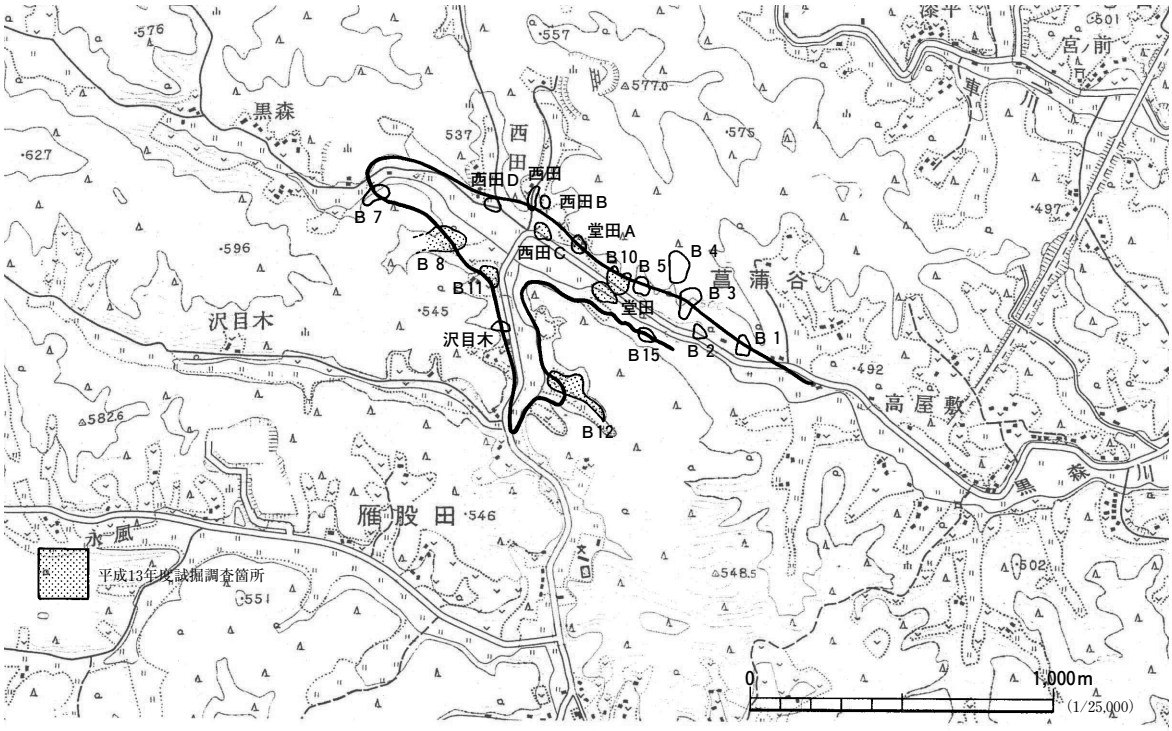


図21　小野町の遺跡

表10　小野町所在遺跡試掘調査成果一覧

No.	遺　跡　名	遺跡工区内面　　積	平成13年度調査		未試掘面積	平成13年度調査	
			調査対象面積	保存面積		検出遺構	出土遺物
1	堂田Ａ遺跡	800㎡	600㎡	600㎡	0㎡	住居跡（平安）	縄文土器･土師器･須恵器
2	Ｂ８(西田Ｈ遺跡)	9,000㎡	7,400㎡	7,400㎡	1,600㎡	住居跡・石囲炉	縄文土器･土師器･石器
3	西田Ｃ遺跡	2,000㎡	2,000㎡	0㎡	0㎡		縄文土器
4	堂田遺跡	2,800㎡	2,800㎡	0㎡	0㎡		
5	Ｂ10	4,000㎡	4,000㎡	0㎡	0㎡		縄文土器
6	Ｂ11	1,300㎡	1,300㎡	0㎡	0㎡		縄文土器
7	Ｂ12	4,100㎡	4,100㎡	0㎡	0㎡		縄文土器・石器
小野町計		24,000㎡	22,200㎡	8,000㎡	1,600㎡		

１．堂田（どうでん）Ａ遺跡（第２次試掘調査）

所　在　地　田村郡小野町菖蒲谷字堂田

調査対象面積　600㎡　　**トレンチ数**　４本

保 存 面 積　600㎡（累計800㎡）

調 査 期 間　平成13年５月30日～６月１日

検 出 遺 構　竪穴住居跡・焼土遺構

出 土 遺 物　縄文土器・土師器・須恵器

堂田Ａ遺跡（南西から）

［概　　要］　堂田Ａ遺跡は，平成12年度に第１次試掘調査を実施し，２Ｔから平安時代の竪穴住居跡を，３Ｔから縄文時代の竪穴住居跡を検出し，縄文・平安時代の複合遺跡であることを確認した。今回の第２次試掘調査は，堂田Ａ遺跡付近の県道矢吹小野線の付け替え予定地が南側に変更されたために実施した。

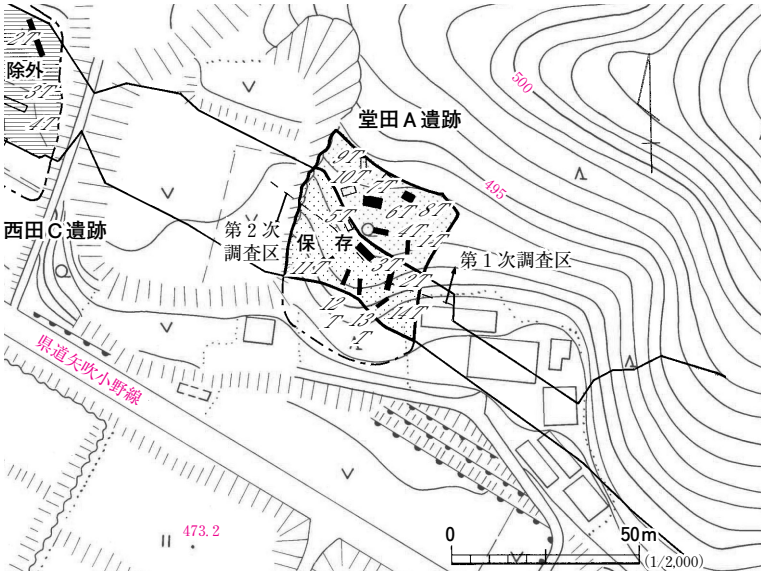


図22　堂田Ａ遺跡トレンチ配置図

堂田Ａ遺跡の立地は，黒森川に面した南向き丘陵斜面の裾部である。現況は山林である。

［遺構・遺物］　今回の第２次試掘調査で設定したトレンチは，11Ｔ～14Ｔである。遺構は，調査区西端部の11Ｔで平安時代の竪穴住居跡を検出した。トレンチによって竪穴住居跡の東壁と床面の一部を掘り抜き，薄く施された貼床や壁の立ち上がりを確認し，また土師器杯・甕などの遺物も出土した。

13Ｔでは，厚さが１ｍを越える再堆積層（にぶい黄褐色シルト：10ＹＲ４／３）の下から直径約20㎝の焼土面を確認し，その傍から縄文時代早期末葉頃の土器片が出土した。焼土面から約１ｍ北側のところで５㎝程度の段差が認められたため，この焼土面は縄文時代早期頃の竪穴住居跡に伴う地床炉と推定される。図23－１・２は，平安時代の土師器杯・甕である。同図３～５は，縄文時代早期末葉の貝殻条痕文系土器である。

［ま　と　め］　今回の調査区600㎡において縄文時代と平安時代の遺構・遺物が認められ，第１次試掘調査で確認した縄文・平安時代の集落跡が第２次調査区全域まで広がっていることが判明した。堂田Ａ遺跡は縄文・平安時代の複合遺跡であるが，両文化層の間に１ｍ以上の厚い土砂が堆積している。なお，発掘調査が必要な範囲は，第１・２次試掘調査区と県道矢吹小野線の付け替え予定地が重なる800㎡である。

表11　堂田Ａ遺跡トレンチ一覧

トレンチ番号	検出遺構 種類(時代)	検出遺構 確認面までの深さ	検出遺構 遺構内掘込み	出土遺物(時代)	トレンチ番号	検出遺構 種類(時代)	検出遺構 確認面までの深さ	検出遺構 遺構内掘込み	出土遺物(時代)
11Ｔ	住居跡（平安）	29cm	○	土師器・縄文土器(早期)	13Ｔ	焼土面	169cm	×	土師器・縄文土器(早期)
12Ｔ				土師器・須恵器	14Ｔ				土師器

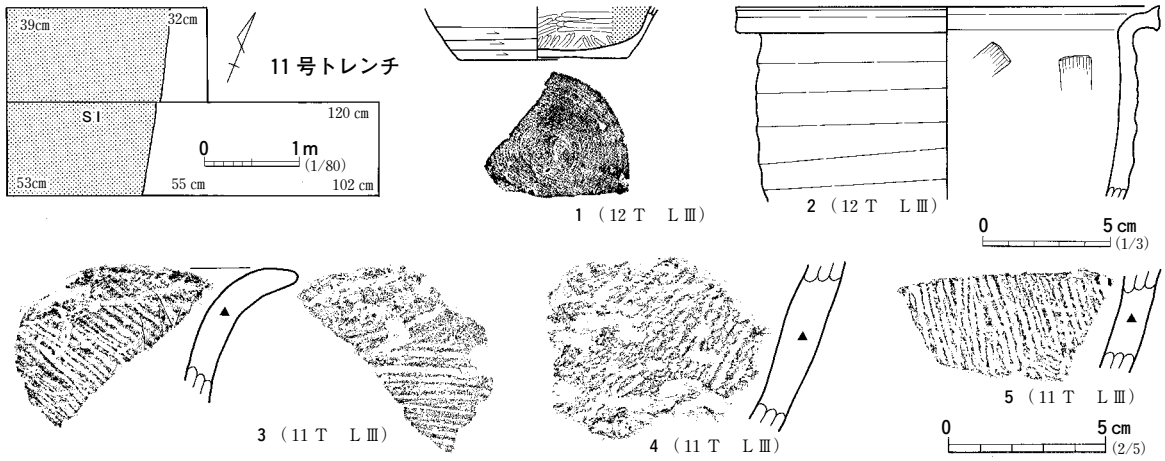


図23　堂田Ａ遺跡検出遺構・出土遺物

２．Ｂ８（西田（にしだ）Ｈ遺跡）

所　在　地　田村郡小野町菖蒲谷字西田

調査対象面積　7,400㎡　　**トレンチ数**　35本

保 存 面 積　7,400㎡以上

調 査 期 間　平成13年４月23日～５月11日
　　６月21日～７月４日

検 出 遺 構　竪穴住居跡・石囲炉・土坑

出 土 遺 物　縄文土器・石器・土師器

西田Ｈ遺跡（西から）

［概　　要］　Ｂ８は，平成11年度の表面調査で遺跡推定地とした場所である。Ｂ８の立地は東方向へ舌状に張り出した丘陵であり，その北縁を黒森川が東流している。Ｂ８の現況は，南東部の水田を除く大半が山林である。

［遺構・遺物］　Ｂ８の基本土層は，調査区範囲が丘陵頂部～裾部に及ぶため一様ではない。丘陵斜面の裾部に設定した１Ｔは，表土層のＬⅠから地山のＬⅤまで計５層に分けることができた（図25）。ＬⅡからは縄文時代晩期の土器・石器が，ＬⅢ・Ⅳから早・前期の土器が出土している。丘陵斜面の裾部で検出した遺構は，３Ｔの石囲炉がある。石囲炉の検出面はＬⅢ中面で，現地表面からの深さは約40cmであるが，竪穴住居跡に伴う炉の可能性もある。３Ｔでは縄文時代晩期中葉頃の土器が出土している（図27－19・21）。

丘陵斜面の中腹部では，15・16・18・21Ｔから土坑を検出した。各土坑の遺構検出面はＬⅣ上面である。18Ｔで検出した３基の土坑の内，中央部のものについて掘り込みを行ったが，底面はほぼ水平に造られていた。また，15Ｔで検出した土坑の底から焼土面が確認されており，平面の長さが２ｍを越える土坑は縄文時

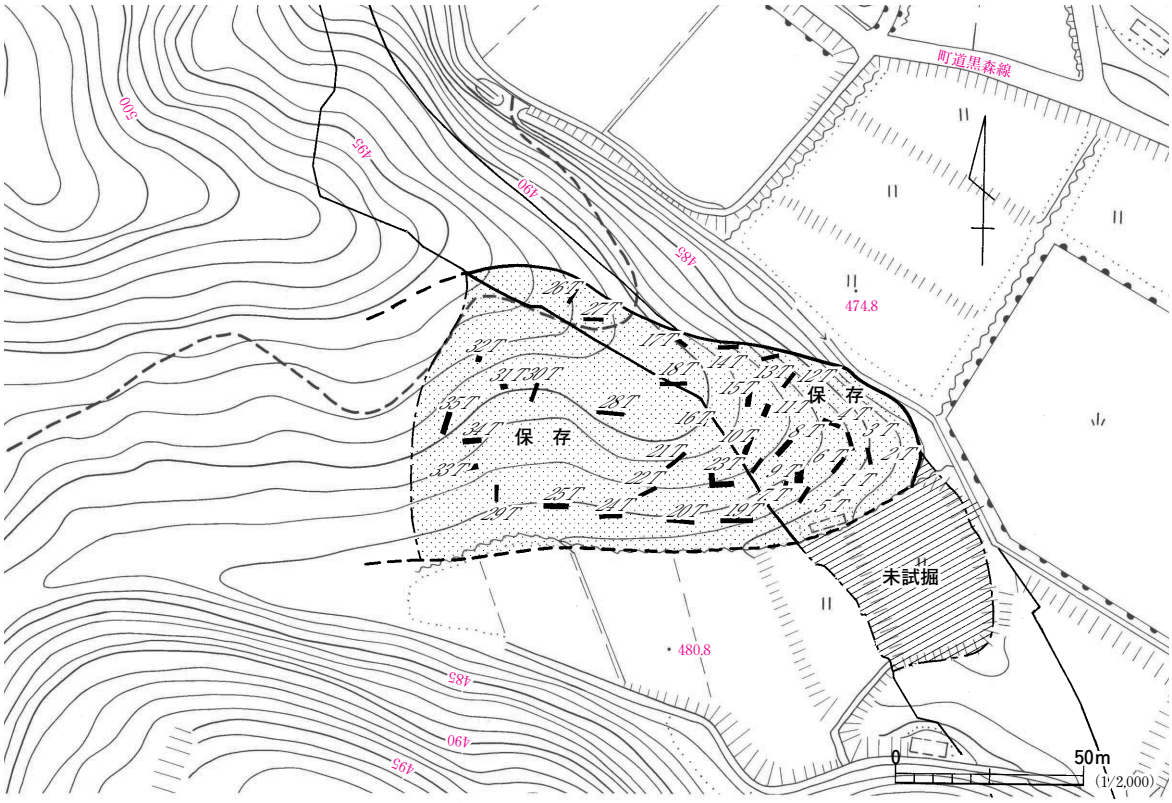
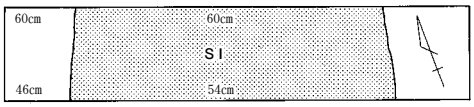


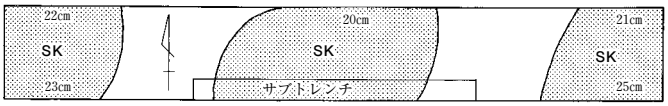
図24　Ｂ８（西田Ｈ遺跡）トレンチ配置図

表12　Ｂ８（西田Ｈ遺跡）トレンチ一覧

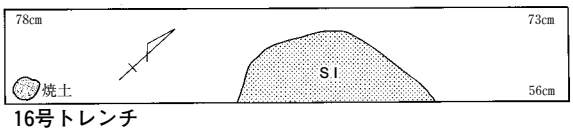
トレンチ番号	検出遺構 種類(時代)	確認面までの深さ	遺構内掘込み	出土遺物(時代)	トレンチ番号	検出遺構 種類(時代)	確認面までの深さ	遺構内掘込み	出土遺物(時代)
1Ｔ				縄文土器(早･前･晩期)･石鏃	19Ｔ				縄文土器（早期）
2Ｔ				縄文土器	20Ｔ				縄文土器（早・前期）
3Ｔ	石囲炉（晩期）	42cm	○	縄文土器（晩期）	21Ｔ	土坑	32cm	×	縄文土器（早期）
4Ｔ				縄文土器(早･前･晩期)･石鏃	22Ｔ				縄文土器
5Ｔ				縄文土器(早･晩期)･石鏃	23Ｔ				縄文土器（早期）・土師器
6Ｔ	小穴	68cm	×	縄文土器(早･晩期)･土師器	24Ｔ				縄文土器（早期）
7Ｔ				縄文土器（早・晩期）	25Ｔ				縄文土器（早期）・石鏃
8Ｔ				縄文土器（早期）・石器	26Ｔ				縄文土器（前期）
9Ｔ				縄文土器(早･後期)･土師器	27Ｔ	住居跡（晩期）	30cm	○	縄文土器(早･前･晩期)･剥片･土師器
10Ｔ				縄文土器（早期）・石器	28Ｔ	焼土面	30cm	×	縄文土器（晩期）
11Ｔ	焼土面	47cm	×	縄文土器（早期）	29Ｔ				縄文土器（前・晩期）
12Ｔ				縄文土器（早期）	30Ｔ				縄文土器（前期）
13Ｔ				縄文土器（早期）	31Ｔ	焼土面	57cm	×	縄文土器・土師器
14Ｔ				縄文土器（早・前期）	32Ｔ				縄文土器（前期）
15Ｔ	焼土面	42cm	×	縄文土器（早期）	33Ｔ				縄文土器（早期）
16Ｔ	土坑・焼土面	36cm	○	縄文土器（早・前期）	34Ｔ				縄文土器（早期）
17Ｔ				縄文土器（早・前期）	35Ｔ				縄文土器（早期）
18Ｔ	土坑（早期）	20cm	○	縄文土器（早期）					



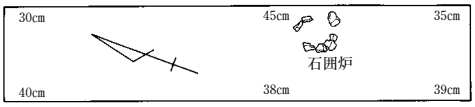
27号トレンチ



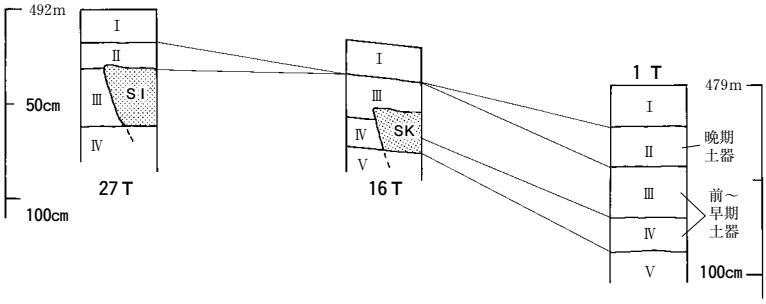
18号トレンチ

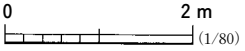


16号トレンチ



3号トレンチ





1号トレンチ堆積土

ＬⅠ　黒褐色シルト（10ＹＲ3/2）
ＬⅡ　黒色シルト（10ＹＲ2/1）
ＬⅢ　黒褐色シルト（10ＹＲ3/1）
ＬⅣ　黄灰色砂質シルト（2.5Ｙ 5/1）
ＬＶ　明黄褐色砂質シルト（2.5Ｙ 7/6）

図25　Ｂ８（西田Ｈ遺跡）検出遺構・土層柱状図

18Ｔ遺構検出状況（西から）

３Ｔ石囲炉（北西から）

代の竪穴住居跡の可能性がある。各土坑の時期は，16Ｔの断面観察や出土遺物などから縄文時代早期後半頃の可能性がある。丘陵頂部では27Ｔで縄文時代晩期の竪穴住居跡を確認し，部分的に掘り込みを行った。その結果，壁の立ち上がりや床面の一部を確認し，また，床面から図27－24の土器が出土した。

遺物は，調査区内に設定した35本のすべてのトレンチから出土しており，出土量が最も多いのは縄文時代早期後半の貝殻沈線文・条痕文系土器である（図26－２～11，図27－１～10）。図26－１は，縄文時代早期前葉の押型文系土器である。図26－２～５は常世式である。縄文時代前期初頭頃の土器も少量だが出土している（図27－11～17・23）。図27－27は５Ｔで出土した平安時代の土師器甕であるが，６Ｔ・９Ｔ・23Ｔ等でも出土しており，同時代の遺構が調査区内に埋没している可能性がある。

［ま　と　め］ 今回の調査区全域において，縄文時代早・前・晩期の遺構・遺物が比較的濃密に分布しており遺跡であることを確認した。このことから，調査範囲7,400㎡は保存が必要である。また，縄文時代晩期の遺構・遺物は低湿地から確認されることも多いことなどから，当初設定したＢ８の範囲がさらに南側の水田部にまで広がる可能性が出てきたため，調査区南東側の水田部（1,600㎡）も試掘調査が必要である。なお，遺跡推定地Ｂ８の名称は，本地点の字名から「西田Ｈ遺跡」とした。

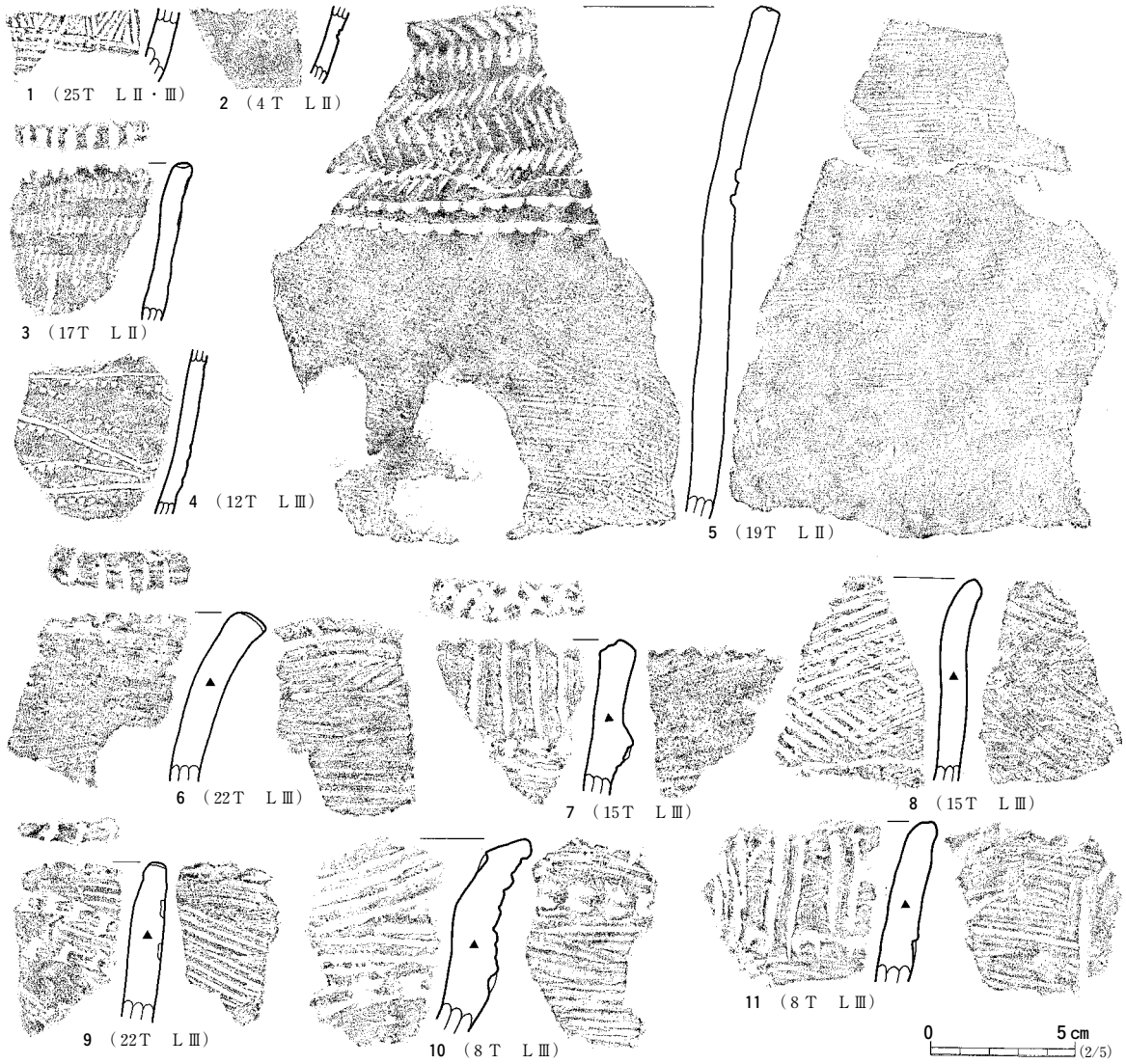


図26　Ｂ８（西田Ｈ遺跡）出土遺物（１）

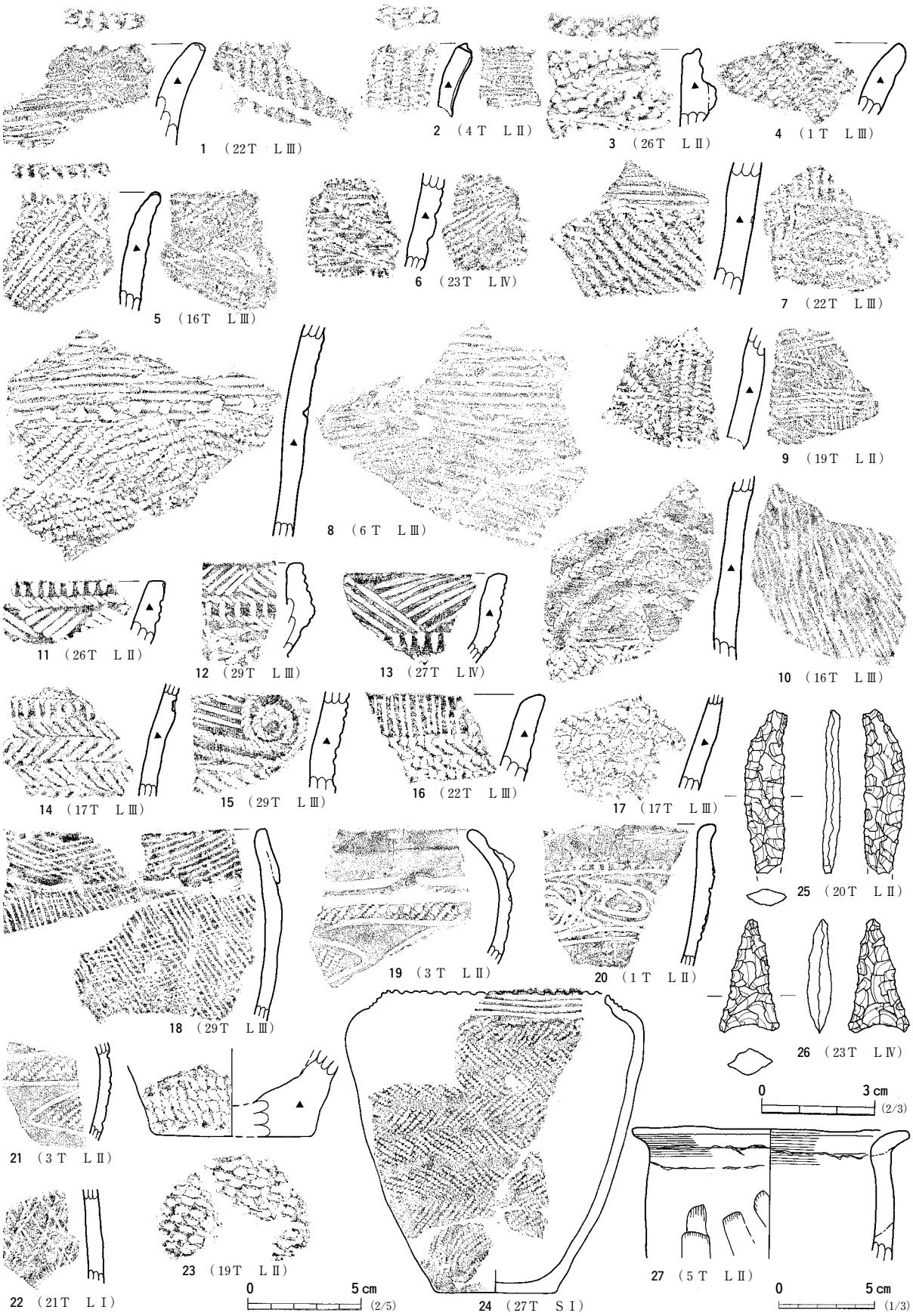


図27　Ｂ８（西田Ｈ遺跡）出土遺物（２）

３．西田（にしだ）Ｃ遺跡

所　在　地　田村郡小野町菖蒲谷字西田　　**調査期間**　平成13年５月９日～11日

調査対象面積　2,000㎡　　**トレンチ数**　５本　　**検出遺構**　なし

保存面積　０㎡　　**出土遺物**　縄文土器・土師器

［概　　要］　西田Ｃ遺跡は，平成10年度に実施された表面調査によって発見されたもので，縄文土器が採取されている（小野町教育委員会『こまちダム関連遺跡群分布調査報告書』）。西田Ｃ遺跡の立地は南方向に延びる狭長な開析谷であり，現況は水田である。本遺跡の東側約100ｍのところに堂田Ａ遺跡がある。

［ま　と　め］　試掘調査の結果，１Ｔ・２Ｔから縄文土器・土師器の小片が出土した。しかし，いずれの土器も表面が摩滅しており，他所から流れ込んできたものと考えられる。遺構も確認できなかった。このことから，今回の調査範囲については保存の必要はない。

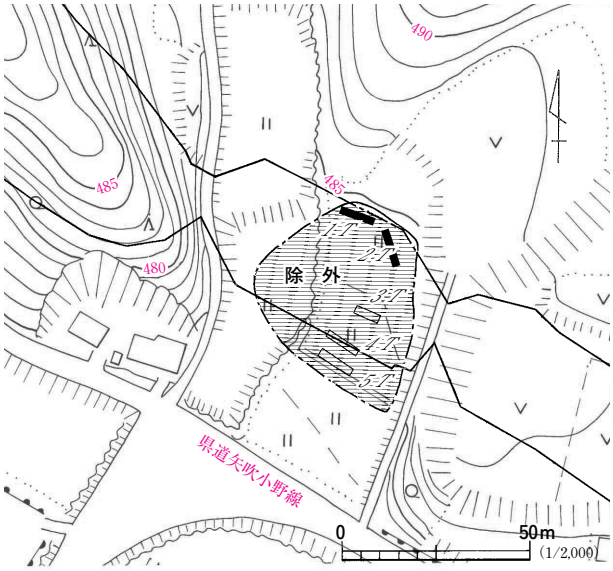


図28　西田Ｃ遺跡トレンチ配置図

４．堂田（どうでん）遺跡

所　在　地　田村郡小野町菖蒲谷字反田　　**調査期間**　平成13年５月14日～18日

調査対象面積　2,800㎡　　**トレンチ数**　９本　　**検出遺構**　なし

保存面積　０㎡　　**出土遺物**　なし

［概　　要］　堂田遺跡の立地は黒森川と接する北向きの丘陵斜面であり，縄文土器（後・晩期）の散布地として登録されている。しかし，堂田遺跡の大部分が菖蒲谷グラウンドの開削によって失われている。今回の試掘調査は，削平を受けていない遺跡東部を中心にトレンチを設定した。

［ま　と　め］　試掘調査の結果，遺構・遺物を確認することができなかった。堂田遺跡の中心部は既に削平された菖蒲谷グラウンドの部分と考えられる。このことから，堂田遺跡の保存の必要はない。

５．Ｂ10

所　在　地　田村郡小野町菖蒲谷字堂田　　**調査期間**　平成13年５月21日～29日

調査対象面積　4,000㎡　　**トレンチ数**　22本　　**検出遺構**　なし

保存面積　０㎡　　**出土遺物**　縄文土器

［概　　要］　Ｂ10は，平成12年度の表面調査によって発見・登録した遺跡推定地である。Ｂ10の立地が黒森川を挟んで堂田遺跡と対面する南向きの丘陵であることから，縄文時代の遺構・遺物が存在している可能性が推測された。Ｂ10の現況は山林である。

［ま　と　め］　試掘調査の結果，遺構は確認できなかった。また，遺物は，１Ｔ・５Ｔ・６Ｔから縄文土器小片が計７点出土したのみであることから，Ｂ10の調査範囲は遺跡として取り扱わない。

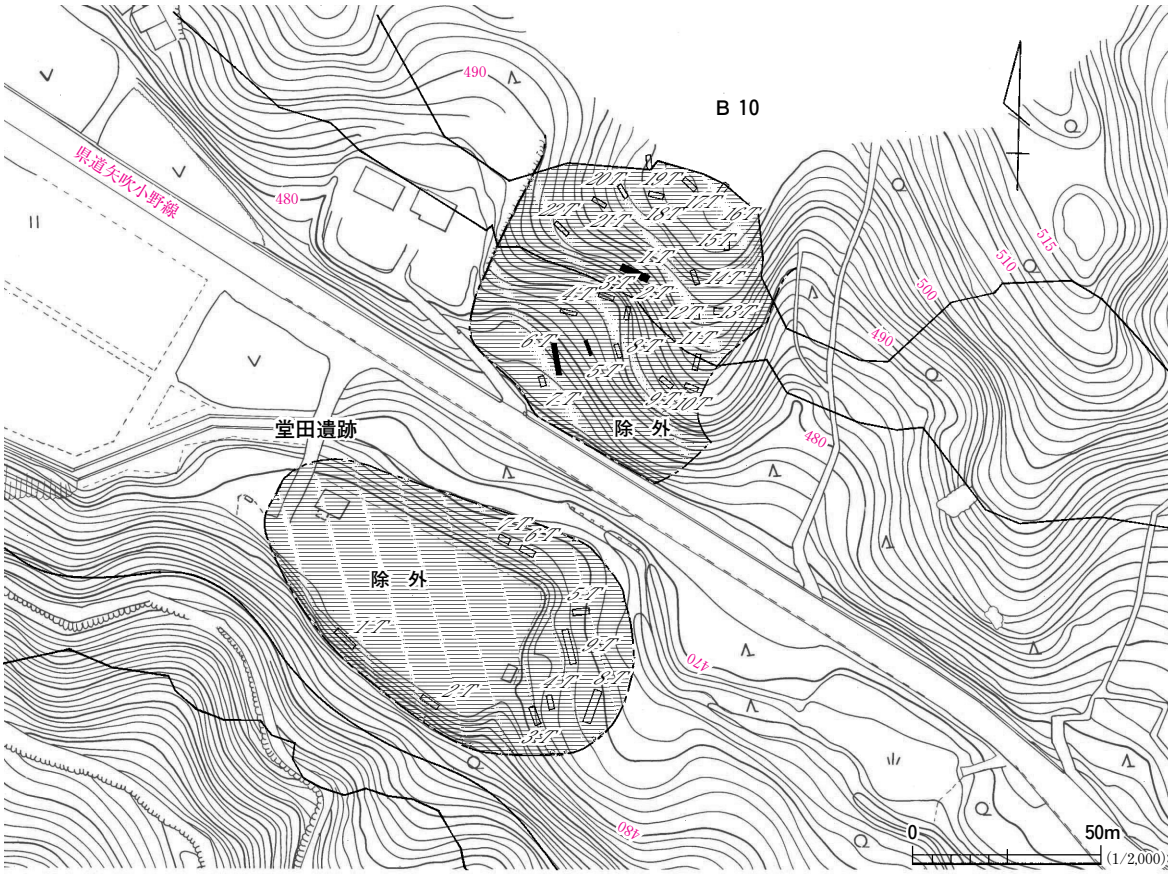


図29　堂田遺跡・Ｂ10トレンチ配置図

６．Ｂ11

所　在　地　田村郡小野町菖蒲谷字西田

調査対象面積　1,300㎡　　**トレンチ数**　12本

保 存 面 積　０㎡

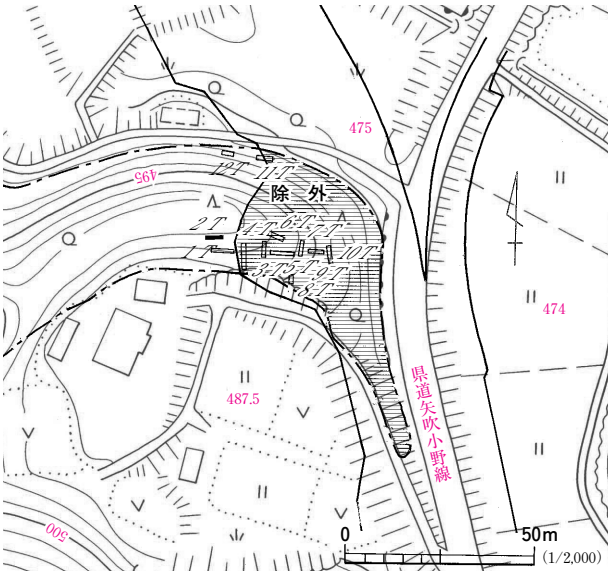


図30　Ｂ11トレンチ配置図

調 査 期 間　平成13年６月４日～７日

検 出 遺 構　なし

出 土 遺 物　縄文土器

［概　　要］　Ｂ11は，平成12年度の表面調査で遺跡推定地とした場所である。Ｂ11の北側に接する小道付近を掘削した際に土器が出土したという地元情報により，その南側丘陵の頂部～裾部までＢ11とした。

Ｂ11の立地は東側へ台状に張り出す丘陵の北端部である。Ｂ11の南側は，宅地・水田等によって開削されている。現況は山林である。

［ま　と　め］　試掘調査の結果，遺構は確認できなかった。また，遺物は２Ｔから縄文時代前期頃の土器小片が１点出土したのみである。このことから，Ｂ11の調査範囲は，遺跡として取り扱わない。

７．Ｂ12

所　在　地　田村郡小野町雁股田字沢目木　　**調査期間**　平成13年６月８日～22日

調査対象面積　4,100㎡　　**トレンチ数**　14本　　**検出遺構**　なし

保存面積　０㎡　　**出土遺物**　縄文土器・須恵器

［概　　要］　Ｂ12は，平成12年度の表面調査で遺跡推定地とした場所である。Ｂ12の立地は黒森川の支流に面した西向きの埋没谷および丘陵斜面で，調査区西～中央部は広い平坦面になっている。現況は，タバコ畑・山林・荒蕪地である。

［ま　と　め］　試掘調査の結果，遺構は確認できなかった。遺物は，１Ｔ・２Ｔから縄文土器，須恵器が少量出土したが，いずれの土器も表面が摩滅しており，他所から流れ込んできたものと考えられる。調査区北西部の畑地は，丘陵斜面を開削して造られたものであることが判明したため，トレンチは設定しなかった。これらのことから，Ｂ12の調査範囲は遺跡として取り扱わない。

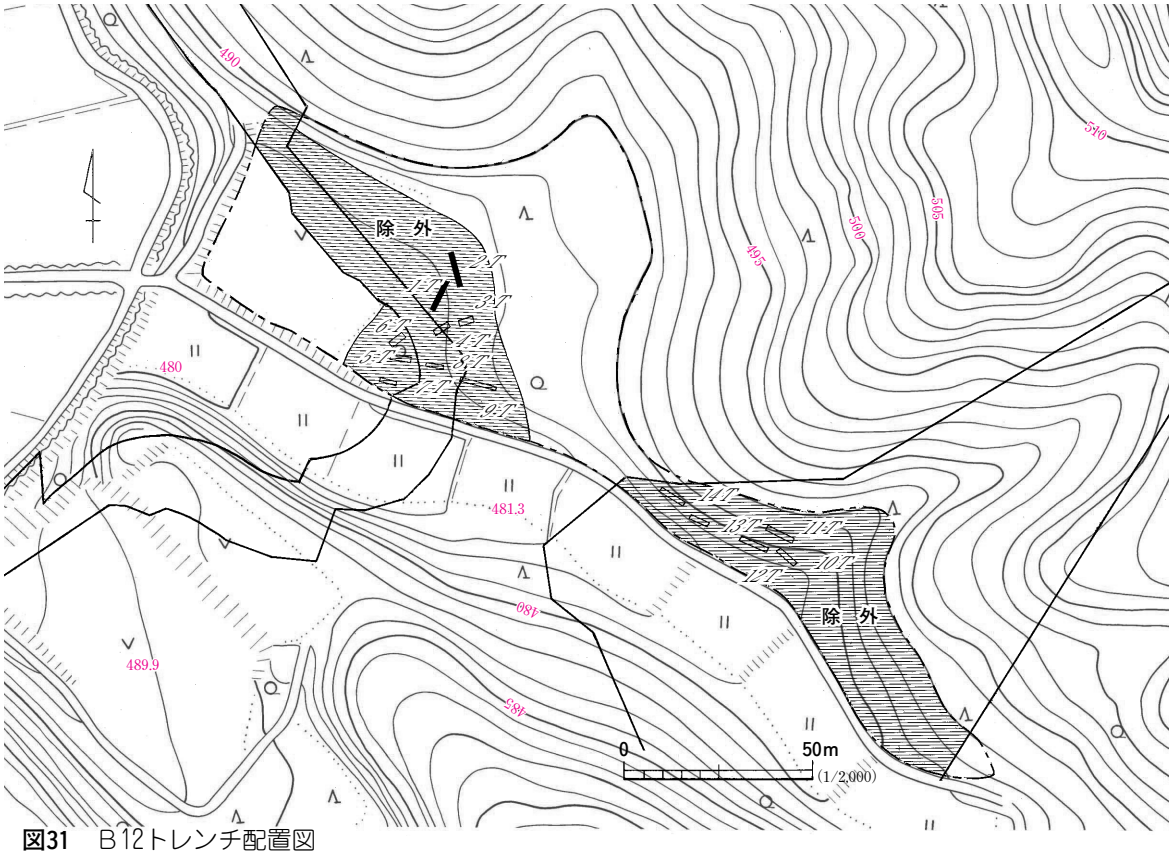


図31　Ｂ12トレンチ配置図

第３節　国営隈戸川農業水利事業予定地

国営隈戸川農業水利事業は，田の沢ダムの建設と揚水機場及び用水路の改修によるかんがい用水の確保と安定供給を目的として，農林水産省東北農政局が行っている事業である。

平成13年度の試掘調査は，ダム建設によって水没する２遺跡と，工事にともなう付け替え林道・工事用道路・建設土砂採取場に存するＢ１他２ヵ所を対象に実施した。いずれも国有林野内にあり，立木保護のためトレンチの大きさや設定場所が制約された。

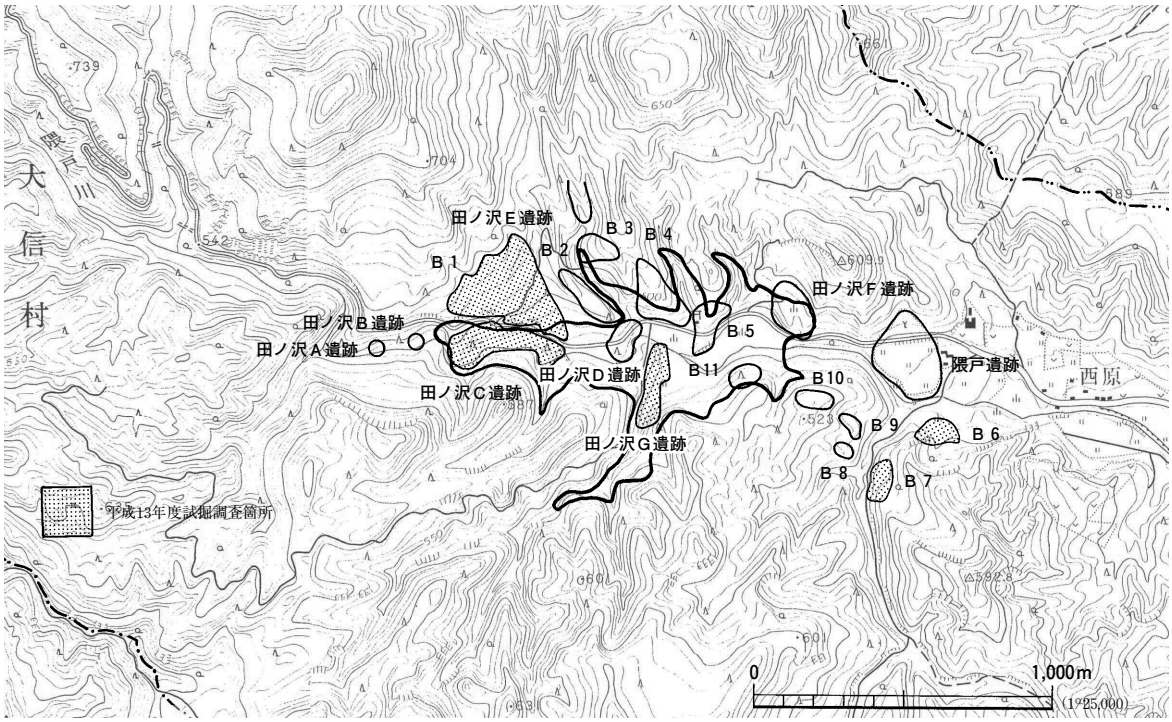


図32　大信村の遺跡

表13　大信村所在遺跡試掘調査成果一覧

No.	遺　跡　名	遺跡工区内面　　積	平成13年度調査		未試掘面積	平成13年度調査	
			調査対象面積	保存面積		検出遺構	出土遺物
1	田ノ沢Ｃ遺跡	30,900㎡	30,900㎡	20,000㎡	0㎡	製鉄炉・廃滓場・土坑	縄文･弥生土器･羽口･鉄滓
2	田ノ沢Ｇ遺跡	13,000㎡	13,000㎡	2,900㎡	0㎡	廃滓場・土坑	鉄滓・縄文土器・石篦
3	Ｂ１(田ノ沢Ｈ遺跡)	64,300㎡	64,300㎡	1,600㎡	0㎡	製鉄炉・溝跡	鉄滓
4	Ｂ６	1,000㎡	1,000㎡	0㎡	0㎡		
5	Ｂ７	2,400㎡	2,400㎡	0㎡	1,500㎡		
大信村計		111,600㎡	111,600㎡	24,500㎡	1,500㎡		

１．田ノ沢Ｃ遺跡

所　在　地　大信村隈戸字大間ヶ嶽

調査対象面積　30,900㎡　　**トレンチ数**　59本

保 存 面 積　20,000㎡

調 査 期 間　平成13年11月15日～12月７日

平成14年２月６日～19日

検 出 遺 構　土坑・製鉄炉基礎構造・炭窯

出 土 遺 物　縄文土器・弥生土器・鉄滓・羽口

田ノ沢Ｃ遺跡（南から）

［概　　要］　田ノ沢Ｃ遺跡は，隈戸川左岸の氾濫原と丘陵南向き斜面に立地している。平成10年度に大信村教育委員会によって行われた表面調査により，近世の製鉄関連遺跡として登録された。遺跡の大部分は国有林野で，スギの人工林およびナラ・コナラ等の落葉広葉樹林となっている。

［遺跡・遺物］　遺跡南東部に設けた40Ｔ，42Ｔ，43Ｔから縄文土器（新地式）や弥生土器（天王山式）が出土した。この付近は，隈戸川がＵ字型に大きく湾曲する場所である。黒褐色土層と黄褐色砂層が交互にあら

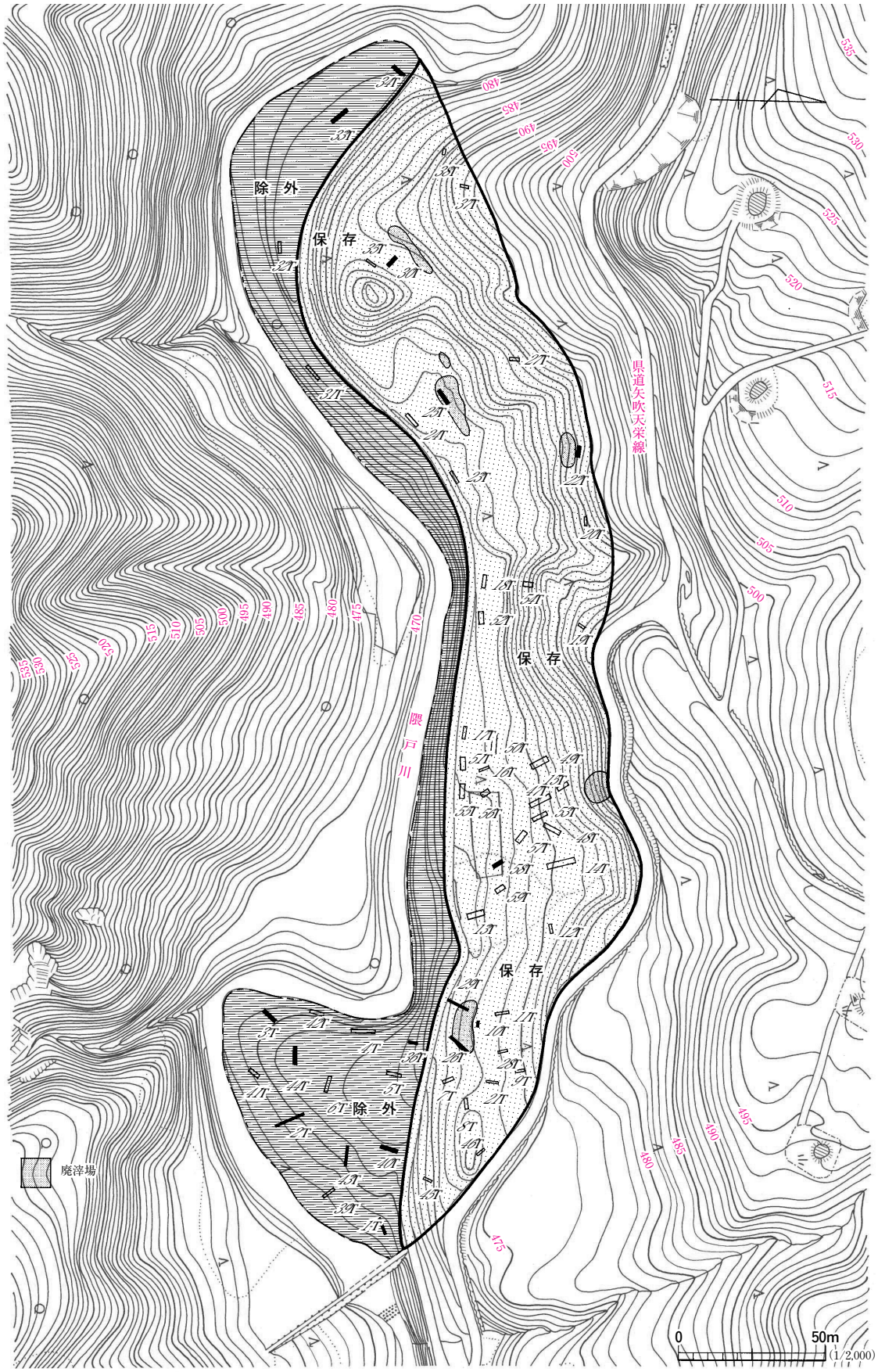


図33　田ノ沢Ｃ遺跡トレンチ配置図

表14　田ノ沢Ｃ遺跡トレンチ一覧

トレンチ番号	検出遺構 種類(時代)	検出遺構 確認面までの深さ	検出遺構 遺構内掘込み	出土遺物(時代)	トレンチ番号	検出遺構 種類(時代)	検出遺構 確認面までの深さ	検出遺構 遺構内掘込み	出土遺物(時代)
１Ｔ				羽口	30Ｔ	土坑・廃滓場	33cm	○	縄文土器・鉄滓
３Ｔ				縄文土器	33Ｔ				土器小片
10Ｔ	製鉄炉	66cm	○	鉄滓	34Ｔ				土器小片
22Ｔ	製鉄炉	60cm	×	鉄滓	36Ｔ				羽口・鉄滓
25Ｔ	廃滓場	15cm	×	鉄滓	40Ｔ	旧河道	30cm	○	弥生土器
26Ｔ	廃滓場	14cm	×	鉄滓	42Ｔ				縄文土器
29Ｔ	廃滓場	40cm	○	羽口・鉄滓	43Ｔ				弥生土器

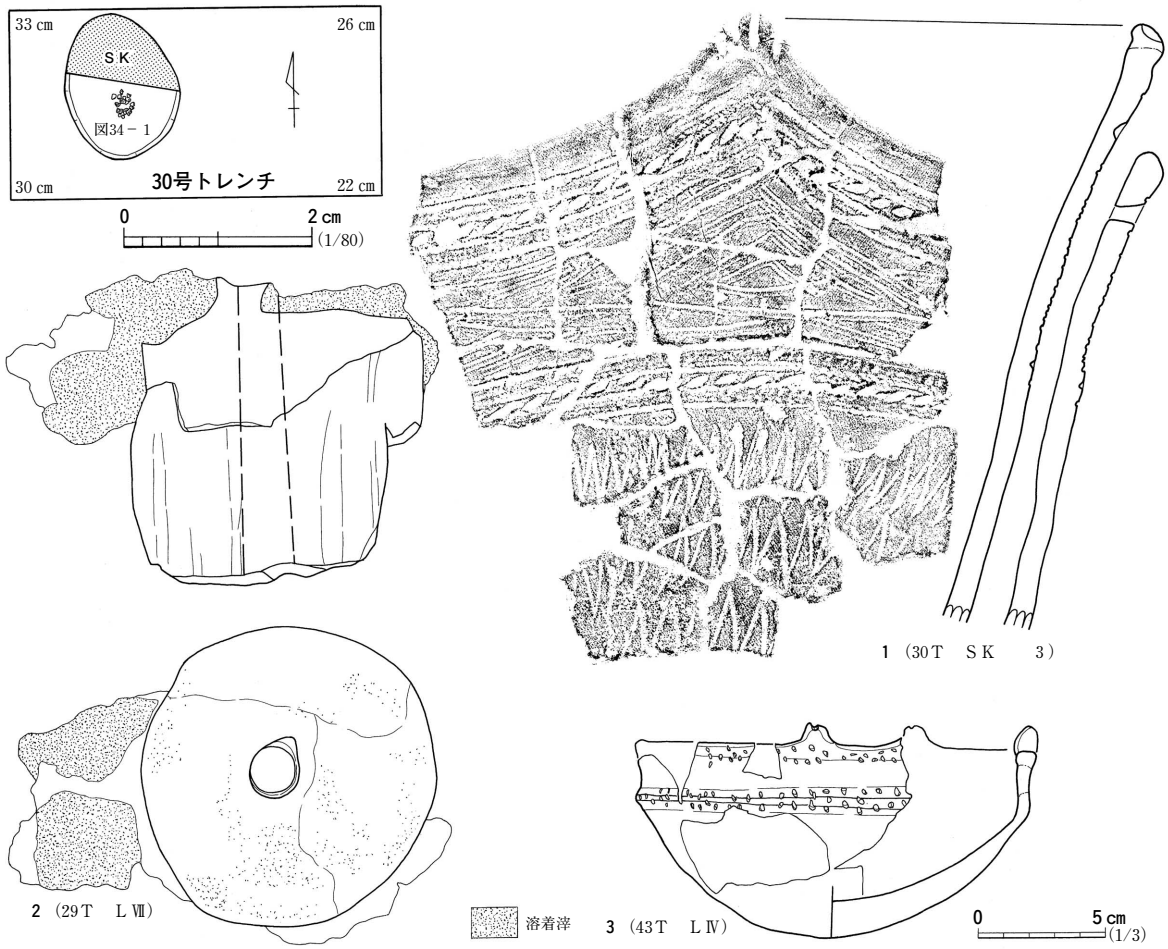


図34　田ノ沢Ｃ遺跡検出遺構・出土遺物

われ，砂層が厚いことから隈戸川の氾濫原であると考えられる。出土遺物は，いずれも河川による再堆積と思われる黄褐色砂層から出土した。また，１ＴのＬⅢ黄褐色砂層から羽口が出土している。出土状況からこれらの出土遺物は，上流域からの流出物である可能性が大きいと考えられる。東部の10Ｔおよび西部に設けた22Ｔ・25Ｔ・30Ｔ付近に，平坦面とその下位に大量の鉄滓が散布する場所がある。これらのトレンチでは，製鉄炉の基礎構造と廃滓場を確認している。人工的な平坦面の下位に廃滓場があることから，周囲に製鉄関連遺構が存在すると考えられる。また，47Ｔ～49Ｔの斜面上位に廃滓場を確認した。

10Ｔにおいて，製鉄炉の基礎と考えられる構築物を確認した。北にわずかな高まりがあることから，フイ

ゴ座の存在が推定される。22ＴのＬＶ黒褐色土面で，幅1.2mほどの粘土による構築物を確認した。トレンチを設けた平場の下位に多量の鉄滓が散布していることから，この構築物は製鉄に関連する施設の一部と考えられる。30ＴのＬⅢ褐色砂質土において，楕円形の土坑を確認した。大きさは長軸155cm，短軸125cmほどで，検出面からの深さは30cmあまりである。土坑底面近くのℓ３黒褐色土から縄文土器（浮島式）が出土している。58ＴのＬⅡ黒褐色土層からも縄文土器が出土している。

［ま　と　め］ 製鉄炉基礎構造や廃滓場を確認したトレンチの周囲に，人為的と見られる平坦面があり，製鉄関連遺構の存在が認められる。そのため，これらのトレンチの周囲と土坑を確認した30Ｔの周辺20,000㎡の保存が必要である。

２．田ノ沢（たのさわ）Ｇ遺跡

所　在　地　大信村隈戸字田ノ沢

調査対象面積　13,000㎡　　**トレンチ数**　33本

保 存 面 積　2,900㎡

調 査 期 間　平成13年11月13日～12月20日

検 出 遺 構　土坑・廃滓場

出 土 遺 物　縄文土器・石篦・鉄滓

田ノ沢Ｇ遺跡（北から）

［概　　要］ 田ノ沢Ｇ遺跡は，平成10年度に大信村教育委員会が行った表面調査により，近世の製鉄関連遺跡として登録された。標高470m弱の丘陵上と，その東向斜面に立地している。本遺跡は，隈戸林道の東に位置し，南境は隈戸川の支流鳶ヶ沢に，北境は東流する隈戸川に接している。隈戸川をはさみ北にＢ４，鳶ヶ沢をはさみ東にＢ11が隣接している。遺跡の大部分は国有林野で，ナラ・コナラ等の落葉低潅木林とサ

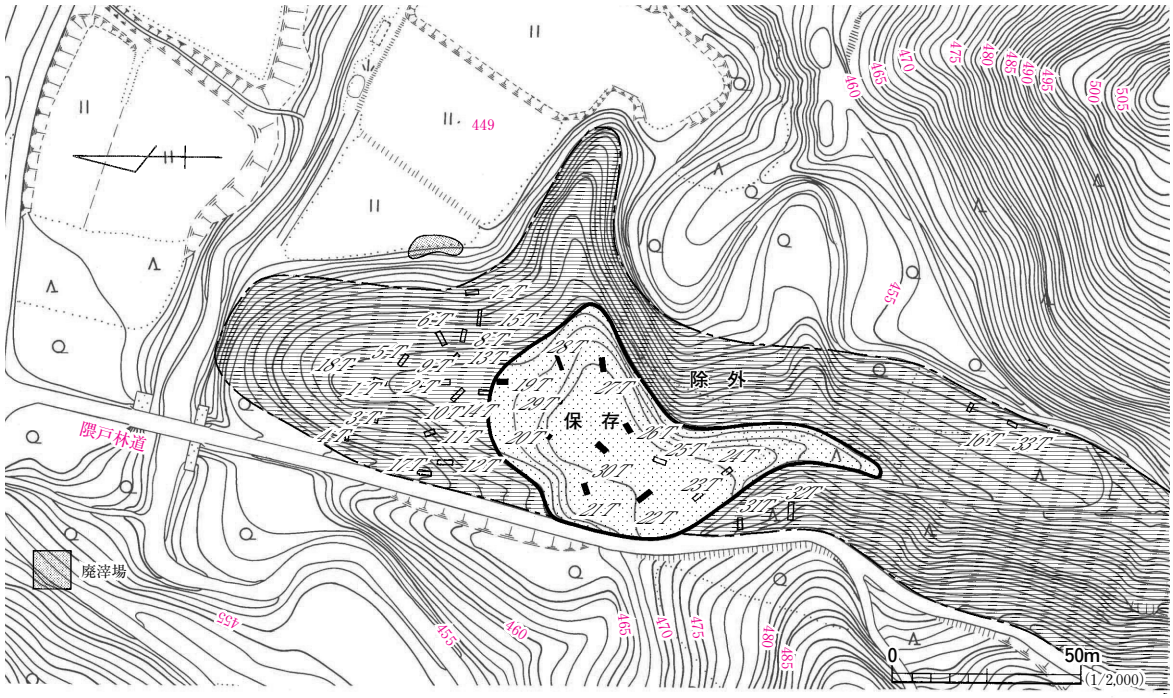


図35　田ノ沢Ｇ遺跡トレンチ配置図

表15　田ノ沢Ｇ遺跡トレンチ一覧

トレンチ番号	検出遺構 種類(時代)	検出遺構 確認面までの深さ	検出遺構 遺構内掘込み	出土遺物(時代)	トレンチ番号	検出遺構 種類(時代)	検出遺構 確認面までの深さ	検出遺構 遺構内掘込み	出土遺物(時代)
19Ｔ	土坑	70cm	○		27Ｔ	土坑		×	
20Ｔ	土坑	35cm	○		28Ｔ	土坑	40cm	○	
21Ｔ	土坑	40cm	○		29Ｔ	土坑	40cm	○	縄文土器
22Ｔ				縄文土器	30Ｔ	土坑		×	縄文土器
26Ｔ				縄文土器・石篦					

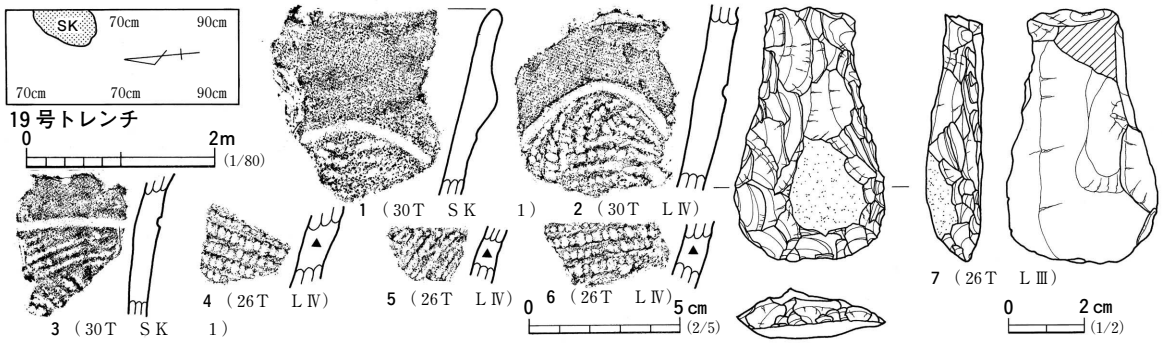


図36　田ノ沢Ｇ遺跡検出遺構・出土遺物

サ藪になっている。なお，国有林野内での試掘調査のため，立木保護の観点からトレンチの大きさや設定場所が制約されトレンチによる調査面積は限られたものとなった。

［遺構・遺物］　遺跡のほぼ中央，丘陵上の平坦面に設けた19Ｔ～21Ｔ，27Ｔ～30Ｔで土坑を確認した。トレンチ断面の観察から，これらの土坑は地表から30～40cm下の暗褐色または黒褐色土層上面から掘り込まれ，その深さは30～50cmほどであると確認した。土坑掘り込み面の上層から縄文土器が出土しており，土坑は，これらの遺物と同じ時期に属するものと考えられる。

22Ｔ・26Ｔ・29Ｔ・30Ｔから縄文土器が出土した。いずれも，土坑を掘り込んだ層位と同じ暗褐色または黒褐色土層から出土している。また，26Ｔからは縄文土器とともに石篦と石核が出土している。出土した遺物は，縄文時代中期から後期に属するものと考えられる。

［ま　と　め］　以上の調査結果から，遺跡中央部の丘陵平坦面を中心とする2,900㎡の保存が必要である。遺跡北東端部の斜面に，田ノ沢Ｃ遺跡に見られるような，平坦面とその下位に大量の鉄滓が散布する場所があり，この付近に製鉄関連遺構の存在が考えられる。

３．Ｂ１（田ノ沢Ｈ遺跡）

所　在　地　大信村隈戸字大間ヶ嶽

調査対象面積　64,300㎡　　**トレンチ数**　88本

保 存 面 積　1,600㎡以上

調 査 期 間　平成13年12月６日～20日

検 出 遺 構　製鉄炉

出 土 遺 物　鉄滓

［概　　要］　Ｂ１は，平成10年度に大信村教育委員会が行った表面調査により遺跡推定地とされた場

Ｂ１（西から）

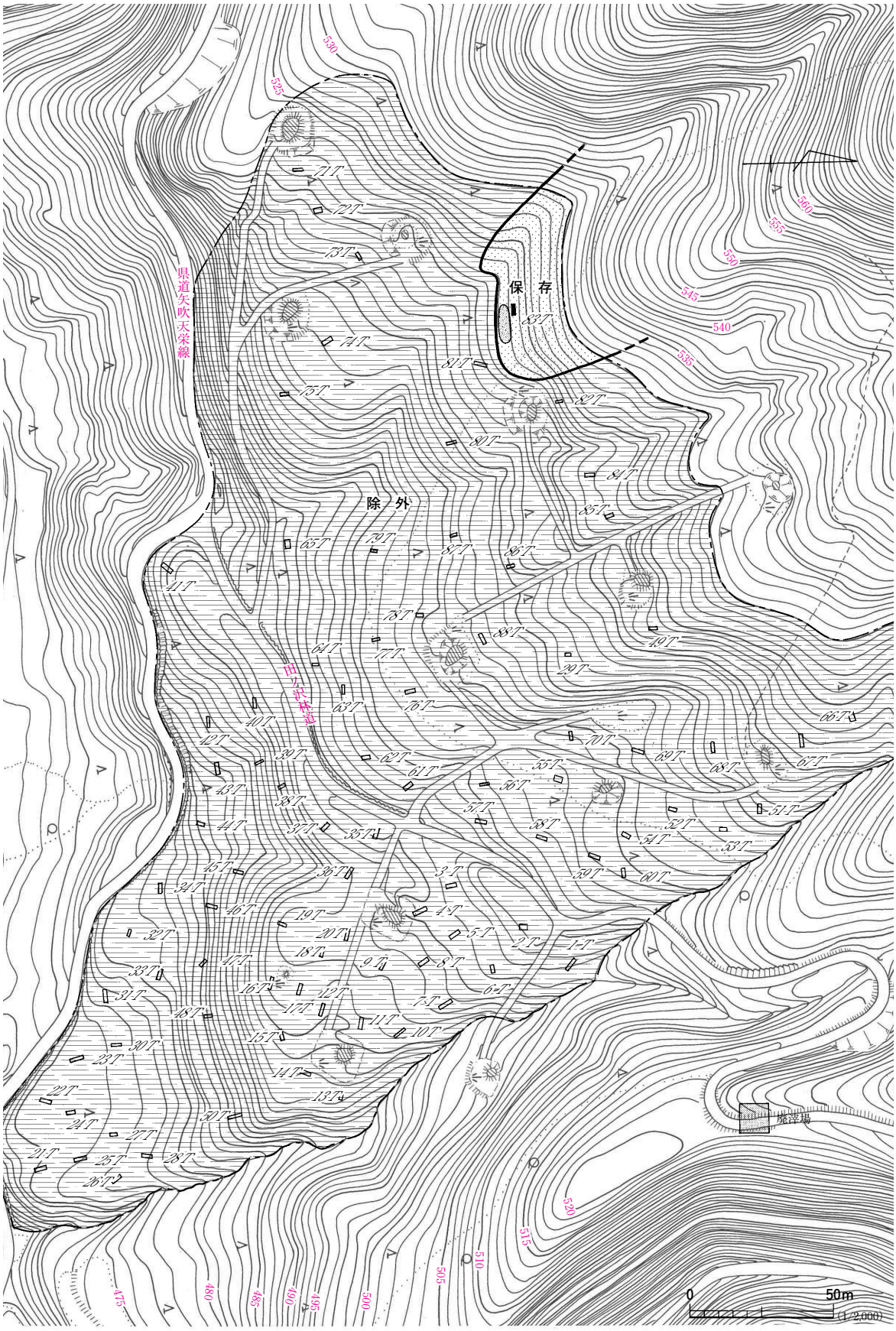


図37　Ｂ１（田ノ沢Ｈ遺跡）トレンチ配置図

所である。標高470ｍから530ｍの丘陵南向き斜面に立地している。県道矢吹天栄線の北に位置し，南に田ノ沢Ｃ遺跡がある。Ｂ１は，国有林野内にあり，スギ・ヒノキ等の人工林，ならびにナラ・ブナ等の落葉広葉樹の林である。

調査範囲は，ダム建設にともなう土取場および付替道路の建設予定地となっている。調査範囲南端を起点として，中央を田ノ沢林道が北東方向に貫いている。林野内には，過去に伐採木の搬出に用いたと思われる作業道，および重機等で掘削したと思われる窪地が存在するものの，いずれも荒廃が著しい。

立木を保護するため，トレンチの設定場所，大きさが限られ，トレンチによる調査面積は限られたものとなった。

［遺構・遺物］ 調査範囲北部に位置する，沢の東斜面に設定した83Ｔにおいて製鉄炉の一部と考えられる掘形を確認した。周辺に多量の鉄滓が散らばり，廃滓場が形成されている。この製鉄関連遺構の時期を確定する遺物は出土していないものの，南に隣接する田ノ沢Ｃ遺跡で同様の遺構を確認していることから，田ノ沢Ｃ遺跡と同じ時期のものと思われる。その他のトレンチで遺構・遺物を確認することはできなかった。

［ま　と　め］ 以上の調査結果から，83Ｔ周辺に製鉄関連遺構の存在が推定され，その周囲1,600㎡以上の保存が必要である。また，83Ｔの北西に位置する沢沿いの調査範囲外に製鉄関連遺構の存在する可能性が考えられる。Ｂ１は，製鉄関連遺跡と考えられることから「田ノ沢Ｈ遺跡」と称する。

４．Ｂ６

所　在　地　大信村隈戸字田ノ沢　　**調 査 期 間**　平成13年11月８日

調査対象面積　1,000㎡　　**トレンチ数**　７本　　**検 出 遺 構**　なし

保 存 面 積　０㎡　　**出 土 遺 物**　なし

［概　　要］ Ｂ６は，田の沢ダム建設にともなって行われる，仮廻し県道と横道林道の付け替え工事の予定地にある。路線確定により道路中心杭が打設されたことから，工程上優先度の高いこの路線周辺の再確認調査を行った際に集落跡の可能性を指摘された場所である。丘陵の北向き緩斜面の国有林野内に位置し，現況はスギの人工林となっている。なお，再確認調査の際，この他にＢ７～Ｂ11の５地点を確認している。

［ま　と　め］ 平成13年度の試掘調査では，遺構や遺物を認めることはできず，調査範囲については遺跡として取り扱わない。

５．Ｂ７

所　在　地　大信村隈戸字田ノ沢　　**調 査 期 間**　平成13年11月９日～13日

調査対象面積　2,400㎡　　**トレンチ数**　14本　　**検 出 遺 構**　なし

保 存 面 積　０㎡　　**出 土 遺 物**　なし

［概　　要］ Ｂ７は，田の沢ダム建設によって行われる，県道矢吹天栄線の仮廻し工事，および横道林道の付け替え工事予定地にある。路線確定により道路中心杭が打設されたことから，工程上優先度の高い路線周辺の再確認調査をおこない，その際に集落跡の可能性を指摘された場所である。丘陵の北向き緩斜面に立地し，現況はスギの人工林と落葉広葉樹林となっている。

［ま　と　め］ 平成13年度の試掘調査では，遺構や遺物を認めることはできず調査範囲内は遺跡として取り扱わない。なお，Ｂ７の南東部分1,500㎡は，立木が密集していたため調査を実施しなかった。

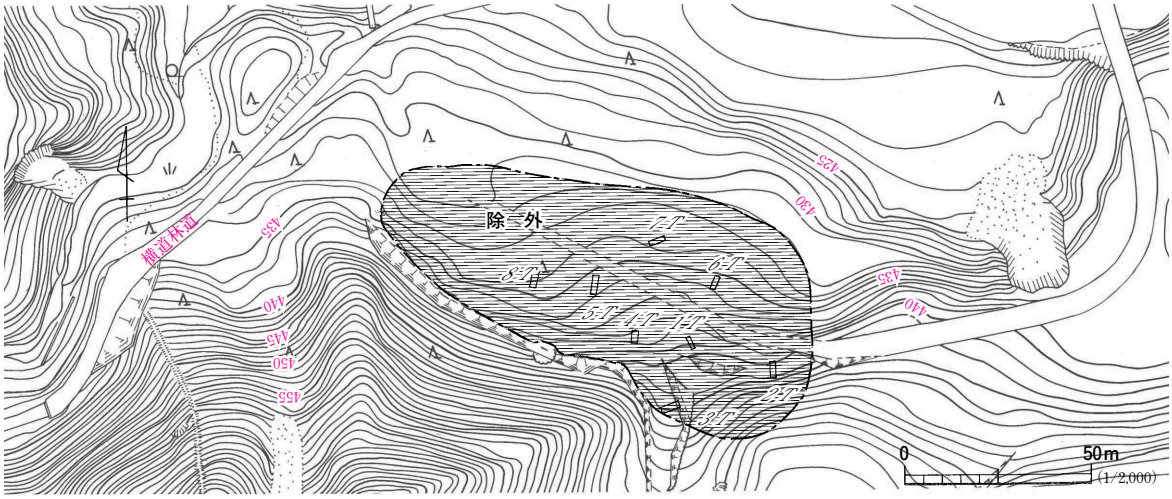


図38　Ｂ６トレンチ配置図

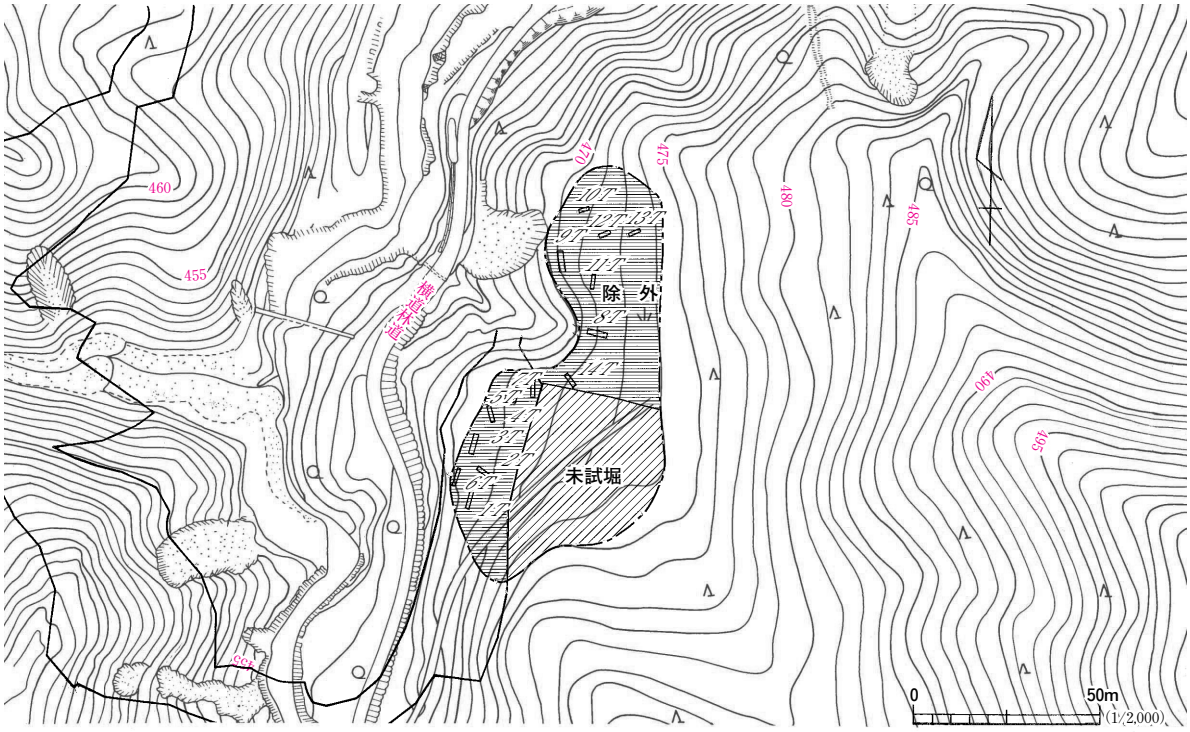


図39　Ｂ７トレンチ配置図

第４節　常磐自動車道建設予定地

常磐自動車道は，東京外環自動車道との分岐点である三郷ＪＣＴ（埼玉県三郷市）を起点とし，宮城県仙台市に至る計画総延長約339kmの高速自動車国道である。これまでに，三郷ＪＣＴからいわき四倉ＩＣ（延長約188km）間が開通しており，計画延長の約55％が開通・供用されている。なお，いわき四倉ＩＣから広野ＩＣ間の約14kmについては，2002年３月開通した。

常磐自動車道のいわき四倉ＩＣ以北建設に関連する遺跡分布調査は，平成６年度に始まり，平成13年度で

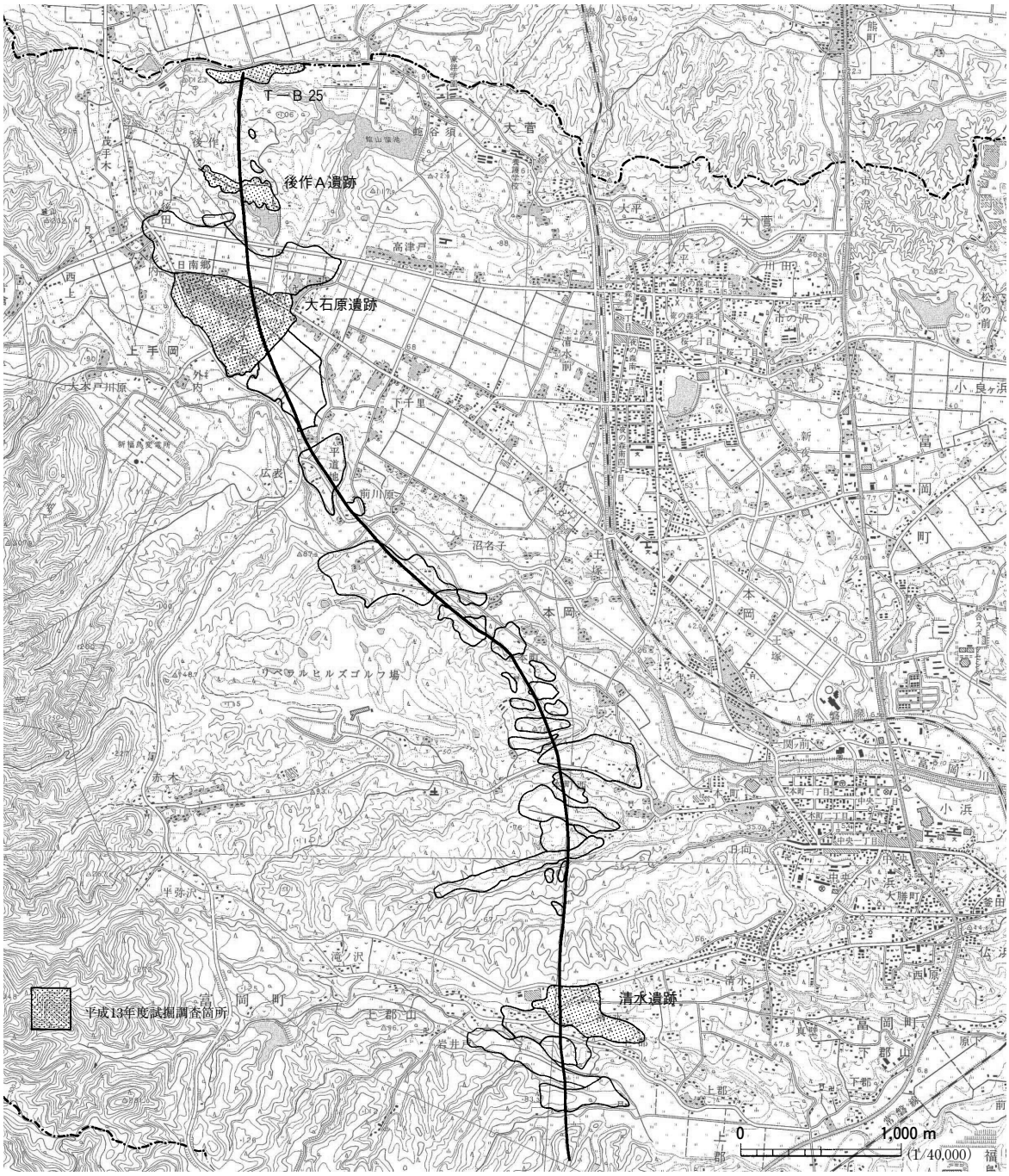


図40　富岡町の遺跡

表16　富岡町所在遺跡試掘調査成果一覧

No.	遺　跡　名	遺跡工区内面　　積	平成13年度調査		未試掘面積	平成13年度調査	
			調査対象面積	保存面積		検出遺構	出土遺物
1	後作Ａ遺跡	22,000㎡	7,830㎡	4,600㎡	4,770㎡	住居跡（縄文）・土坑	縄文土器
2	大石原遺跡	22,100㎡	1,840㎡	0㎡	0㎡		
3	清水遺跡	19,070㎡	4,670㎡	0㎡	0㎡		
4	Ｔ－Ｂ25	7,000㎡	7,000㎡	0㎡	0㎡		
富岡町計		70,170㎡	21,340㎡	4,600㎡	4,770㎡		

８年目となる。この間，平成８年度にいわき市地区，平成11年度に広野町地区，平成12年度に楢葉町地区の試掘調査を終了した。

平成13年度は，双葉郡内の富岡町と双葉町に所在する４遺跡４推定地を対象として試掘調査を実施した。調査期間は４月11日～12日，５月９日～６月６日，11月14日～12月14日の３時期である。富岡町所在の後作Ａ遺跡については，平成13年11月に発掘調査を終えている。

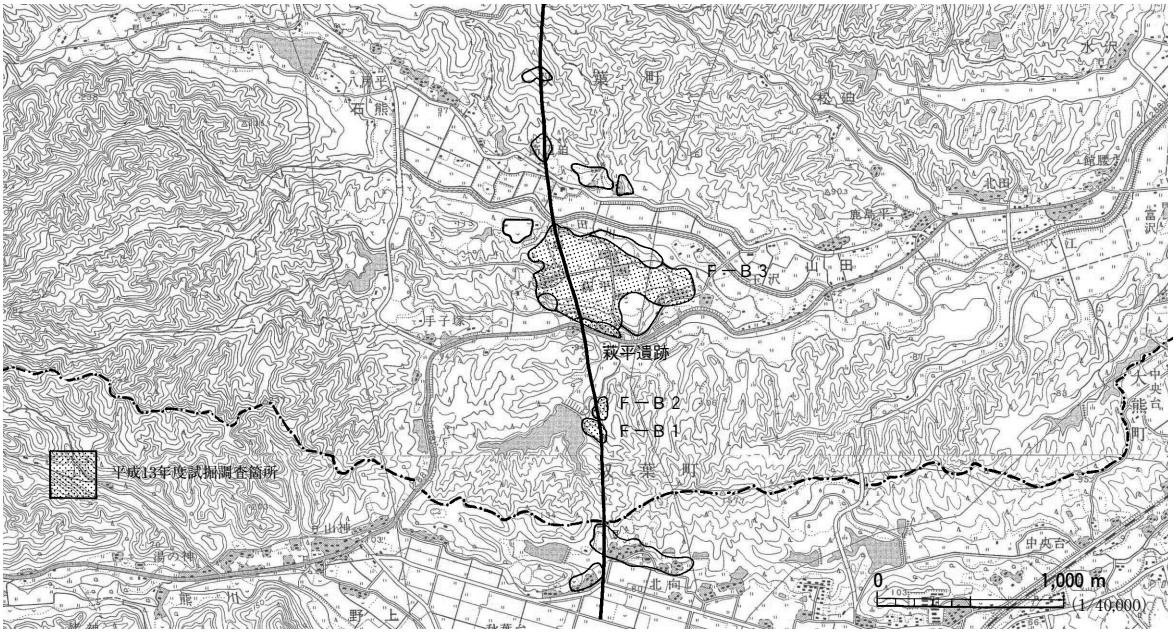


図41　双葉町の遺跡

表17　双葉町所在遺跡試掘調査成果一覧

No.	遺　跡　名	遺跡工区内面　　積	平成13年度調査		未試掘面積	平成13年度調査	
			調査対象面積	保存面積		検出遺構	出土遺物
1	萩平遺跡	500㎡	500㎡	0㎡	0㎡		
2	Ｆ－Ｂ１	6,600㎡	4,200㎡	0㎡	2,400㎡		
3	Ｆ－Ｂ２	5,500㎡	5,500㎡	0㎡	0㎡		
4	Ｆ－Ｂ３	27,000㎡	10,000㎡	0㎡	17,000㎡	土坑	陶器
双葉町計		39,600㎡	20,200㎡	0㎡	19,400㎡		

(1)　富岡町の遺跡

１．後作（うしろさく）Ａ遺跡（第３次試掘調査）

所　在　地　富岡町上手岡字後作

調査対象面積　7,830㎡　　**トレンチ数**　16本

保 存 面 積　4,600㎡（累計6,400㎡）

調 査 期 間　平成13年５月９日～18日

検 出 遺 構　竪穴住居跡・土坑

出 土 遺 物　縄文土器

38Ｔ遺構検出状況（北から）

［概　　要］　後作Ａ遺跡は，縄文時代や奈良・平安時代の遺物散布地として発見された遺跡である。平成６年度に実施された表面調査において，縄文早期大

平式の土器片が採集され，縄文時代の散布地として再確認された（福島県教育委員会1995『福島県内遺跡分布調査報告１』）。

後作Ａ遺跡は，Ｔ－Ｂ17地点から大石原・日南郷遺跡と同じ台地上に立地し，家老沢を隔て南に後作Ｂ遺跡，北にＴ－Ｂ23，東にＴ－Ｂ21，Ｔ－Ｂ22と隣接している。

本遺跡の試掘調査は，平成９・11年度の２度実施している（福島県教育委員会1998，2000『福島県内遺跡分布調査報告４』，『同６』）。平成９年度の調査において，町道北側の休耕田に設けた複数のトレンチから縄文早期末葉の土器片が出土している。また，この際，３Ｔにおいて土坑を検出し，これまでに町道北側の休耕田1,800㎡の保存が必要とされている。

図42　後作Ａ遺跡トレンチ配置図

表18　後作Ａ遺跡トレンチ一覧

トレンチ番号	検出遺構 種類(時代)	確認面までの深さ	遺構内掘込み	出土遺物(時代)	トレンチ番号	検出遺構 種類(時代)	確認面までの深さ	遺構内掘込み	出土遺物(時代)
34Ｔ	住居跡(縄文)・土坑	59cm	○	縄文土器	43Ｔ				縄文土器（晩期）
36Ｔ				縄文土器	45Ｔ				縄文土器
38Ｔ	土坑	60cm	○	縄文土器（前期）	46Ｔ				縄文土器
39Ｔ				縄文土器	47Ｔ				縄文土器
40Ｔ	土坑	38cm	×	縄文土器	48Ｔ				縄文土器（中期）
41Ｔ				縄文土器	49Ｔ				縄文土器（早期）

［遺構・遺物］　調査範囲西寄りの宅地跡に設けた34Ｔ・38Ｔ・40Ｔにおいて遺構を確認した。

34Ｔで確認した遺構は，竪穴住居跡と土坑である。確認層位は，地表下50cmのＬⅣ明褐色土である。土器が埋設されており，その周囲が強く焼けていることから炉跡と考えられる。

38Ｔの地表下50cmのＬⅣ明褐色土上面において，竪穴住居跡と考えられる遺構と土坑を確認した。サブトレンチの断面において明瞭な立ち上がりを認めたことから住居跡と推定した。

40Ｔでは４基の土坑を確認した。確認層位は，地表から38cm下のＬⅣ明褐色土である。

宅地跡に設けた多くのトレンチから縄文時代早期～中期・晩期の土器が出土している。

［ま　と　め］　本年度の試掘調査では，竪穴住居跡や土坑を確認し，遺構に伴って縄文土器が出土している。このことから，前年度までの調査成果と合わせ，6,400㎡の保存が必要である。なお，この6,400㎡については，平成13年11月に発掘調査を終了している。その際出土した埋設土器に34Ｔ出土の遺物が接合している。

建設予定地内においては，追加買収された東側の3,000㎡と合わせ4,770㎡が未試掘となっている。

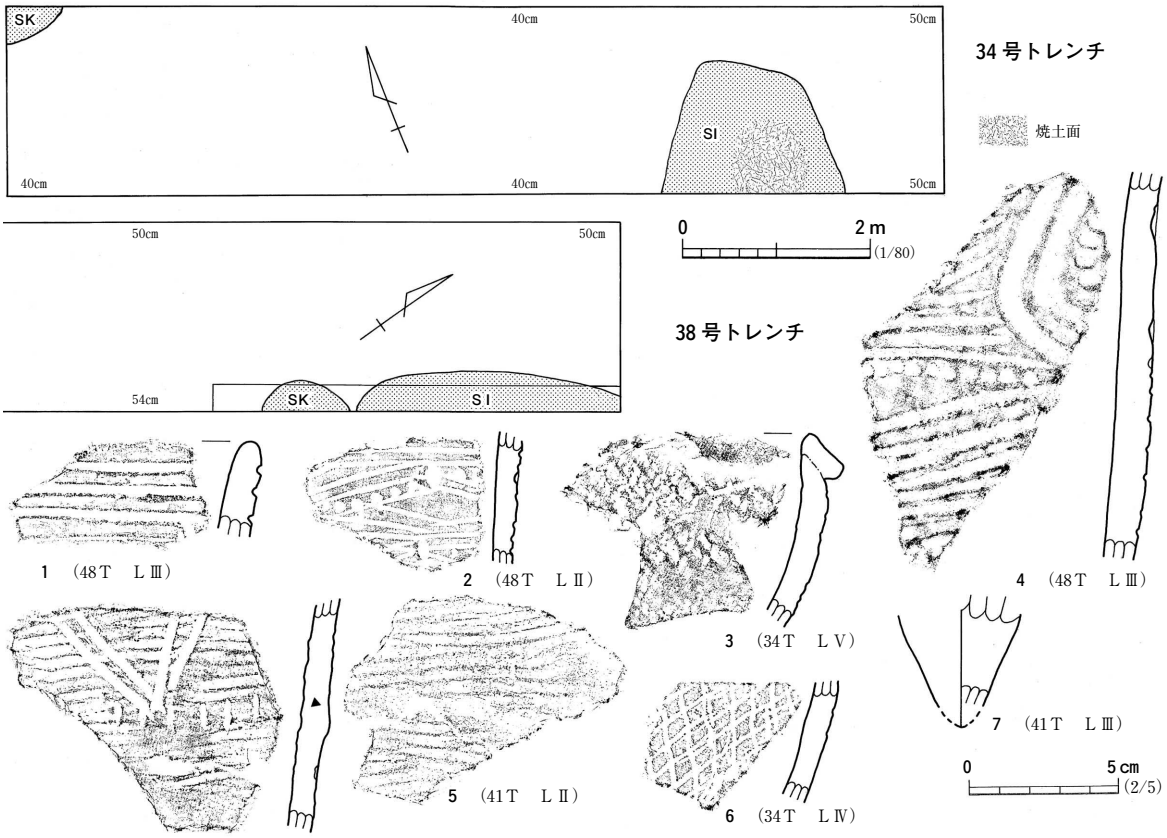


図43　後作Ａ遺跡検出遺構・出土遺物

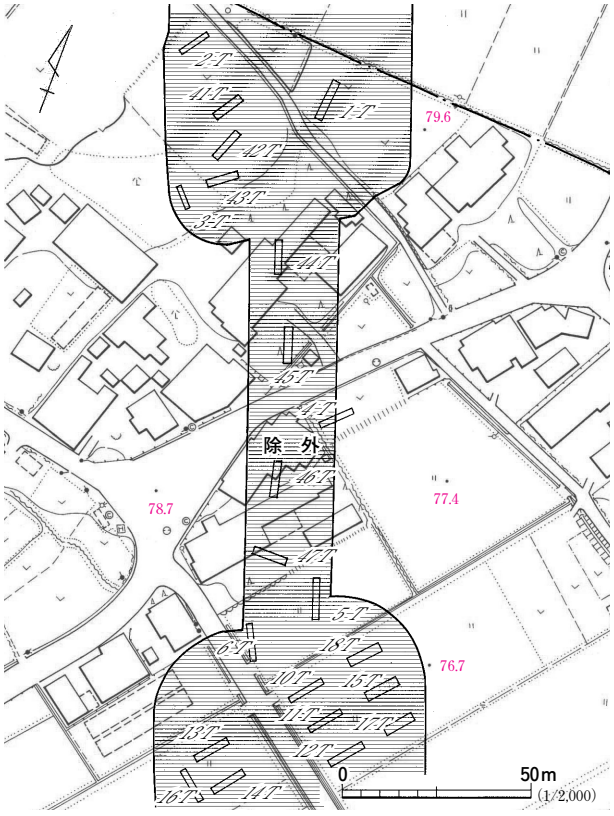


図44　大石原遺跡トレンチ配置図

２．大石原（おおいしはら）遺跡（第５次試掘調査）

所　在　地　富岡町上手岡字大石原

調査対象面積　1,840㎡　　**トレンチ数**　７本

保 存 面 積　０㎡

調 査 期 間　平成13年４月11日・12日

検 出 遺 構　なし

出 土 遺 物　なし

［概　　要］　大石原遺跡は，富岡川左岸の河岸段丘上に立地する縄文時代の遺跡である。北側で日南郷遺跡と南東側でＴ－Ｂ17と近接している。平成６年度，福島県教育委員会が実施した表面調査によって平安時代・近世を含む遺跡として確認された（『福島県内遺跡分布調査報告１』）。

［ま　と　め］　遺跡内の宅地跡を中心に７本のトレンチを設けて調査を行った。調査の結果，遺構や遺物は確認できなかった。前年度までの試掘調査の結果と合わせ，大石原遺跡の調査対象範囲については保存の必要はない。

図45　清水遺跡トレンチ配置図

３．清水（しみず）遺跡（第５次試掘調査）

所　在　地　富岡町上郡山字清水

調査対象面積　4,670㎡　　**トレンチ数**　７本

保 存 面 積　０㎡

調 査 期 間　平成13年11月14日～16日

検 出 遺 構　なし

出 土 遺 物　なし

［概　　要］　清水遺跡は，紅葉川左岸の河岸段丘に立地し，岩井戸東遺跡・上郡Ａ遺跡の北に位置している。調査範囲の現況は宅地である。

［ま　と　め］　平成13年度の調査範囲で遺構や遺物を確認することはできなかった。前年度までに，２Ｔで木炭窯跡１基を確認している（『福島県内遺跡分布調査報告３』）。しかし，遺物を伴わないこと，周辺のトレンチから近世以降の陶器片が出土していることから，この木炭窯は近世以降のものと考えられる。以上のことから，清水遺跡の調査範囲については，保存の必要はない。

４．Ｔ－Ｂ25

所　在　地　富岡町大菅字蛇谷須　　**調査期間**　平成13年５月21日～６月６日

調査対象面積　7,000㎡　　**トレンチ数**　41本　　**検出遺構**　なし

保存面積　０㎡　　**出土遺物**　なし

［概　　要］　Ｔ－Ｂ25は，平成６年度に実施された表面調査によって遺跡推定地とした場所である（福島県教育委員会1995『福島県内遺跡分布調査報告１』）。縄文・弥生・平安時代の散布地として知られている蛇谷須遺跡の西に位置し，蛇谷須遺跡と同じ段丘上に立地している。また，北東に，縄文～古墳時代の遺物散布地として登録されている大熊町所在の蛇保遺跡が隣接している。現況は，スギの人工林である。

［ま　と　め］　本年度の試掘調査では，遺構や遺物を認めることはできなかった。このため，調査範囲については遺跡として取り扱わない。

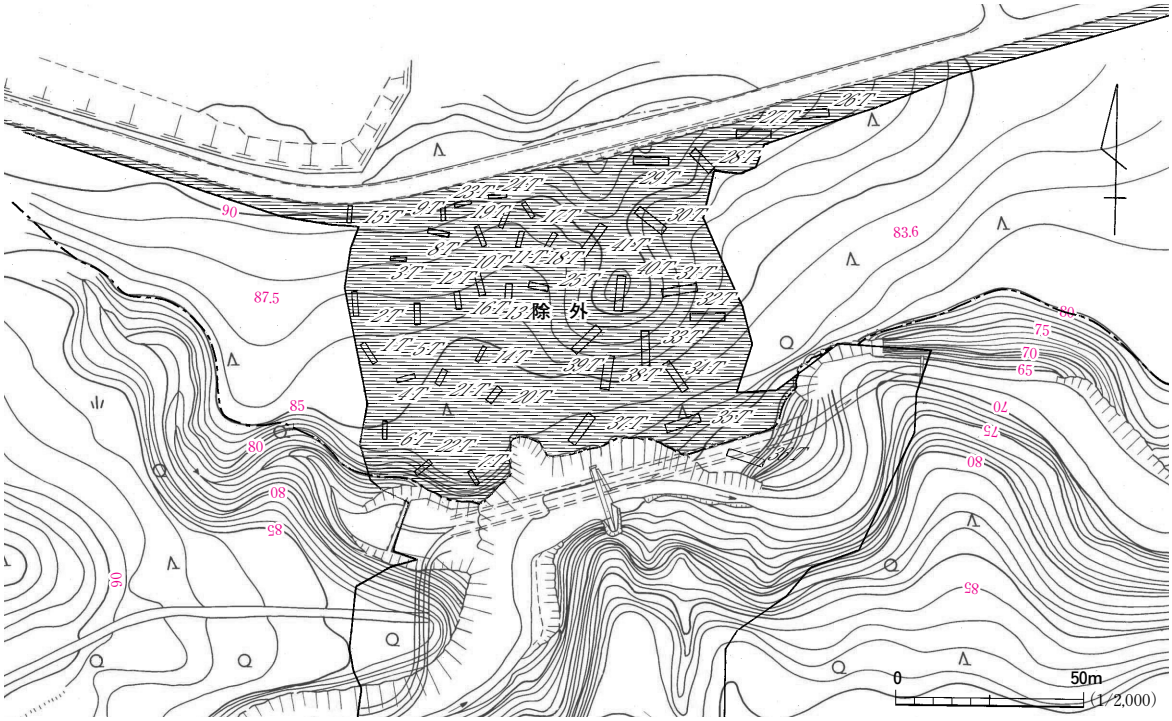


図46　Ｔ－Ｂ25トレンチ配置図

(2)　双葉町の遺跡

１．萩平（はぎたいら）遺跡

所　在　地　双葉町山田字上萩平　　**調査期間**　平成13年11月29日

調査対象面積　500㎡　　**トレンチ数**　６本　　**検出遺構**　なし

保存面積　０㎡　　**出土遺物**　なし

［概　　要］　萩平遺跡は，国道288号の北に位置する台地の南向き斜面部に立地している。縄文土器の散布地として登録された周知の遺跡である。

平成13年度は，遺跡西端部の山林500㎡を対象に試掘調査を行った。

［ま　と　め］　本年度の試掘調査では，遺構や遺物を確認することはできなかった。このため，建設予定地内については保存の必要はない。

２．Ｆ－Ｂ１

所　在　地　双葉町山田字羽黒沢　　**調査期間**　平成13年12月５日～14日

調査対象面積　4,200㎡　　**トレンチ数**　10本　　**検出遺構**　なし

保存面積　０㎡　　**出土遺物**　なし

［概　　要］　Ｆ－Ｂ１は，縄文時代の集落跡の可能性を指摘された場所である（福島県教育委員会1997『福島県内遺跡分布調査報告３』）。東羽黒溜池の東に位置する丘陵の尾根上に立地している。現況はクヌギ・ナラ等の低灌木林である。

平成13年度は，常磐自動車道建設予定地内の4,200㎡を対象に試掘調査を行った。

［ま　と　め］　本年度の試掘調査の範囲内では，遺構や遺物を確認することはできなかった。このため，本年度の調査範囲は遺跡として取り扱わない。なお，推定地の南側部分2,400㎡は未試掘である。

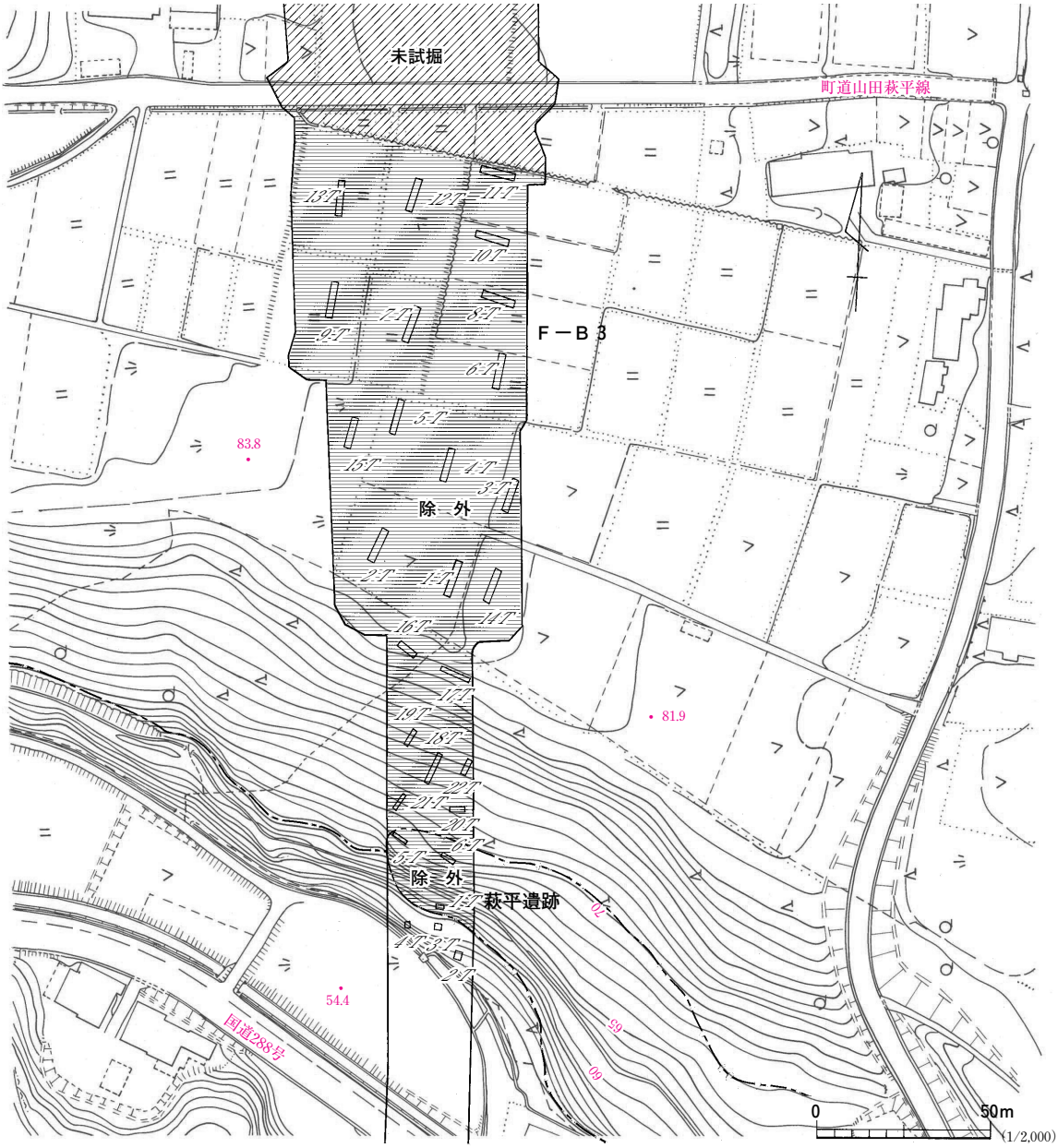


図47　萩平遺跡・Ｆ－Ｂ３トレンチ配置図

３．Ｆ－Ｂ２

所　在　地　双葉町山田字羽黒沢　　**調査期間**　平成13年11月29日～12月５日

調査対象面積　5,500㎡　　**トレンチ数**　17本　　**検出遺構**　なし

保存面積　０㎡　　**出土遺物**　なし

［概　　要］　Ｆ－Ｂ２は，平成８年度の表面調査によって，縄文時代の集落跡の可能性を指摘された場所である（福島県教育委員会1997『福島県内遺跡分布調査報告３』）。

東羽黒溜池の北東に位置する標高100m弱の丘陵尾根上に立地し，Ｆ－Ｂ１の北に位置している。現況はクヌギやナラなどの低灌木林である。

［ま　と　め］　調査範囲5,500㎡に17本のトレンチを設定し調査を行った。平成13年度の試掘調査では，遺構や遺物を確認することはできなかった。このことから，本年度の調査範囲は遺跡として取り扱わない。

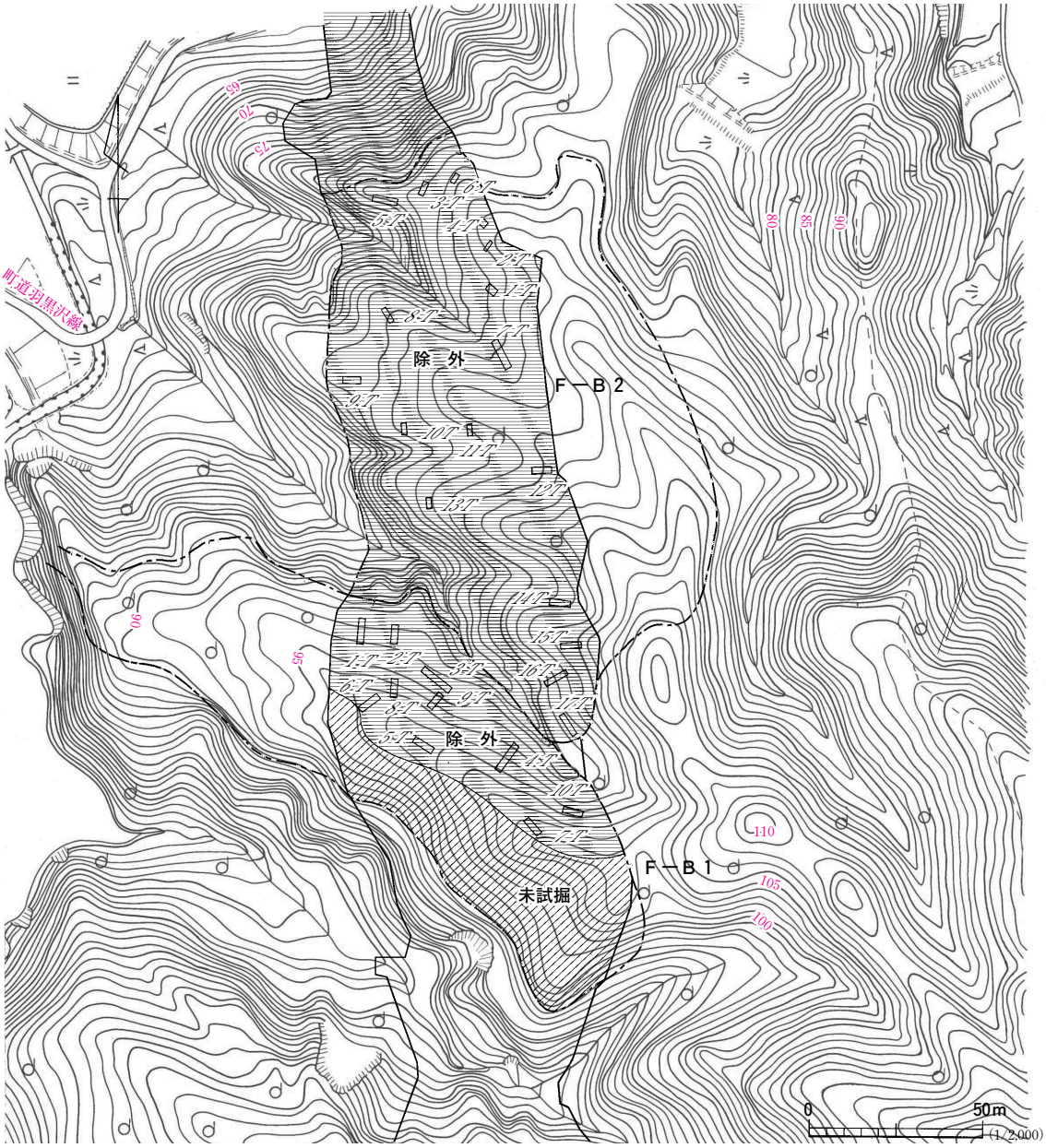


図48　Ｆ－Ｂ１・Ｂ２トレンチ配置図

４．Ｆ－Ｂ３

所　在　地　双葉町山田字上萩平　　**調 査 期 間**　平成13年11月19日～28日

調査対象面積　10,000㎡　　**トレンチ数**　22本　　**検 出 遺 構**　土坑

保 存 面 積　０㎡　　**出 土 遺 物**　陶器

［概　　要］　Ｆ－Ｂ３は，縄文時代の集落跡の可能性を指摘された場所である（『福島県内遺跡分布調査報告３』）。河岸段丘の最上部平坦面に立地している。萩平遺跡の北にあり，上萩平Ａ・Ｂ・Ｃ遺跡と隣接している。平成13年度は，推定地南側の10,000㎡について試掘調査を実施した。

［ま　と　め］　３Ｔ・５Ｔ・15Ｔで土坑を検出した。これらは，堆積土が柔らかく，付近のトレンチから相馬焼と思われる陶片が出土していることから近現代のものと考えられる。以上のことから，調査範囲は遺跡として取り扱わない。なお，町道南側の一部と町道北側の17,000㎡が未試掘となっている。

第５節　一般国道６号相馬バイパス建設予定地

一般国道６号相馬バイパスは，相馬市街地の交通混雑解消，沿道環境の改善，常磐自動車道相馬ＩＣへのアクセス性の向上などを目的として昭和62年より建設事業が行われている。この道路は，相馬市程田地内を起点にし，相馬中核工業団地を経て新地町駒ヶ嶺地内の国道６号に至る総延長約9.9㎞の一般国道である。平成13年11月に，主要地方道相馬亘理線から国道113号の間約2.2㎞について暫定２車線で供用された。

建設予定区間およびその周辺において，昭和63年度に22遺跡の遺跡を確認している（『相馬バイパス遺跡分布調査報告Ⅰ』）。また，平成12年度の表面調査により，８遺跡と３遺跡推定地を新たに確認している（福島県教育委員会2001『福島県内遺跡分布調査報告７』）。

平成13年度は，相馬市内の１遺跡と新地町に所在する２遺跡１推定地の試掘調査を実施した。

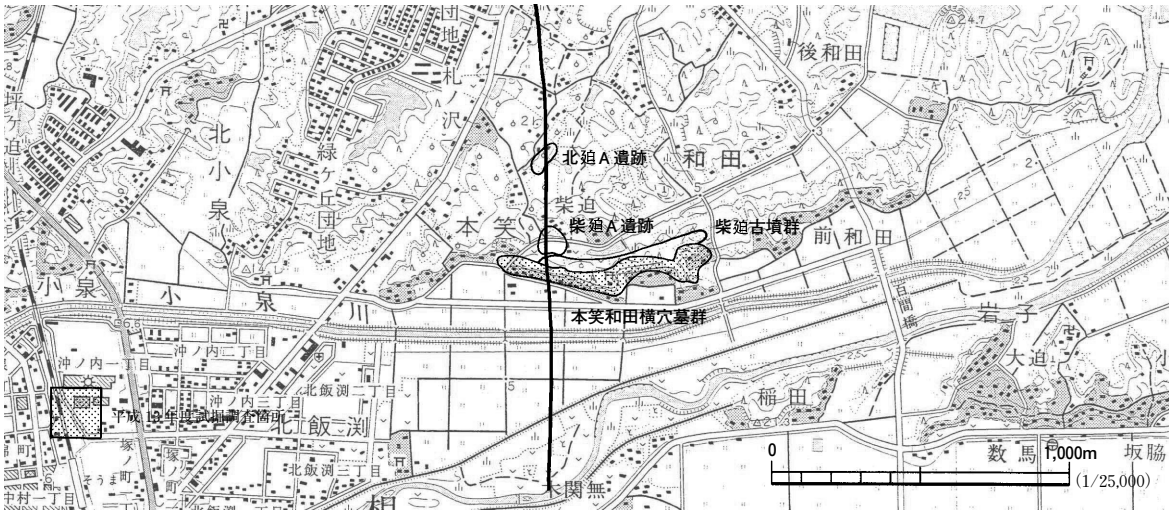


図49　相馬市の遺跡

表19　相馬市所在遺跡試掘調査成果一覧

No.	遺　跡　名	遺跡工区内面　　積	平成13年度調査		未試掘面積	平成13年度調査	
			調査対象面積	保存面積		検出遺構	出土遺物
1	本笑和田横穴墓群	4,600㎡	4,300㎡	0㎡	0㎡		土師器・須恵器・古銭
相馬市計		4,600㎡	4,300㎡	0㎡	0㎡		

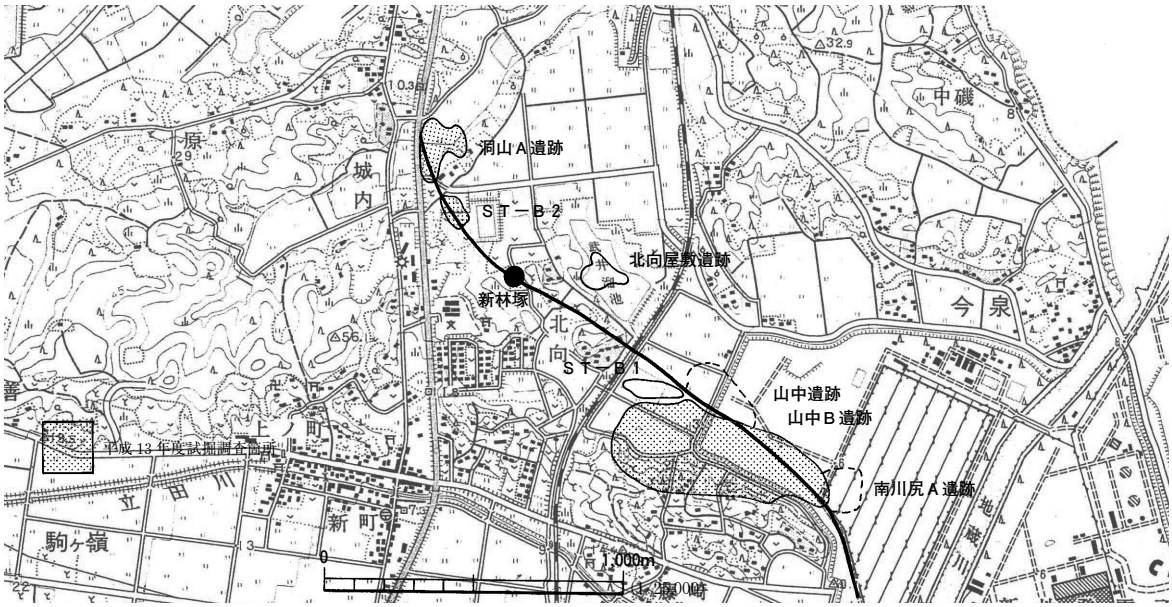


図50　新地町の遺跡

表20　新地町所在遺跡試掘調査成果一覧

No.	遺　跡　名	遺跡工区内面　　積	平成13年度調査		未試掘面積	平成13年度調査	
			調査対象面積	保存面積		検出遺構	出土遺物
1	山中Ｂ遺跡	14,800㎡	8,100㎡	3,350㎡	6,700㎡	土坑・溝跡・小穴	縄文土器･土師器･須恵器･陶磁器
2	洞山Ａ遺跡	2,700㎡	800㎡	0㎡	1,900㎡		
3	ＳＴ－Ｂ２	5,000㎡	1,300㎡	未確定	3,700㎡		鉄滓
新地町計		22,500㎡	10,200㎡	3,350㎡	12,300㎡		

(1)　相馬市の遺跡

１．本笑和田横穴墓群（第２次試掘調査）

所　在　地　相馬市本笑和田字西和田・馬場添　　**調 査 期 間**　平成13年６月25日～７月６日

調査対象面積　4,300㎡　　**トレンチ数**　10本　　**検 出 遺 構**　小穴

保 存 面 積　０㎡　　**出 土 遺 物**　土師器・須恵器・永楽通寶

［概　　要］　本笑和田横穴墓群は，柴廻古墳群の南に位置する南向き断崖とその下位の平坦面とからなる。平成11年度の試掘調査により製塩関連遺構の存在が指摘された（『福島県内遺跡分布調査報告６』）。

平成13年度の試掘調査は，断崖直下の畑地とその南に位置する工場跡地を対象に実施した。工場跡地は，断崖直下の畑地より１ｍあまり低い水田に盛土し造成したものである。

［ま　と　め］　断崖直下の３Ｔ・５Ｔにおいて，凝灰岩の岩盤に掘り込

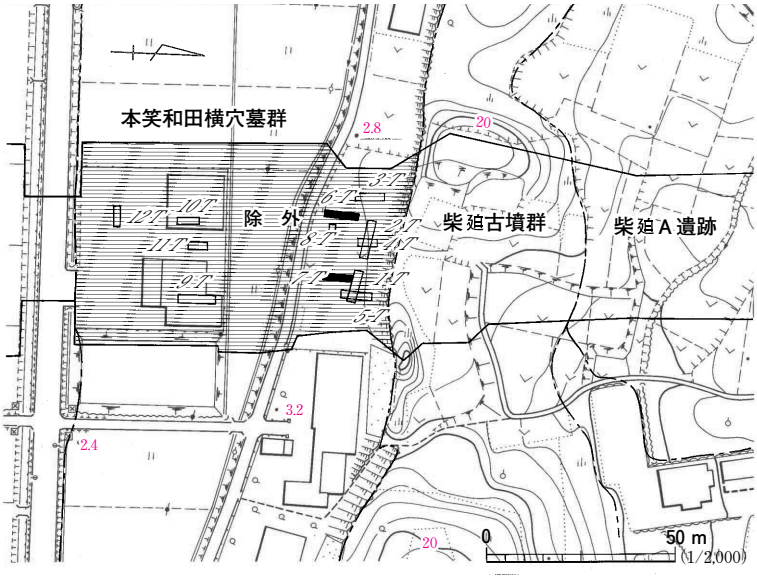


図51　本笑和田横穴墓群トレンチ配置図

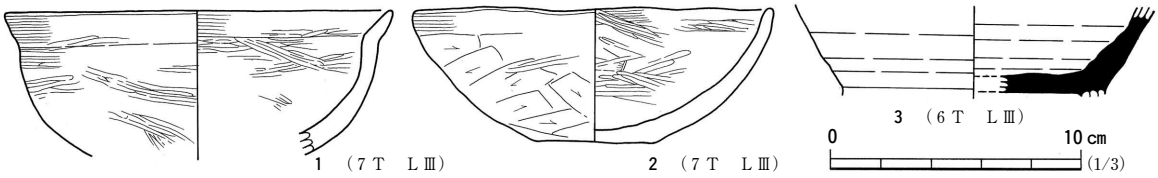


図52　本笑和田横穴墓群出土遺物

まれた小穴を確認した。６Ｔから須恵器，７Ｔから土師器杯が出土している。いずれも，崩落したと思われる凝灰岩の下，地表下230～260cmのⅠⅢ暗褐色粘質シルト層からの出土である。工場跡地に設けた10Ｔ・11Ｔにおいて水路や暗渠を確認した。盛土下の水田面とほぼ同じレベルから掘り込まれており，近・現代のものと考えられる。以上のことから，横穴直下の小穴を確認した付近を除く畑地と工場跡地については保存する必要はない。なお，横穴直下の平坦面については，平成13年７月に発掘調査を終えている。

⑵　新地町の遺跡

１．山中（やまなか）Ｂ遺跡

所　在　地　新地町駒ヶ嶺字山中

調査対象面積　8,100㎡　　**トレンチ数**　26本

保 存 面 積　3,350㎡以上

調 査 期 間　平成13年11月15日～29日

検 出 遺 構　土坑・溝跡・小穴

出 土 遺 物　縄文土器・土師器・須恵器・陶磁器

山中Ｂ遺跡（北から）

［概　　要］　山中Ｂ遺跡は，昭和63年度に実施した表面調査により発見された遺跡である（福島県教育委員会1992『一般国道６号相馬バイパス遺跡分布調査報告Ⅰ』）。旧新沼浦の最も奥まった丘陵部に位置している。本遺跡には，相馬開発関連にともない昭和60・62年度に発掘調査を実施した山中遺跡・南川尻Ａ遺跡が隣接している（福島県教育委員会1990『相馬開発関連遺跡調査報告Ⅱ』）。

平成13年11月から試掘調査を実施した場所は，丘陵頂部とその裾部にあたる旧新沼浦の沖積地である。建設予定地内のうち，住宅地部分とその周辺部，及び山中遺跡に隣接する水田部分を除く8,100㎡を対象とした。遺跡の現況は，丘陵頂部は畑地および山林，丘陵裾部の沖積地は畑地と水田である。

［遺構・遺物］　丘陵東側の沖積地に設けた１Ｔ・２Ｔにおいて，基盤層である凝灰岩盤（ⅠⅧ）を刳り貫いた溝跡を確認した。相馬開発関連で調査した近世の製塩遺跡である南川尻Ａ遺跡の南隣に位置することから，

表21　山中Ｂ遺跡トレンチ一覧

トレンチ番号	検出遺構 種類(時代)	検出遺構 確認面までの深さ	検出遺構 遺構内掘込み	出土遺物(時代)	トレンチ番号	検出遺構 種類(時代)	検出遺構 確認面までの深さ	検出遺構 遺構内掘込み	出土遺物(時代)
１Ｔ	溝跡	100cm	○	陶磁器	14Ｔ	溝跡	30cm	×	鉄滓
２Ｔ	溝跡・杭列	70cm	○	陶磁器	15Ｔ	土坑	40cm	×	土師器
３Ｔ	土坑	100cm	×		19Ｔ				縄文土器
７Ｔ				陶磁器	20Ｔ	溝跡	30cm	×	土師器・鉄滓
９Ｔ				陶磁器	21Ｔ	土坑・小穴	70cm	×	
12Ｔ				陶磁器	24Ｔ				須恵器
13Ｔ	溝跡	30cm	○	土師器	26Ｔ				土師器

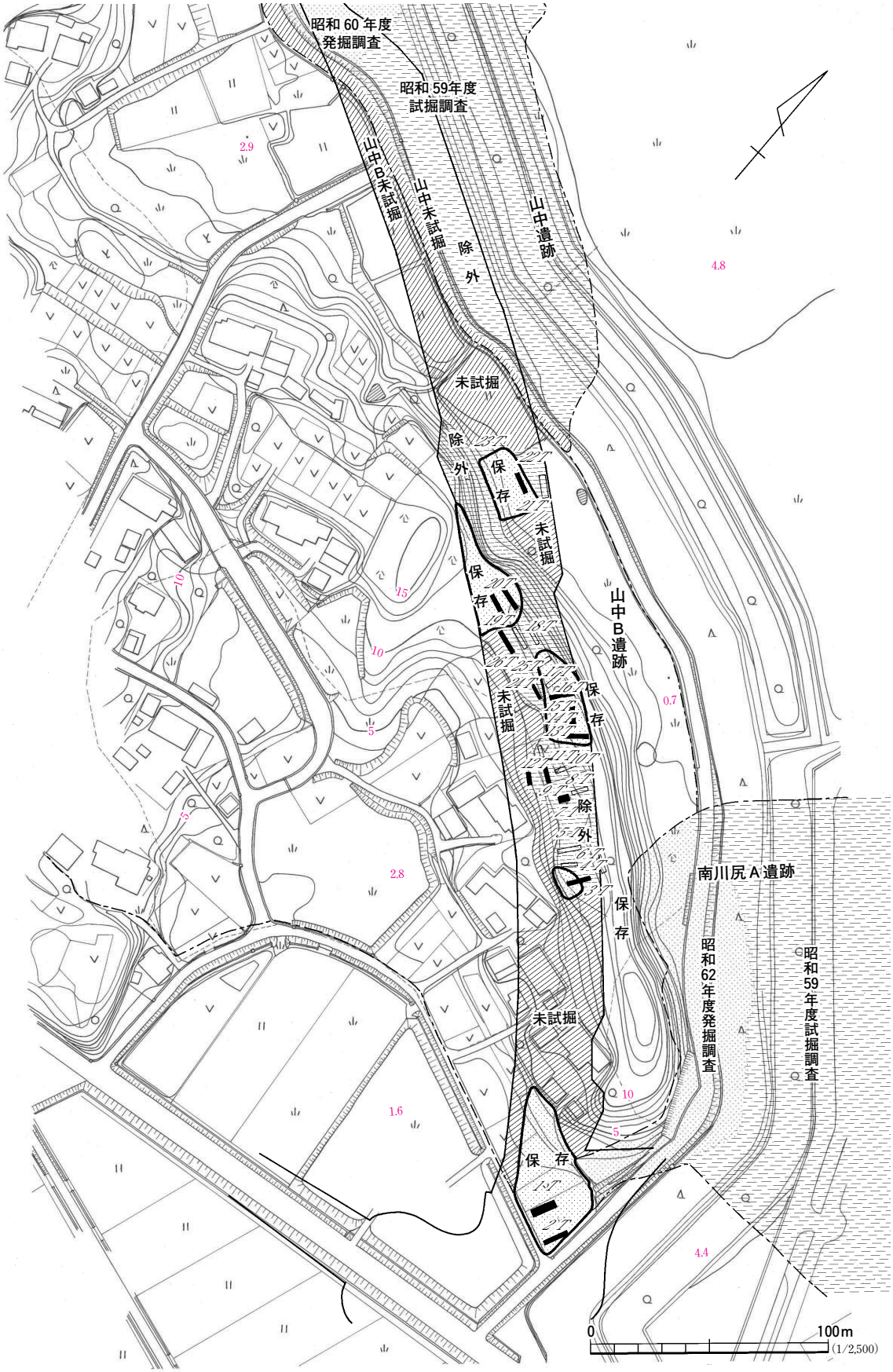


図53　山中Ｂ遺跡トレンチ配置図

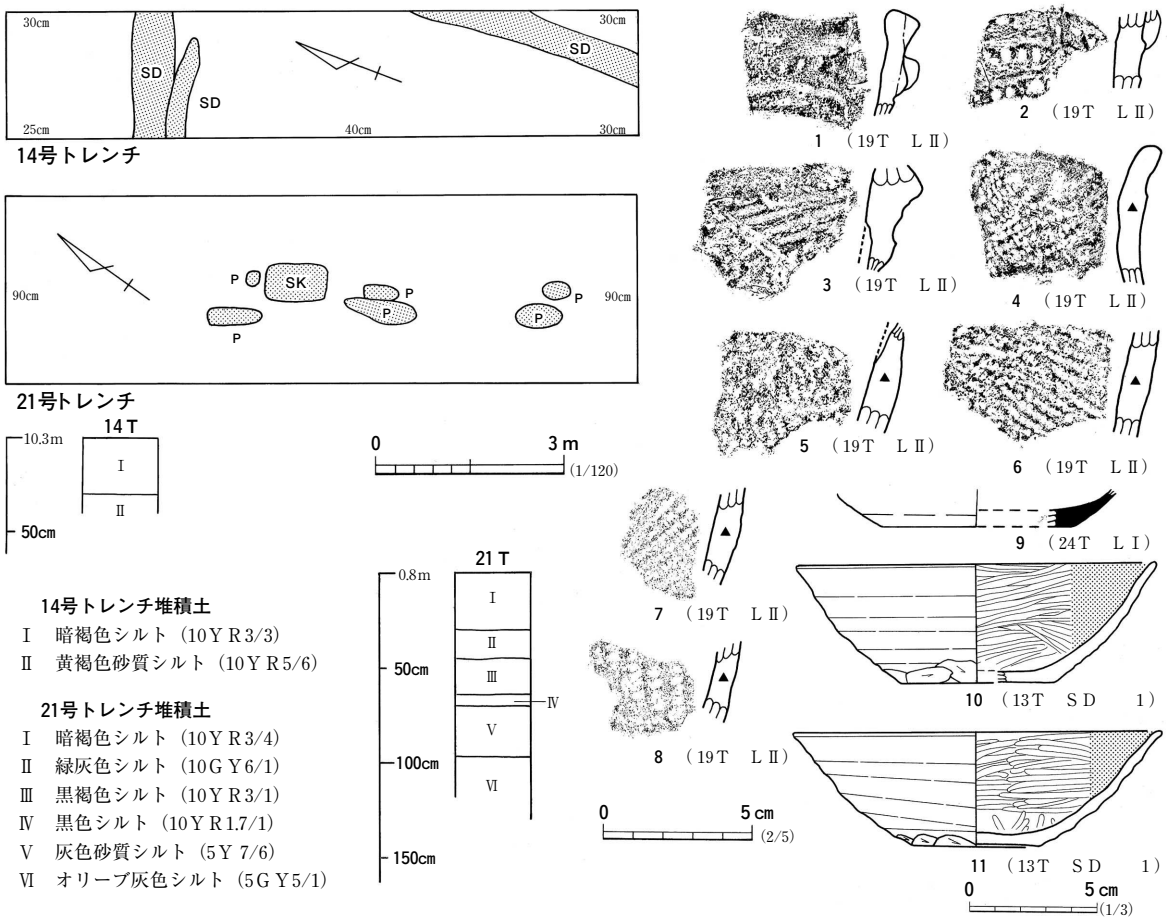


図54　山中Ｂ遺跡検出遺構・出土遺物・土層柱状図

これに連続する製塩関連施設の可能性が考えられる。丘陵南東の裾部に，凝灰岩質砂岩を掘削し構築した横穴がある。内壁に「明和九年」の紀年銘があることから，この横穴も製塩関連の施設と考えられる。

丘陵頂部の山林に設けた13Ｔ・14Ｔ・20Ｔで溝跡を検出した。検出面は，地表から約30～40cm掘り下げたＬⅡ黄褐色砂質シルト上面である。13Ｔの溝跡の検出面，及びℓ１より土師器杯が出土している。また，丘陵頂部北西側において，縄文時代早期・前期の遺物包含層を確認した。遺物包含層はＬⅡ褐色シルトで，10～20cmの厚さである。この包含層は，19Ｔの北西斜面に広がると考えられる。

丘陵北西側の沖積地に設定した21Ｔでは，土坑１基と小穴６個を確認した。確認面は，地表から約70cm掘り下げたＬＶ灰色砂質シルト上面である。出土遺物はないものの，南川尻Ａ遺跡の北西側に位置することから，製塩関係の施設である可能性が推定される。

［ま　と　め］　試掘調査の結果から，図53に示す合計3,350㎡の保存が必要である。なお，保存範囲は今回試掘対象外であった宅地とその周辺部，及び山中遺跡に隣接する水田部分に連続する可能性がある。このため，保存範囲を確定するためには，これらの部分6,700㎡の試掘調査が必要である。

２．洞山（ほらやま）Ａ遺跡

所　在　地　新地町駒ヶ嶺字洞山　　**調査期間**　平成13年12月５日～７日

調査対象面積　800㎡　　**トレンチ数**　２本　　**検出遺構**　なし

保存面積　０㎡　　**出土遺物**　なし

図55　洞山Ａ遺跡・ＳＴ－Ｂ２トレンチ配置図

［概　　要］ 洞山Ａ遺跡は，昭和57年度に福島県教育委員会が実施した表面調査により発見された遺跡である。武井地区の丘陵南西部に位置し，遺跡の西を国道６号が南北に走っている。本遺跡は，谷底地形に立地し，現況は荒地となっている。

［ま　と　め］ 平成13年度の試掘調査によって遺構や遺物を認めることはできず，調査範囲の保存は必要ない。しかし，６号バイパスの路線計画変更にともない，新たに試掘調査の必要が生じている。

３．ＳＴ－Ｂ２

所　在　地　新地町駒ヶ嶺字洞山　　**調 査 期 間**　平成13年11月29日～12月５日

調査対象面積　1,300㎡　　**トレンチ数**　11本　　**検 出 遺 構**　なし

保 存 面 積　未確定　　**出 土 遺 物**　鉄滓

［概　　要］ ＳＴ－Ｂ２は，平成12年度実施の表面調査によって発見された場所である（『福島県内遺跡分布調査報告７』）。近隣に洞山Ａ遺跡，及び昭和60年度に発掘調査を実施した洞山Ｃ・Ｄ・Ｅ遺跡が所在する（福島県教育委員会1989『相馬開発関連遺跡調査報告Ⅰ』）。現況は果樹園である。

［ま　と　め］ 調査の結果，１Ｔより鉄滓が出土した。今回は立木の間をぬっての調査のため，地山面まで掘削することができず，十分な調査を行えなかった。条件整備の後，再度確認する必要があると考えられる。

第６節　県営かんがい排水事業相馬第二地区予定地

県営かんがい排水事業相馬第二地区は，相双地区北部，相馬市から新地町にかけての地域における農業用水の安定的な確保を目指して行われているかんがい排水事業である。相馬市と新地町にまたがる工区内およびその周辺部において，昭和63年度の表面調査により61遺跡の存在を確認している（福島県教育委員会1989『相馬地区遺跡分布図４』）。また，平成13年10月に実施した表面調査により，新地町内に落合遺跡と遺跡推定地３ヵ所，相馬市内に遺跡推定地２ヵ所を確認している（本書66頁）。

本年度は，相馬市所在の堂ヶ平Ａ遺跡とＳＭ－Ｂ101を対象に試掘調査を実施した。調査期間は，平成13年12月７日～18日である。

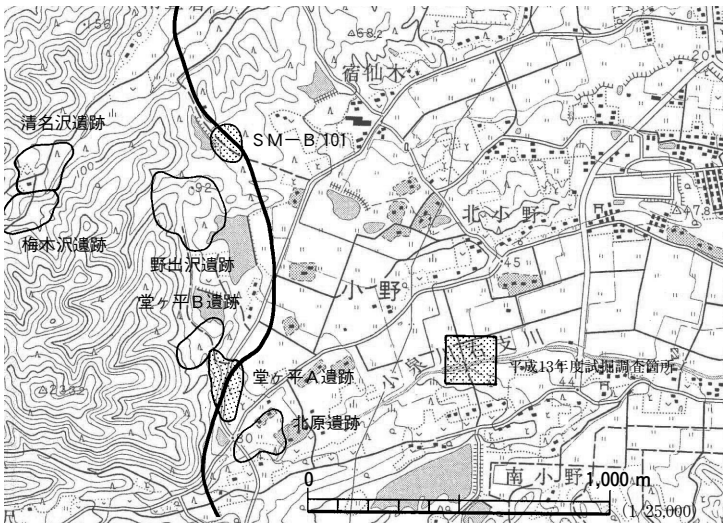


図56　相馬市の遺跡

表22　相馬市所在遺跡試掘調査成果一覧

No.	遺　跡　名	遺跡工区内面　　積	平成13年度調査		未試掘面積	平成13年度調査	
			調査対象面積	保存面積		検出遺構	出土遺物
1	堂ヶ平Ａ遺跡	800㎡	450㎡	0㎡	350㎡		
2	ＳＭ－Ｂ101（宿仙木Ａ遺跡）	2,000㎡	1,000㎡	1,000㎡	1,000㎡	住居跡(縄文･平安)･土坑	縄文土器・弥生土器 土師器・石器
相馬市計		2,800㎡	1,450㎡	1,000㎡	1,350㎡		

１．堂ヶ平Ａ遺跡

所　在　地　相馬市黒木字堂ヶ平　　**調査期間**　平成13年12月７日～12日

調査対象面積　450㎡　　**トレンチ数**　５本　　**検出遺構**　なし

保存面積　０㎡　　**出土遺物**　鉄滓

［概　　要］　堂ヶ平Ａ遺跡は，縄文土器・鉄滓の散布地として登録された周知の遺跡である。小泉川右支川中流域の丘陵頂部から裾部に広がる緩斜面に立地している。

平成13年度は，用水路建設予定地800㎡のうち南半部450㎡を対象に試掘調査を実施した。現況は荒地および休耕田である。

［ま　と　め］　調査の結果，遺構は確認されなかった。遺物は３Ｔから鉄滓が出土したのみである。この鉄滓は，表土からの出土であった。このことから，今回の調査範囲の保存は必要ない。

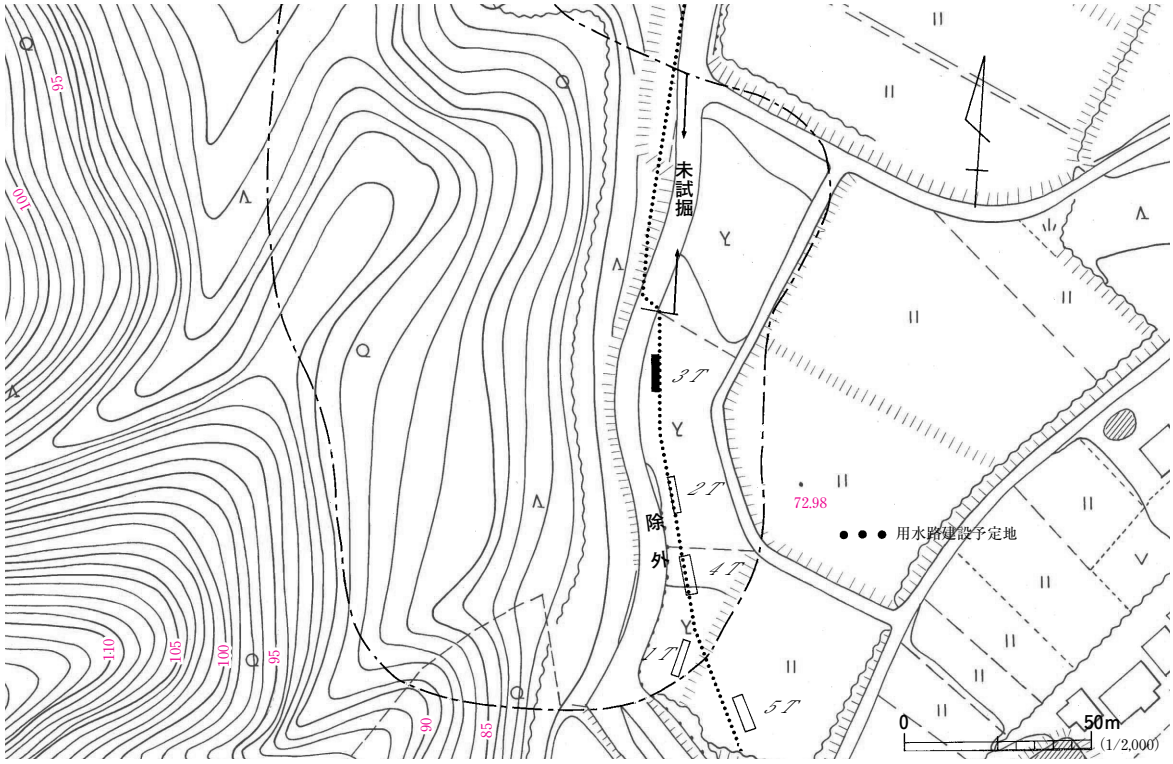


図57　堂ヶ平Ａ遺跡トレンチ配置図

２．ＳＭ－Ｂ101（宿仙木Ａ遺跡）

所　在　地　相馬市大字黒木字宿仙木

調査対象面積　1,000㎡　　**トレンチ数**　10本

保存面積　1,000㎡

調査期間　平成13年12月12日～18日

検出遺構　竪穴住居跡・土坑・小穴

出土遺物　縄文土器・土師器・石器・陶磁器

［概　　要］　ＳＭ－Ｂ101は，阿武隈山系東縁の丘陵部に位置している。平成13年10月に実施した表

宿仙木Ａ遺跡（北から）

面調査の際に発見された（本書66頁）。ＳＭ－Ｂ101は丘陵頂部の平坦面および南側斜面に立地し，現況は山林である。平成13年度の試掘調査は用水路建設予定地1,300㎡のうち，農道と共有する範囲300㎡を対象に行う予定であった。しかし，農道の下に用水路を設置することから，農道建設予定地を含めた1,000㎡について試掘調査を行うこととなった。

［遺構・遺物］ 調査区内に10本のトレンチを配して試掘調査を行った。丘陵頂部に設けた４ＴのＬⅡ暗褐色シルトより縄文時代後期初頭の縄文土器片が多数出土した。トレンチ断面の観察から，土坑と重複するような状況で竪穴住居跡を確認した。このことから，これらの縄文土器はこの住居跡に伴うものである可能性が高い。住居跡確認面は地表より約20cm掘り下げたＬⅡ上面である。３Ｔ断面のＬⅡ上面においても土坑を確

図58　ＳＭ－Ｂ101（宿仙木Ａ遺跡）トレンチ配置図

表23　ＳＭ－Ｂ101（宿仙木Ａ遺跡）トレンチ一覧

トレンチ番号	検出遺構 種類(時代)	検出遺構 確認面までの深さ	検出遺構 遺構内掘込み	出土遺物(時代)	トレンチ番号	検出遺構 種類(時代)	検出遺構 確認面までの深さ	検出遺構 遺構内掘込み	出土遺物(時代)
1Ｔ				弥生土器	7Ｔ	住居跡・小穴	25cm	×	土師器
3Ｔ	土坑	70cm	○	石器	8Ｔ				焼土塊
4Ｔ	住居跡・土坑	70cm	○	縄文土器	9Ｔ				土師器

認している。また、このトレンチのＬⅡ暗褐色シルトより石匙が１点出土している。

丘陵南側斜面の７Ｔにおいて，竪穴住居跡と小穴２個を検出した。検出面は，ともに地表から約30cm掘り下げたＬⅣ黄褐色シルト上面である。住居跡検出面より土師器甕が出土している。

斜面裾部の10Ｔにおいて遺構・遺物を認めることはできなかった。

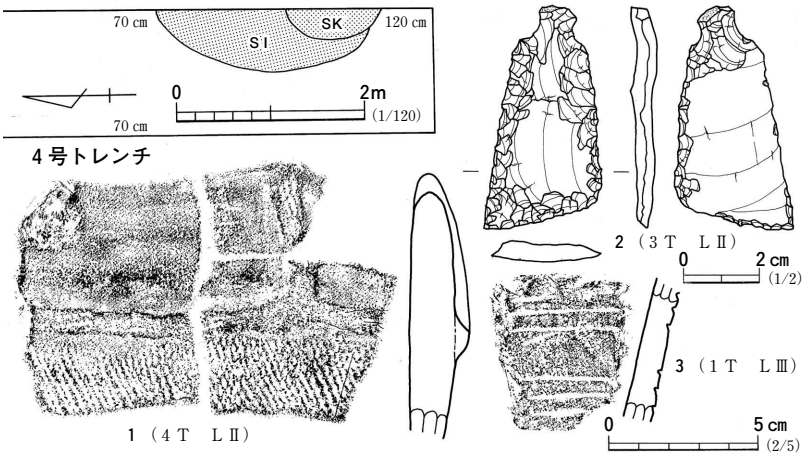


図59　ＳＭ－Ｂ101（宿仙木Ａ遺跡）検出遺構・出土遺物

［ま　と　め］ 試掘調査の結果，丘陵頂部の４Ｔで縄文時代の竪穴住居跡を確認し，丘陵南側斜面の７Ｔにおいては奈良・平安時代の竪穴住居跡を確認した。以上のことから，今回試掘調査した1,000㎡についての保存が必要である。ＳＭ－Ｂ101は縄文時代及び奈良・平安時代の複合する集落跡であると考えられ，所在地の字名から名称を「宿仙木Ａ遺跡」とした。

第７節　地域高規格道路（会津縦貫北道路）建設予定地

会津縦貫北道路は，都市部と中山間地域との連携・交流の促進と都市や産業，観光資源などを有機的に結び，移動時間などの交流条件の格差是正を目的とした地域高規格道路である。平成９年度より，喜多方市関柴町から会津若松市高野町の延長13.1kmについての事業が行われている。

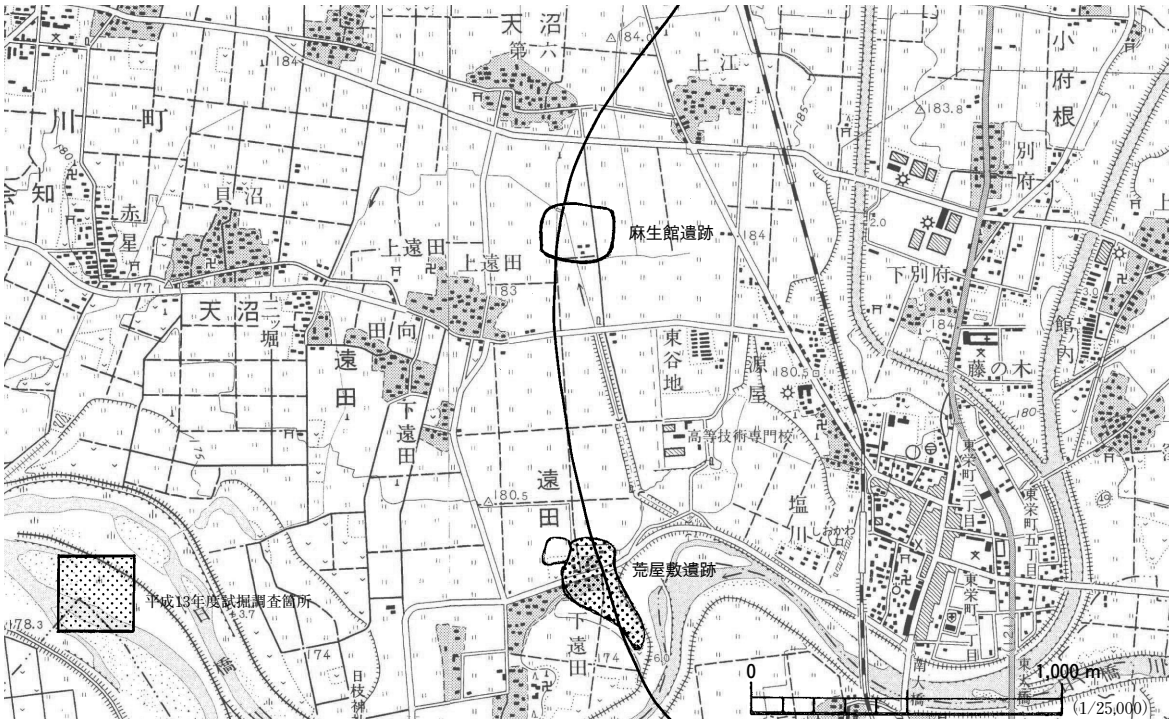


図60　塩川町の遺跡

１．荒屋敷（あらやしき）遺跡（第２次試掘調査）

所　在　地　塩川町遠田字荒屋敷

調査対象面積　7,500㎡　　**トレンチ数**　16本

保 存 面 積　2,100㎡

調 査 期 間　平成13年12月10日～13日

検 出 遺 構　竪穴住居跡・溝跡・小穴・遺物包含層

出 土 遺 物　縄文土器・土師器・須恵器・磁器他

［概　　要］　平成13年度は，荒屋敷遺跡の東部縁辺部を対象に試掘調査を実施した。本遺跡の中央部については，平成12年度，第１次試掘調査を実施し（福島県教育委員会2001『福島県内遺跡分布調査報告７』），平成13年12月に発掘調査を終えている。これらの調査により，本遺跡は，縄文時代後期・晩期から中近世にかかる複合遺跡であることが明らかとなっている。遺跡を南北に貫流する排水路部分については，平成12年度に塩川町教育委員会によって発掘調査されている。

［遺構・遺物］　12Ｔ・13ＴのＬⅡ黒褐色土中から９世紀代と考えられる土師器と須恵器が出土した。また，９Ｔにおいては，12世紀後半と考えられる白磁が出土し，13Ｔから鉄製刀子が出土している。

３本のトレンチで遺構を確認した。９ＴのＬⅢ上面で溝跡１条を確認した。断面の形状，大きさから河川流路跡と考えられる。10ＴのＬⅣ黄褐色土上面において方形を基調とする遺構を確認した。形状と大きさから竪穴住居跡と推定される。13ＴのＬⅡ上面において溝跡１条を検出した。ＬⅡは，平安時代から中世にかけての遺物包含層と認められ，この溝跡については，中世以降のものと考えられる。

表24　荒屋敷遺跡トレンチ一覧

トレンチ番号	検出遺構 種類(時代)	検出遺構 確認面までの深さ	検出遺構 遺構内掘込み	出土遺物(時代)
2Ｔ				須恵器
4Ｔ				土師器
9Ｔ	溝跡	75cm	○	土師器・磁器
10Ｔ	住居跡・小穴	78cm	×	
12Ｔ				須恵器
13Ｔ	溝跡	48cm	×	土師器・須恵器・鉄器
14Ｔ				縄文土器・土師器・磁器

荒屋敷遺跡（南から）

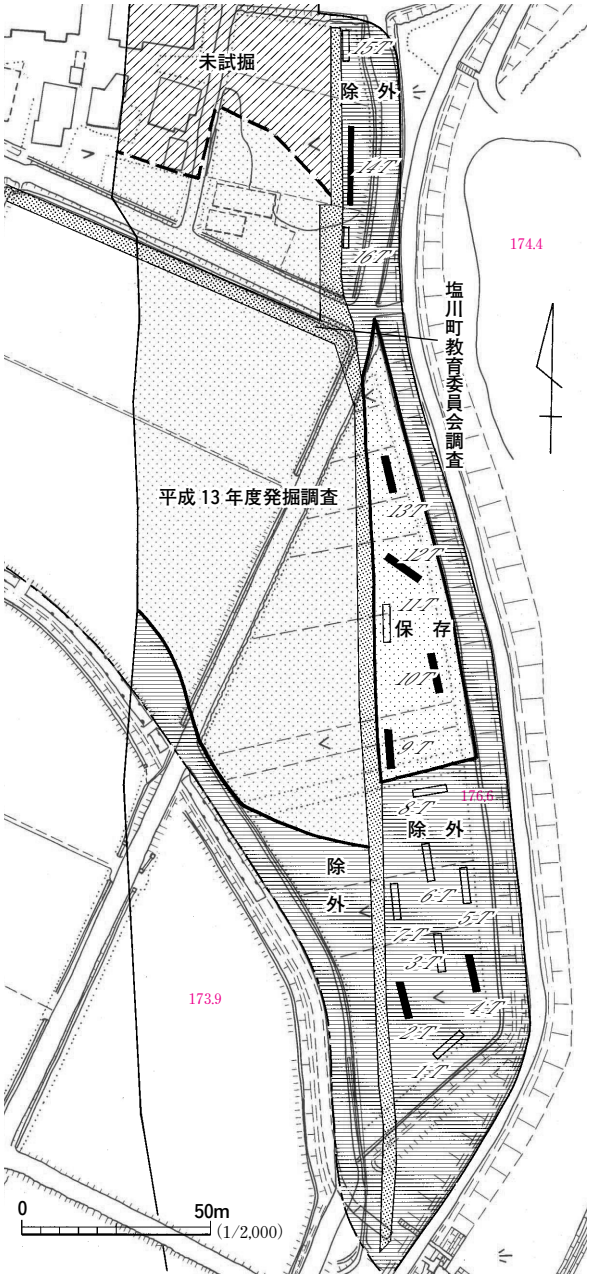


図61　荒屋敷遺跡トレンチ配置図

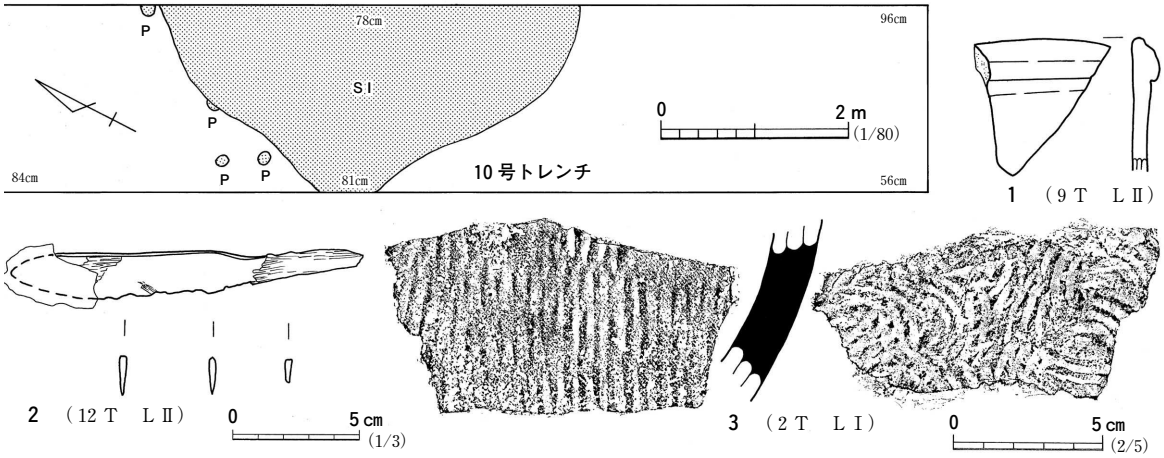


図62　荒屋敷遺跡検出遺構・出土遺物

［ま　と　め］　調査範囲の中央に設けた９Ｔ～13Ｔにおいて，遺物や遺構を確認した。ＬⅡ・Ⅲとした黒褐色土はこの周囲にのみ見られ，ＬⅡについては古代から中世にかけての遺物包含層と認められる。以上の調査成果から，調査範囲の中央部分2,100㎡の保存が必要である。

第８節　一般国道289号南倉沢バイパス建設予定地

一般国道289号の南会津郡下郷町から西白河郡西郷村間は，那須火山帯に位置する急峻な甲子峠に阻まれ交通不能区間となっている。南倉沢バイパスは，この交通不能を解消する甲子道路の一部であり，下郷町大松川から同南倉沢に至る延長約6.2㎞の２車線道路である。

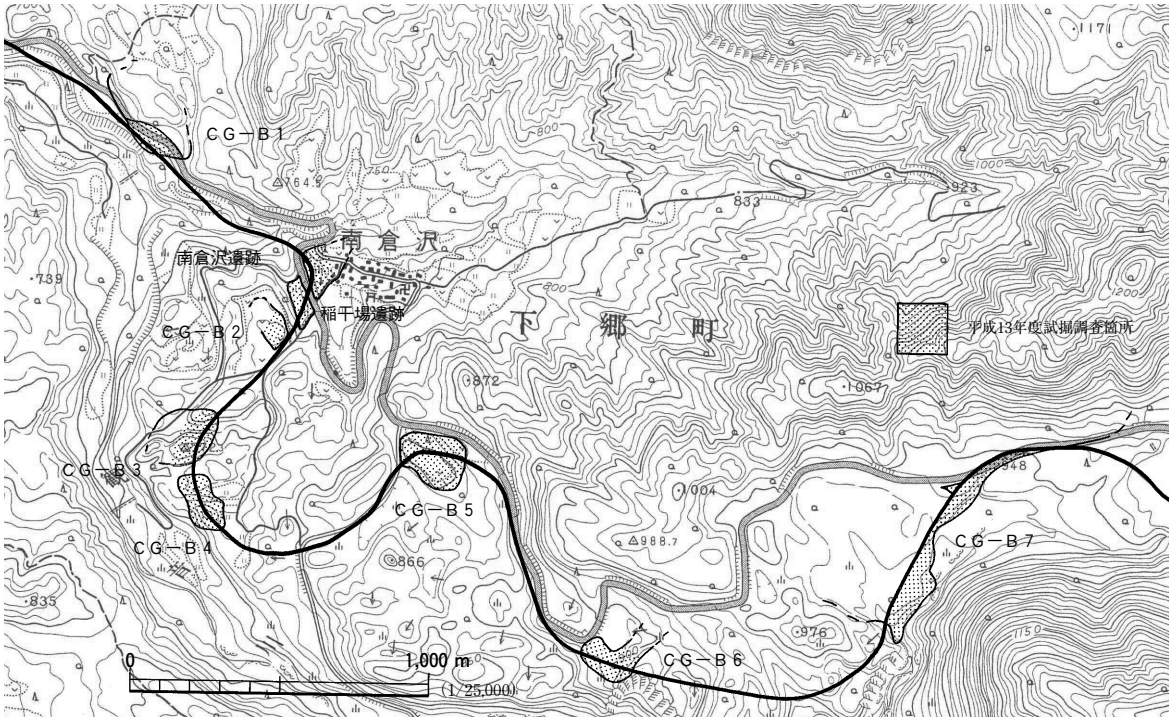


図63　下郷町の遺跡

表25　下郷町所在遺跡試掘調査成果一覧

No.	遺　跡　名	遺跡工区内面　　積	平成13年度調査		未試掘面積	平成13年度調査	
			調査対象面積	保存面積		検出遺構	出土遺物
1	南倉沢遺跡	4,300㎡	4,300㎡	3,100㎡	0㎡	遺物包含層（縄文）	縄文土器･磨製石斧･石皿
2	稲干場遺跡	8,000㎡	8,000㎡	6,200㎡	0㎡	遺物包含層･土坑(縄文)	縄文土器
3	ＣＧ－Ｂ１	5,800㎡	5,800㎡	0㎡	0㎡		縄文土器
4	ＣＧ－Ｂ２	3,800㎡	3,800㎡	0㎡	0㎡		
5	ＣＧ－Ｂ３	9,300㎡	9,300㎡	0㎡	0㎡		
6	ＣＧ－Ｂ４	7,600㎡	7,600㎡	0㎡	0㎡		
7	ＣＧ－Ｂ５	16,600㎡	2,900㎡	未確定	13,700㎡	土坑（縄文）	
8	ＣＧ－Ｂ６	8,900㎡	3,600㎡	0㎡	5,300㎡		
9	ＣＧ－Ｂ７	28,300㎡	26,500㎡	未確定	1,800㎡	土坑（縄文）	
下郷町計		92,600㎡	71,800㎡	9,300㎡	20,800㎡		

平成13年度の試掘調査は，平成13年７月に実施した表面調査の結果を受け（本書69頁），周知の２遺跡と７ヵ所の遺跡推定地を対象に実施した。調査地点は，いずれも観音川台地の上にあり，その土壌は沢田統，または二岐Ｉ統に分類されている。（福島県農地林務部1978『会津開発地域土地分類基本調査：田島』）。

１．南倉沢（なぐらさわ）遺跡

所　在　地　下郷町大字南倉沢字下ノ原他

調査対象面積　4,300㎡　　**トレンチ数**　18本

保 存 面 積　3,100㎡

調 査 期 間　平成13年10月22日～30日

検 出 遺 構　遺物包含層

出 土 遺 物　縄文土器・磨製石斧・石皿

南倉沢遺跡（北東から）

［概　　要］　南倉沢遺跡は昭和45年頃，耕作中に縄文土器１個体分が出土したといわれる周知の遺跡である。本遺跡は，小谷川に面した段丘上に立地し，南に稲干場遺跡が隣接している。

南倉沢遺跡は２ヵ所に分割して登録されている（福島県教育委員会1996『福島県遺跡地図』）。平成13年度の試掘調査は，国道289号の東，南倉沢集落に接する範囲の一部を対象とした。

南北に延びる尾根上（標高745～765m）と，その北東斜面に広がる畑・水田等（標高735～745m）を対象に試掘調査を行った。畑や水田の一部は，自然地形を削平し平坦面として利用したものである。

［遺構・遺物］　試掘調査は，地形上の制約や作物の作付け状況により，２×２mや２×４mなどの小型のトレンチを数多く設定し行った。尾根上と水田・畑部に，それぞれ９本のトレンチを設けた。

国道289号東の尾根上北端に設けた８Ｔから縄文時代早期の土器が出土している。出土層位は，地表から20cmあまり下に現れるＬⅦ暗褐色シルト層である。

９Ｔ～11Ｔを中心とする調査区北半から縄文土器・石器が出土した。縄文土器は，浮島式系の縄文土器が主である。これらは，地表から20～30cm下に見られるＬＶ黒褐色シルト層より出土している。このＬＶ黒褐色シルト層は，10～30cmの厚さで堆積しており，沼沢パミスと思われる黄橙色の火山性堆積物が混入する。９Ｔにおいては，縄文時代後期に属する土器が集中して出土し，石皿も出土したことから住居跡の可能性を考慮し精査を行った。しかしながら，本試掘調査においては，住居跡を確認するには至らなかった。10Ｔ・

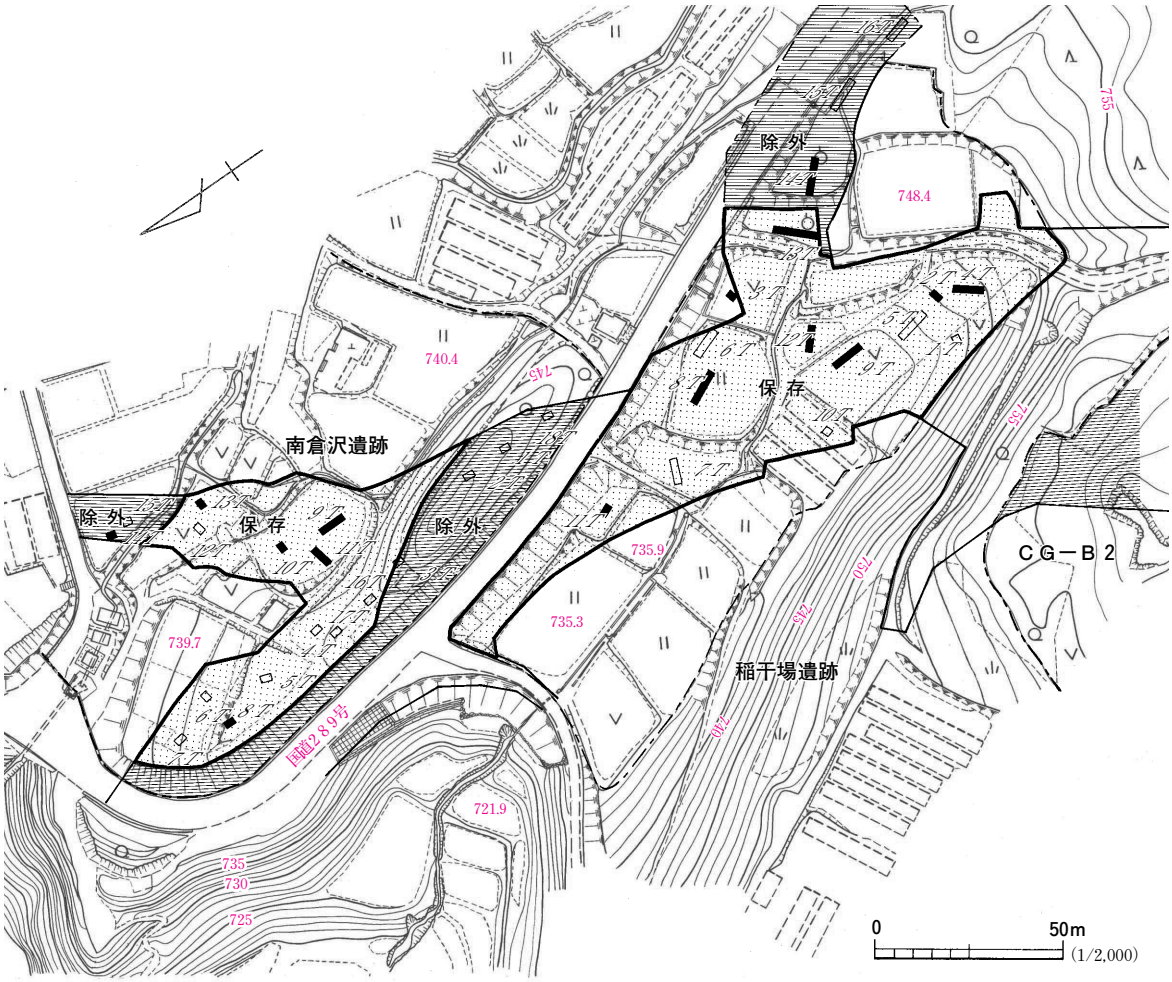
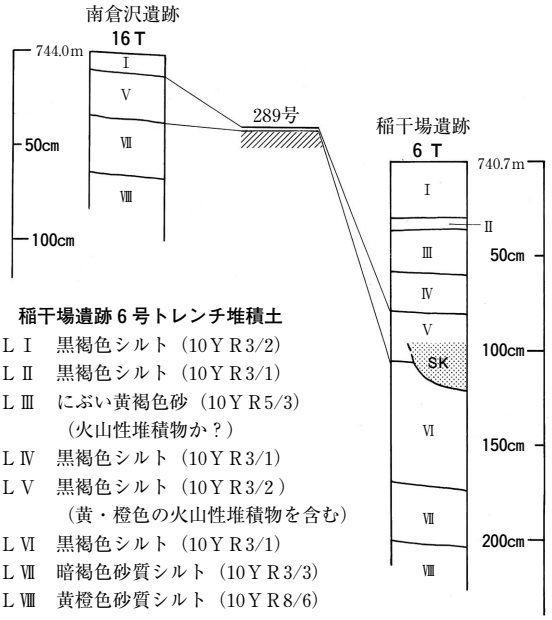


図64　南倉沢遺跡・稲干場遺跡トレンチ配置図



稲干場遺跡６号トレンチ堆積土

ＬⅠ　黒褐色シルト（10ＹＲ3/2）
ＬⅡ　黒褐色シルト（10ＹＲ3/1）
ＬⅢ　にぶい黄褐色砂（10ＹＲ5/3）
　　（火山性堆積物か？）
ＬⅣ　黒褐色シルト（10ＹＲ3/1）
ＬⅤ　黒褐色シルト（10ＹＲ3/2）
　　（黄・橙色の火山性堆積物を含む）
ＬⅥ　黒褐色シルト（10ＹＲ3/1）
ＬⅦ　暗褐色砂質シルト（10ＹＲ3/3）
ＬⅧ　黄橙色砂質シルト（10ＹＲ8/6）

図65　南倉沢遺跡・稲干場遺跡土層柱状図

表26　南倉沢遺跡トレンチ一覧

トレンチ番号	検出遺構			出土遺物（時代）
	種類(時代)	確認面までの深さ	遺構内掘込み	
8Ｔ				縄文土器・石器剥片
9Ｔ				縄文土器(前・後期)・石皿
10Ｔ				縄文土器（前期）
11Ｔ				縄文土器・磨製石斧
13Ｔ				縄文土器（前期）
14Ｔ				縄文土器

表27　稲干場遺跡トレンチ一覧

トレンチ番号	検出遺構			出土遺物（時代）
	種類(時代)	確認面までの深さ	遺構内掘込み	
2Ｔ				縄文土器（後期）
3Ｔ	土坑（縄文）	190cm	○	
4Ｔ				縄文土器（後期）
6Ｔ	土坑（縄文）	107cm	○	
8Ｔ				縄文土器
9Ｔ				縄文土器（後期）
11Ｔ				縄文土器
13Ｔ				縄文土器
14Ｔ				縄文土器
15Ｔ				縄文土器

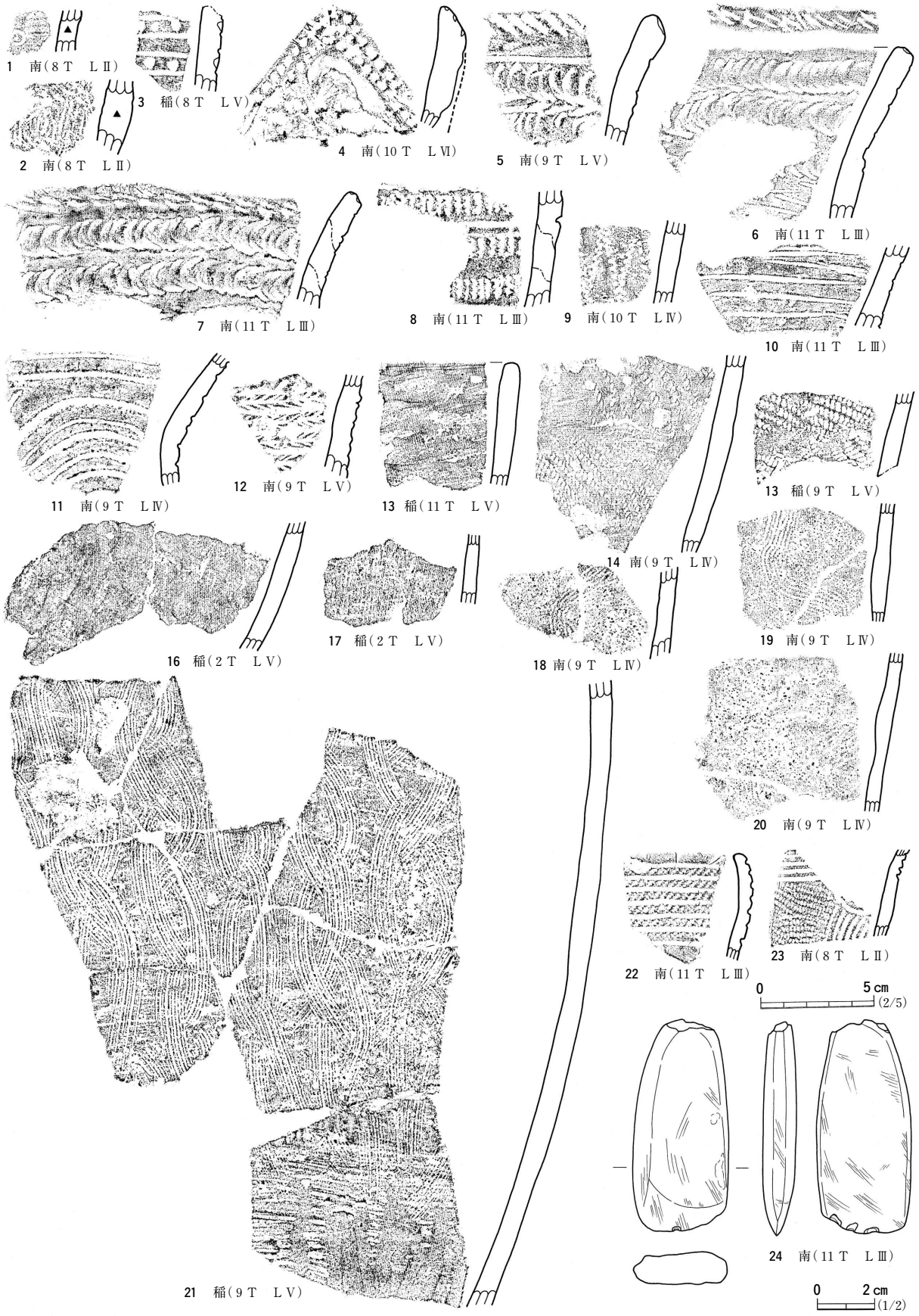


図66　南倉沢遺跡・稲干場遺跡出土遺物

11Ｔにおいては，縄文時代前期の土器と磨製石斧が出土している。14Ｔから出土した縄文土器は，耕作により混入したものと考えられる。

［ま　と　め］ 尾根の北半部において確認した，縄文時代前期の遺物を多く含むＬＶ黒褐色シルト層は，面的に広がることから遺物包含層であると考えられる。９Ｔ～11Ｔ付近においては，石皿を含む多数の遺物が出土しており，この付近にＬＶ黒褐色シルト層に掘り込まれた遺構があると推定される。３Ｔから南の範囲においては，表土の直下にＬⅧ黄橙色砂質シルトがあり，遺物包含層は存在しない。

このれらのことから，平成13年度の試掘調査対象範囲においては，尾根部の南半部及び水田部を除いた４Ｔ～13Ｔを含む3,100㎡の保存が必要である。

２．稲干場（いなぼしば）遺跡

所　在　地　下郷町大字南倉沢字稲干場他

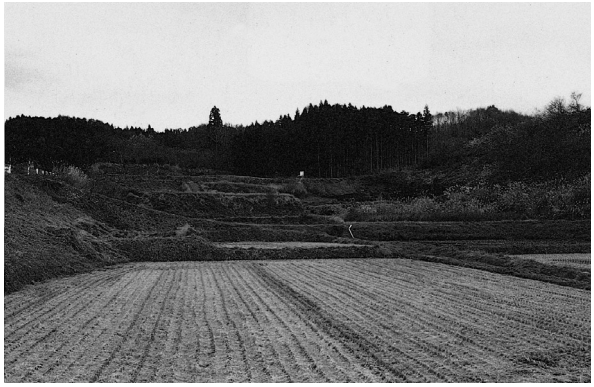
調査対象面積　8,000㎡　　**トレンチ数**　16本

保 存 面 積　6,200㎡

調 査 期 間　平成13年10月22日～11月１日

検 出 遺 構　土坑・遺物包含層

出 土 遺 物　縄文土器



稲干場遺跡（北から）

［概　　要］ 稲干場遺跡は，昭和53年に縄文土器の散布地として発見された周知の遺跡である。地元での聴き取りによると，平成５年頃に実施された農道拡張工事の際に多量の縄文土器が出土したという。

本遺跡は，遺跡北側に位置する小谷川に向かって延びる標高735～750ｍの谷地形に立地している。南倉沢遺跡の南に位置し，西側の残丘上に遺跡推定地ＣＧ－Ｂ２がある。本遺跡の現況は水田・畑地および休耕田である。

［遺構・遺物］ 調査対象範囲中央付近に設けた３Ｔ・６Ｔにおいて土坑を確認した。３Ｔの土坑は，地表から200cmほど下のＬⅧ黄橙色粘質シルト上面で確認した。その平面形は，約50cm×100cmの長方形をしており，確認面から底面までの深さは54cmであった。６Ｔの東断面において，沼沢パミスと思われる黄橙色の火山性堆積物を含む土坑状の落ち込みを確認した。この落ち込みは，地表から100cmあまり下のＬＶ黒褐色シルト層の中程にある。このＬＶ黒褐色シルト層には，２～４cm径の黄色または橙色の火山性堆積物が少量混入している。遺構内堆積土の観察より，いずれも，縄文時代に属する土坑と考えられる。

遺物は，２Ｔ・４Ｔ・８Ｔ・９Ｔ・11Ｔ・13Ｔ～15Ｔから出土している。出土遺物の多くは，縄文時代後期のものであった。出土層位は，いずれも地表から50cmあまり下のＬⅣ黒褐色シルト層である。広範囲にわたり，この層から多くの遺物が出土することから，ＬⅣは，縄文時代後期の遺物包含層と考えられる。

調査範囲南東部に設けた14Ｔ～16Ｔにおいても縄文土器が出土している。これらのトレンチでは，表土の直下に黄橙色系の粘質土が現れ，先に遺物包含層と考えたＬⅣ黒褐色シルト層は見られなかった。出土した遺物は，表土からの出土であり，撹乱によって混入したものと考えられる。

［ま　と　め］ 今回の試掘調査により，縄文時代の遺構と考えられる土坑２基と縄文時代後期の遺物包含層を確認できた。これらの調査結果から，遺物包含層と考えられるＬⅣ黒褐色シルト層の広がる6,200㎡の保存が必要である。

３．ＣＧ－Ｂ１

所　在　地　下郷町大字大松川字小沼　　**調 査 期 間**　平成13年11月14日～16日

調査対象面積　5,800㎡　　**トレンチ数**　５本　　**検 出 遺 構**　なし

保 存 面 積　０㎡　　**出 土 遺 物**　なし

［概　　要］　ＣＧ－Ｂ１は，平成13年７月に実施した表面調査により確認された（本書69頁）。周辺は，第四紀完新世の岩屑なだれ堆積物層上の平坦面・丘陵地である。ＣＧ－Ｂ１は，観音川右岸に面した段丘の南向き緩斜面に立地し，南倉沢集落の北西，大松川集落と南倉沢集落のほぼ中間点に位置している。

近隣の遺跡として，観音川を隔て西に和久坂遺跡，杉ノ沢一里塚，札場遺跡があげられる。

［ま　と　め］　平成13年度の調査においては，遺構や遺物を発見することはできなかった。このため，ＣＧ－Ｂ１の調査範囲は遺跡として取り扱わない。

４．ＣＧ－Ｂ２

所　在　地　下郷町大字南倉沢字小桑沢山　　**調 査 期 間**　平成13年10月31日～11月５日

調査対象面積　3,800㎡　　**トレンチ数**　６本　　**検 出 遺 構**　なし

保 存 面 積　０㎡　　**出 土 遺 物**　縄文土器

［概　　要］　ＣＧ－Ｂ２は，観音川右岸の台地上に立地している。平成13年７月に実施した表面調査により確認された（本書69頁）。前述した稲干場遺跡の南西に位置する標高760ｍ弱の段丘上にあり，現況は畑地となっている。付近は多湿黒ボク土壌の沢田統に分類されている（福島県農地林務部1978『会津開発地域土地分類基本調査：田島』）。

［ま　と　め］　平成13年度の試掘調査において，２Ｔから縄文土器片が１片出土した。他のトレンチから遺物は出土せず，遺構も確認できなかった。そのため，この遺物は耕作土に紛れて混入したものと推測される。

以上のような調査結果から，ＣＧ－Ｂ２の本年度調査範囲については，遺跡として取り扱わない。

５．ＣＧ－Ｂ３

所　在　地　下郷町大字南倉沢字大鹿沼　　**調 査 期 間**　平成13年10月22日～11月15日

調査対象面積　9,300㎡　　**トレンチ数**　21本　　**検 出 遺 構**　なし

保 存 面 積　０㎡　　**出 土 遺 物**　なし

［概　　要］　ＣＧ－Ｂ３は，観音川右岸の標高760ｍ前後の段丘上に立地し，起伏の少ない平場が広がっている。平成13年７月に実施した表面調査により確認された（本書69頁）。付近の土壌は，乾性褐色森林土壌の二岐Ｉ統に分類されている（前掲『会津開発地域土地分類基本調査：田島』）。

［ま　と　め］　平成13年度の試掘調査においては，遺構や遺物を発見することはできなかった。このことから，ＣＧ－Ｂ３の本年度調査範囲は遺跡として取り扱わない。

６．ＣＧ－Ｂ４

所　在　地　下郷町大字南倉沢字大鹿沼　　**調 査 期 間**　平成13年10月８日～11月22日

調査対象面積　7,600㎡　　**トレンチ数**　17本　　**検 出 遺 構**　なし

保 存 面 積　０㎡　　**出 土 遺 物**　なし

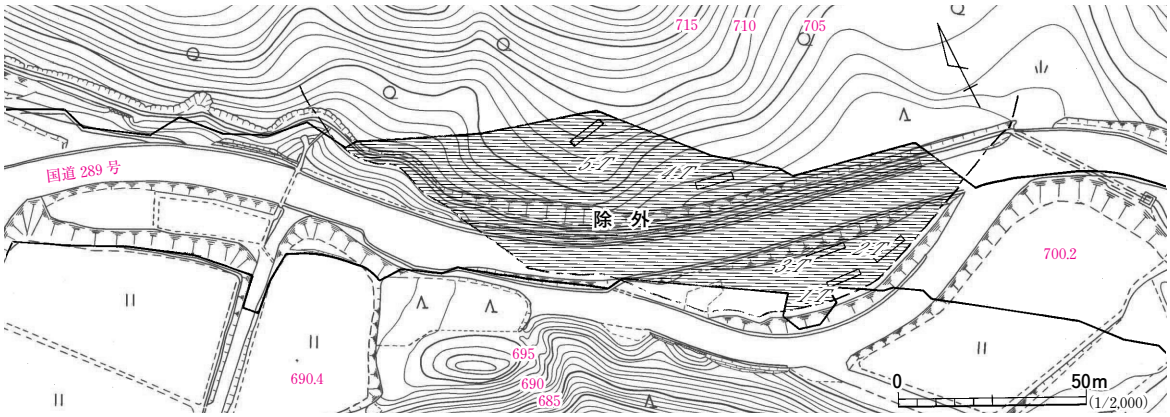


図67　ＣＧ－Ｂ１トレンチ配置図

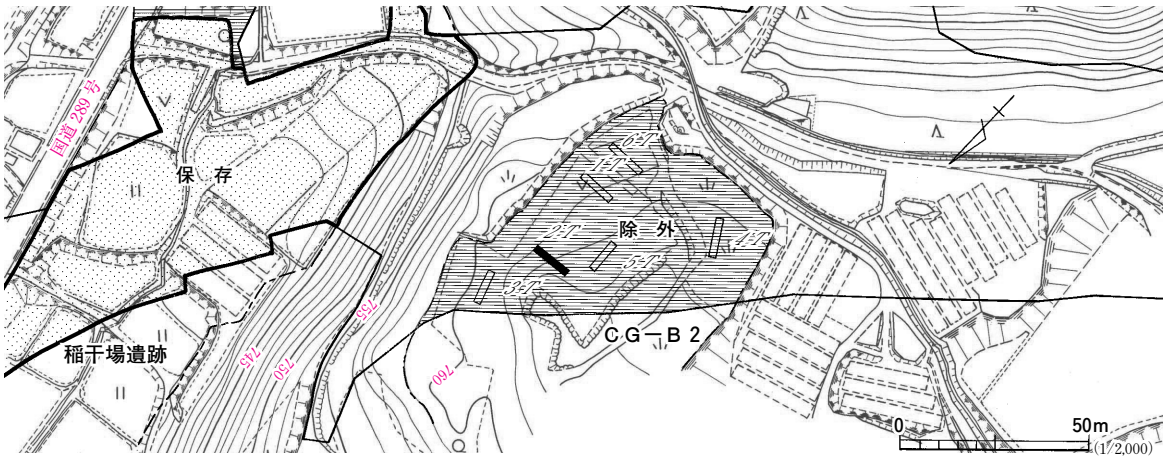


図68　ＣＧ－Ｂ２トレンチ配置図

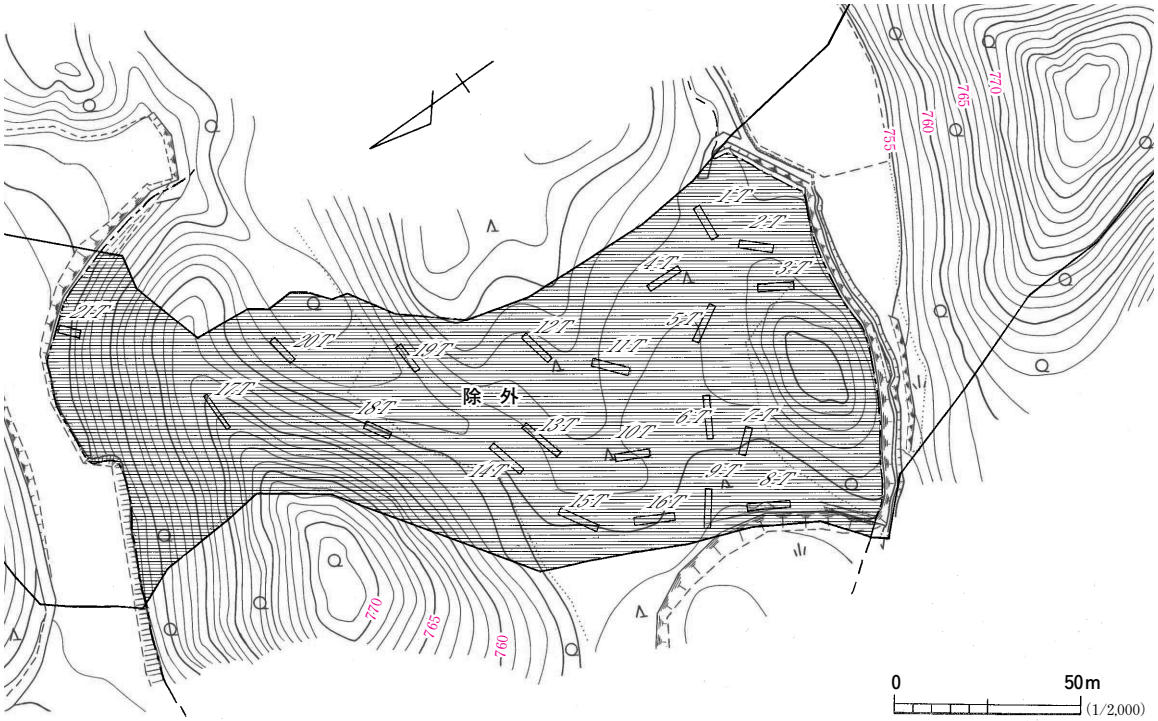


図69　ＣＧ－Ｂ３トレンチ配置図

［概　　要］ ＣＧ－Ｂ４は，観音川右岸の標高770ｍ前後の段丘上に立地し，緩やかな斜面が広がっている。平成13年７月に実施した表面調査により確認した（本書69頁）。前掲した『会津開発地域土地分類基本調査：田島』によると，付近の土壌は，乾性森林土壌の二岐Ｉ統に分類されている。現況は雑種地・スギ・カラマツの人工林である。

［ま　と　め］ 平成13年度の試掘調査においては，遺構や遺物を発見することはできなかった。このことから，ＣＧ－Ｂ４の本年度調査範囲内は遺跡として取り扱わない。

７．ＣＧ－Ｂ５

所　在　地　下郷町大字南倉沢字木賊

調査対象面積　2,900㎡　　**トレンチ数**　８本

保 存 面 積　未確定

調 査 期 間　平成13年10月15日～11月７日

検 出 遺 構　土坑

出 土 遺 物　なし

ＣＧ－Ｂ５南区（北から）

表28　ＣＧ－Ｂ５トレンチ一覧

トレンチ番号	検出遺構			出土遺物（時代）
	種類(時代)	確認面までの深さ	遺構内掘込み	
５Ｔ	土坑	140cm	○	

［概　　要］ ＣＧ－Ｂ５は，平成13年７月に行った表面調査によって確認された（本書69頁）。周囲を丘陵に囲まれた谷状の低地の平坦面及び急斜面上に広がる標高800ｍ前後の高位段丘平坦面に立地している。土壌は，乾性森林土壌の二岐Ｉ統に分類されている（前掲『会津開発地域土地基本調査：田島』）。現況は針葉樹の人工林および雑種地である。

［遺構・遺物］ 平成13年度の調査は，道路のアスファルト敷設範囲2,900㎡について実施した。谷地形に設けた５Ｔにおいて遺構の一部を確認した。この遺構は，地表から40cmほど下の沼沢パミスと考えられる火山性堆積物を含む黒褐色シルト層から掘り込まれている。トレンチにおける観察から，開口部は長軸100cm，短軸60cmほどの楕円形，底面は長軸100cm，短軸20cmほどの楕円形と認められる。掘り込み面からの深さは130cmを測る。この形態から，縄文時代の落し穴状土坑と考えられる。

［ま　と　め］ 土坑を検出した５Ｔの北西になだらかな平坦面が広がり，ここに縄文時代の遺構・遺物が埋蔵されている可能性がある。未試掘部分の13,700㎡は，今後の試掘調査の結果により保存範囲を確定する。

８．ＣＧ－Ｂ６

所　在　地　下郷町大字南倉沢字木賊

調査対象面積　3,600㎡　　**トレンチ数**　５本

保 存 面 積　０㎡

調 査 期 間　平成13年10月４日～11月12日

検 出 遺 構　なし

出 土 遺 物　なし

［概　　要］ ＣＧ－Ｂ６は，観音川右岸の標高900ｍ前後の段丘緩斜面に立地し，現況は針葉樹の人工林となっている。平成13年７月に実施した表面調査時に確認した（本書69頁）。土壌は，乾性森林土壌の二岐Ｉ統に分類されている（前掲『会津開発地域土地基本調査：田島』）。

［ま　と　め］ 平成13年度の試掘調査は，推定地の東半分3,600㎡を対象に実施した。遺物・遺構を発見することはできず，この範囲は遺跡として取り扱わない。なお，西半部5,300㎡については未試掘である。

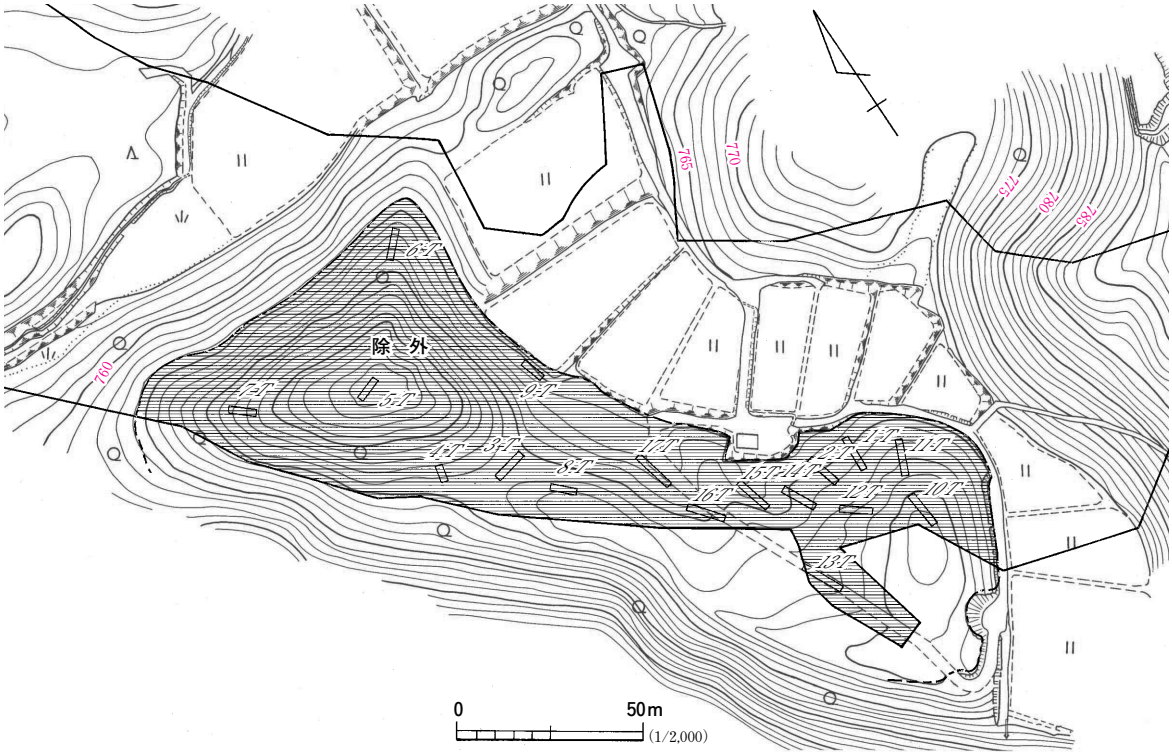


図70　ＣＧ－Ｂ４トレンチ配置図

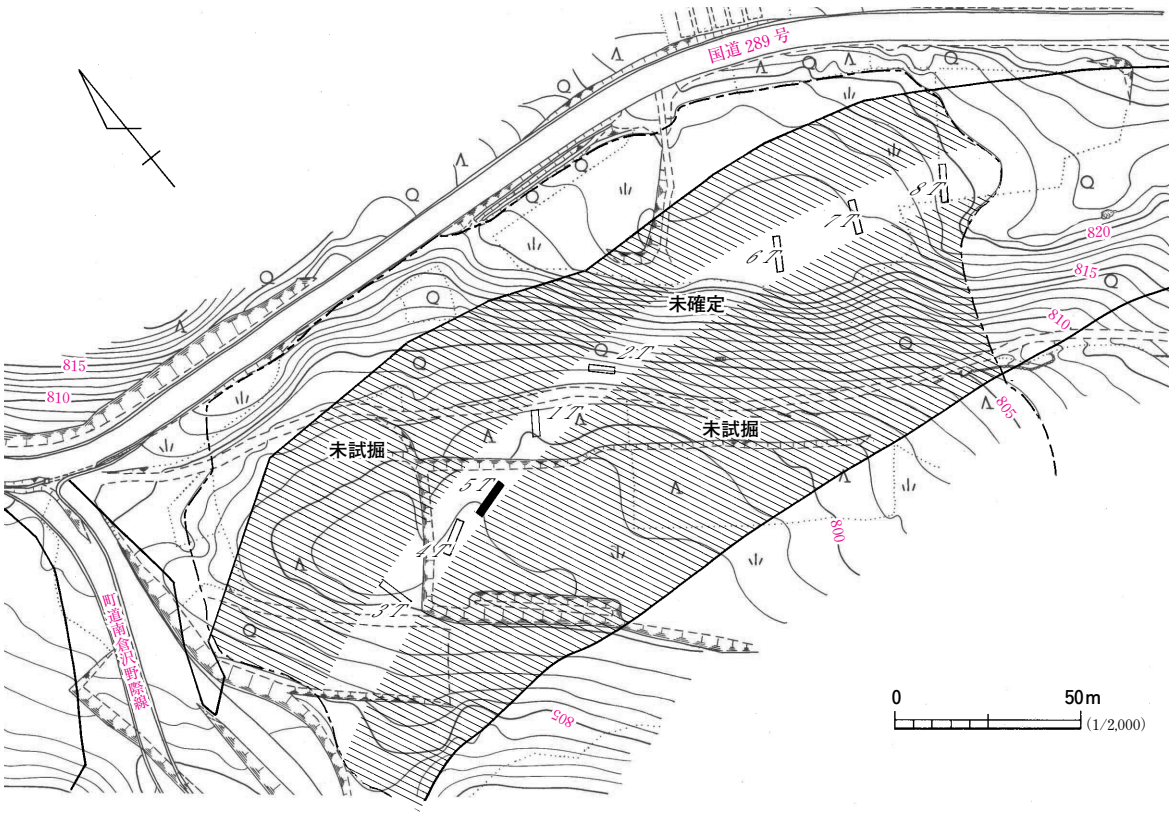


図71　ＣＧ－Ｂ５トレンチ配置図

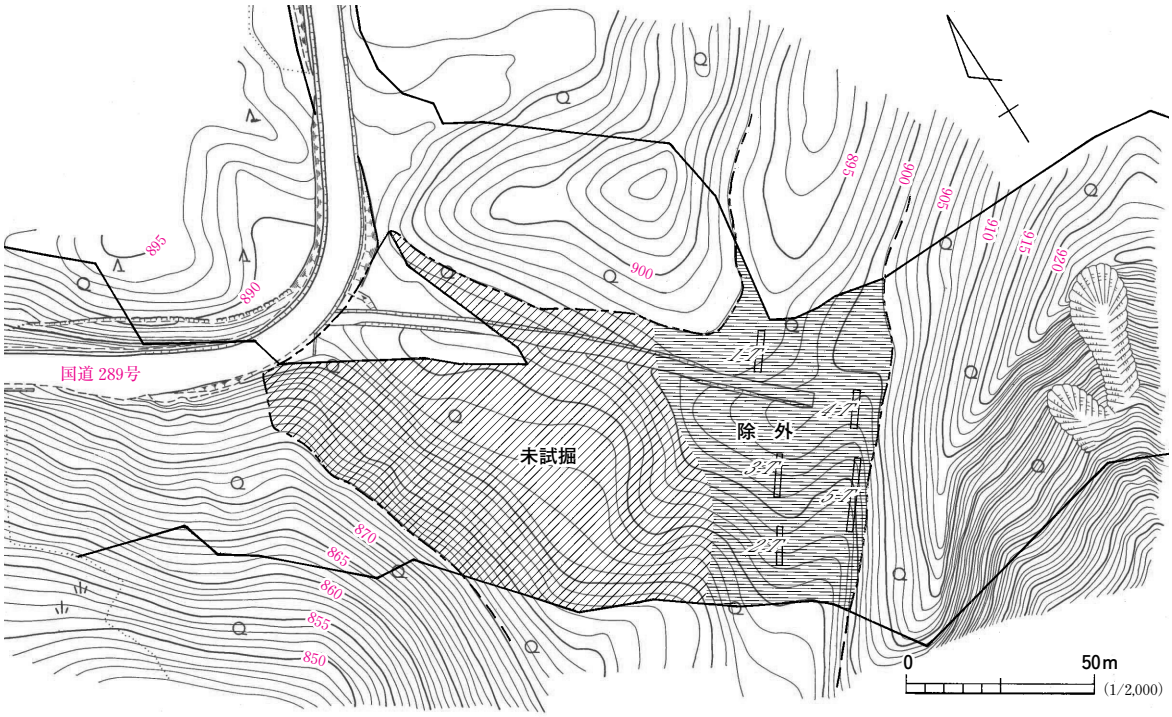


図72　ＣＧ－Ｂ６トレンチ配置図

９．ＣＧ－Ｂ７

所　在　地　下郷町大字南倉沢字猪番場平

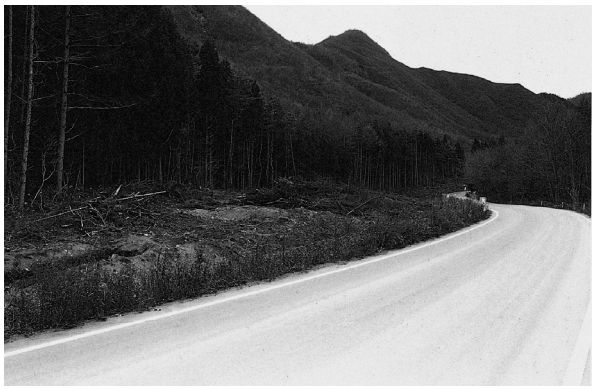
調査対象面積　26,500㎡　　**トレンチ数**　37本

保 存 面 積　未確定

調 査 期 間　平成13年９月17日～10月３日

検 出 遺 構　土坑

出 土 遺 物　なし



ＣＧ－Ｂ７北区（南から）

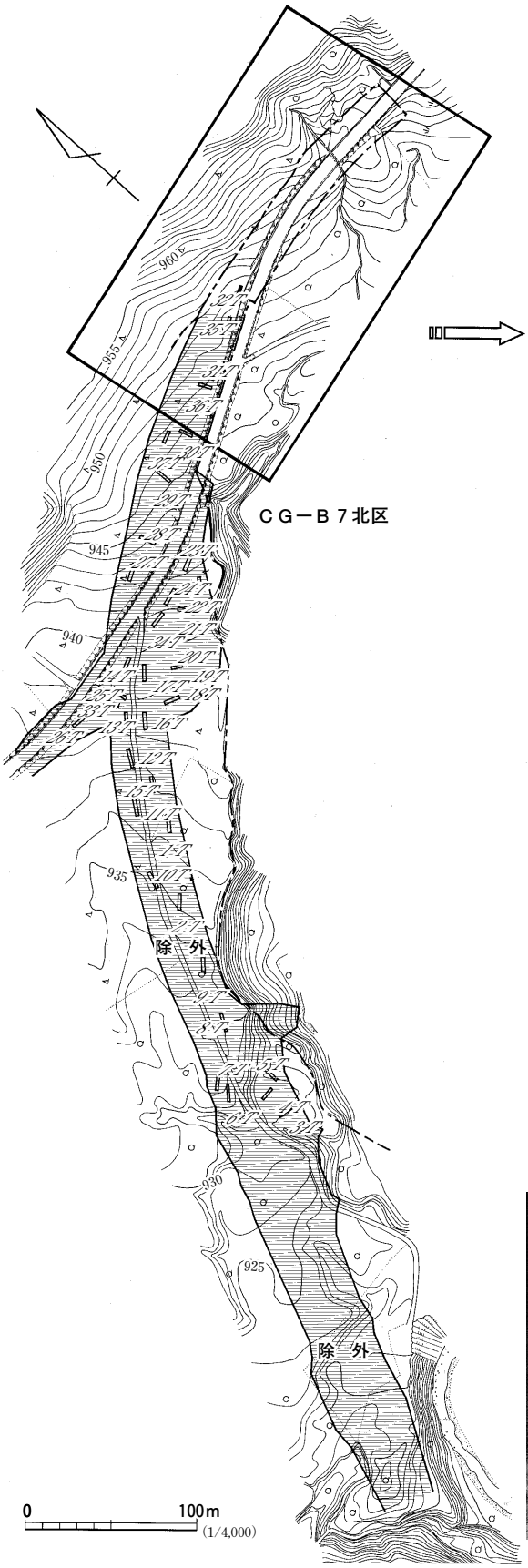
表29　ＣＧ－Ｂ７トレンチ一覧

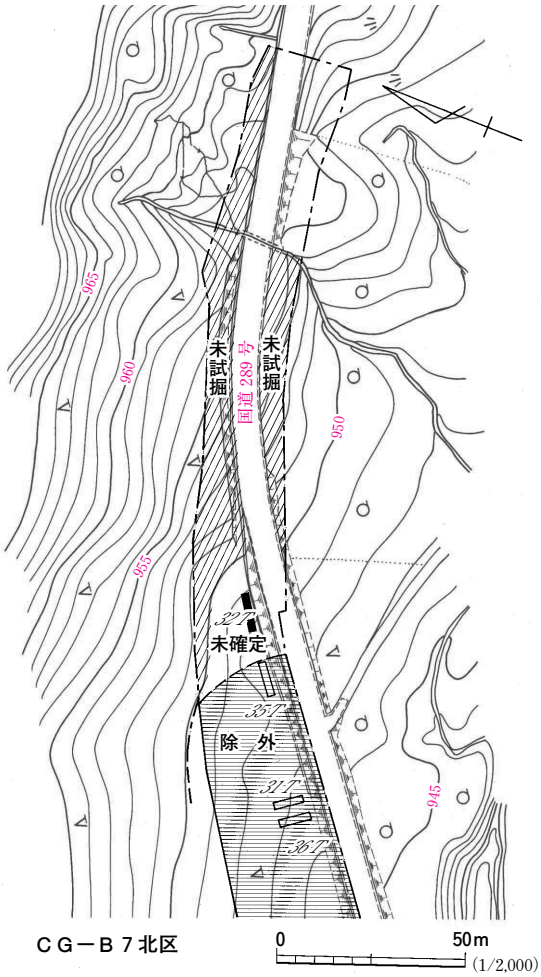
トレンチ番号	検出遺構			出土遺物（時代）
	種類(時代)	確認面までの深さ	遺構内掘込み	
32T	土坑（縄文）	91cm	○	

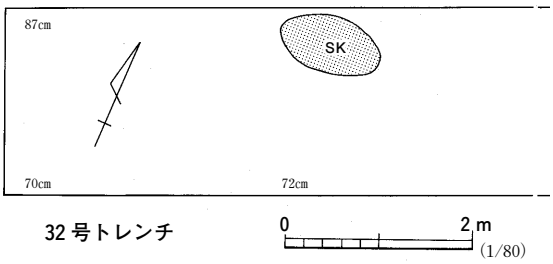
［概　　要］　ＣＧ－Ｂ７は，観音川右岸の標高920～960mの段丘上面に広範に広がる台地上の平坦面に立地し，現況は山林となっている。平成13年７月に実施した表面調査の際に確認された（本書69頁）。

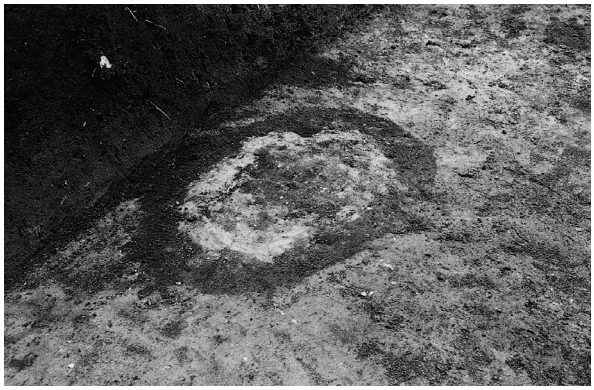
［遺構・遺物］　調査区東端に設けた32Ｔで土坑を検出した。検出面は，地表から85cmあまり下のＬＶにぶい黄褐色砂質シルト上面である。土坑は長軸100cm，短軸60cmほどの楕円形をしている。土坑の西半分について掘り込みを実施し，堆積状況を確認した。土坑は，検出面からの深さ78cm，断面はＵ字型をしている。土坑検出面と遺構内堆積土の上層に，沼沢パミスと考えられる多量の火山性堆積物が混入している。その形状と堆積土の様子から，縄文時代中期初頭以前の落し穴状土坑と推定される。

［ま　と　め］　単基で落し穴をつくることは希であるから，32Ｔ以東に落し穴状土坑列の存在が推定できる。このため，32Ｔ以東の1,800㎡について試掘調査を実施する必要がある。なお，35Ｔ以西のトレンチを設けた範囲については，検出遺構・出土遺物ともになかったことから，遺跡として取り扱わない。









32Ｔ遺構検出状況（西から）

図73　ＣＧ－Ｂ７トレンチ配置図・検出遺構

第３章　表 面 調 査

第１節　県営かんがい排水事業相馬第二地区予定地

福島県教育委員会は，県営かんがい排水事業相馬第二地区に関わる埋蔵文化財の把握と保護のため，相馬市と新地町の協力のもと，昭和63年度に表面調査を実施した。その際，用水工事の予定地内および周辺部において61遺跡を発見あるいは確認し，『相双地区遺跡分布図４』（福島県教育委員会1989）として報告している。

この表面調査の成果を踏まえ，宇田川左岸の用水工事にかかる遺跡に関して，平成９年度から工事計画にあわせ試掘調査及び発掘調査が実施されている。これまでに，石ホロＡ遺跡の試掘調査（福島県教育委員会1998『福島県内遺跡分布調査報告４』）と小田原遺跡の発掘調査（同1998『県営かんがい排水事業相馬第二地区遺跡発掘調査報告Ⅰ』）を行っている。また，宇田川右岸の工事にかかる遺跡に関しては，相馬市教育委員会が，平成９年度までに７遺跡の試掘調査を実施している。

今回の表面調査は，平成13年度の工事路線確定をうけ，再度確認調査を実施することとなったものである。調査対象となったのは，平成13年度工事箇所を中心に，相馬市から新地町にかけての10kmの範囲である。福島県教育委員会から委託を受けた財団法人福島県文化振興事業団は，平成13年10月１日～５日の期間，調査を実施した。この調査により，これまでに登録されている遺跡に加え新たに遺跡１ヶ所と遺跡推定地５ヶ所を確認した。

表30　県営かんがい排水事業相馬第二地区関連新発見遺跡・遺跡推定地一覧

平成14年３月現在

No.	遺 跡 名	所　在　地	現　況	地　　形	遺跡面積	備　　考
1	ＳＭ－Ｂ101	相馬市黒木字宿仙木	山林	東向き丘陵緩斜面	36,000㎡	西側に周知の野出沢遺跡が隣接する
2	ＳＭ－Ｂ102	相馬市椎木字段ノ原	畑地	椎木川の氾濫原	17,800㎡	東側に周知の北原遺跡が続いている
3	落合遺跡	新地町駒ヶ嶺落合　他	畑地・水田	立田川に面する微高地	67,000㎡	土器の散布地
4	ＳＴ－Ｂ101	新地町駒ヶ嶺字高場	〃	立田川に面する微高地	14,300㎡	川向に落合遺跡が位置している
5	ＳＴ－Ｂ102	新地町杉目字鈴山	〃	丘陵南側緩斜面裾部	9,300㎡	
6	ＳＴ－Ｂ103	新地町杉目字五郎四郎	畑地・山林	東向き丘陵緩斜面	16,000㎡	周知の五郎四郎Ａ遺跡が隣接する

第２節　地域高規格道路（福島空港・あぶくま南道路）建設予定地

福島空港・あぶくま南道路は，東北自動車道矢吹ＩＣから福島空港を経て磐越自動車道小野ＩＣに至る自動車専用道路である。これまでに，玉川村吉地区から平田村蓬田新田地区の国道49号までの道路建設区間（４～６工区）に，14ヵ所の遺跡と25カ所の遺跡推定地を発見している（『福島県内遺跡分布調査報告７』）。玉川村所在分の遺跡・遺跡推定地の詳細な範囲確認は，平成13年２月14日に終了した。

平成13年４月19・20日，平田村所在の遺跡・遺跡推定地の詳細な範囲確認を実施した。その結果，大字西山地区の製鉄関連の煙石Ｄ遺跡は，開削等によってほとんど失われ，わずかに遺存するにすぎない。上蓬田地区において新たに２カ所の遺跡推定地を発見した（表31）。ＨＴ－Ｂ10は，上根本Ｃ遺跡の北側の丘陵頂部に立地している。ＨＴ－Ｂ11は，上根本Ｂ遺跡から尾根を挟んだ南側に位置している。いずれも近隣の遺跡で縄文土器を採取しており，縄文時代の集落跡が埋没している可能性がある。

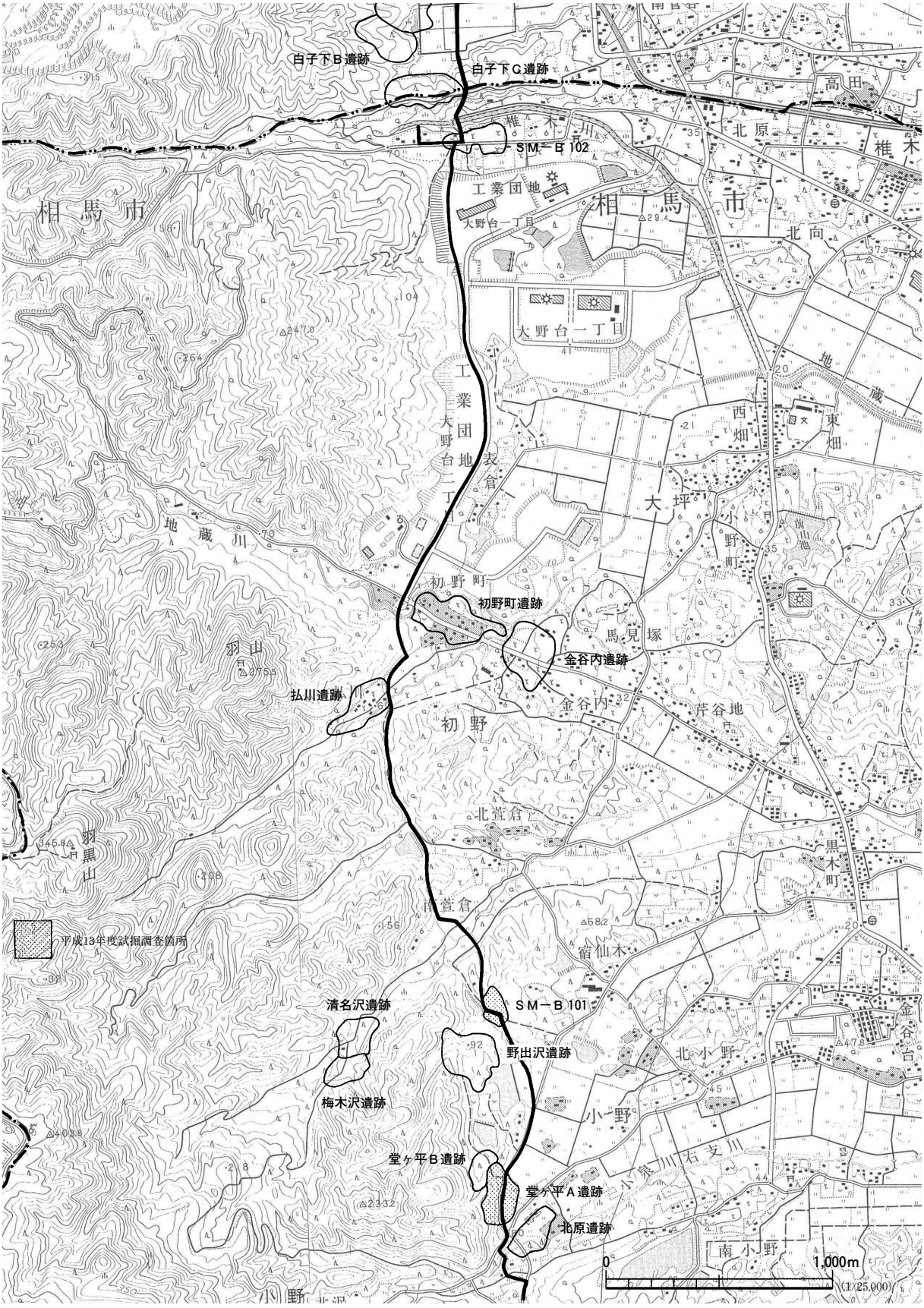


図74　相馬市の遺跡と遺跡推定地

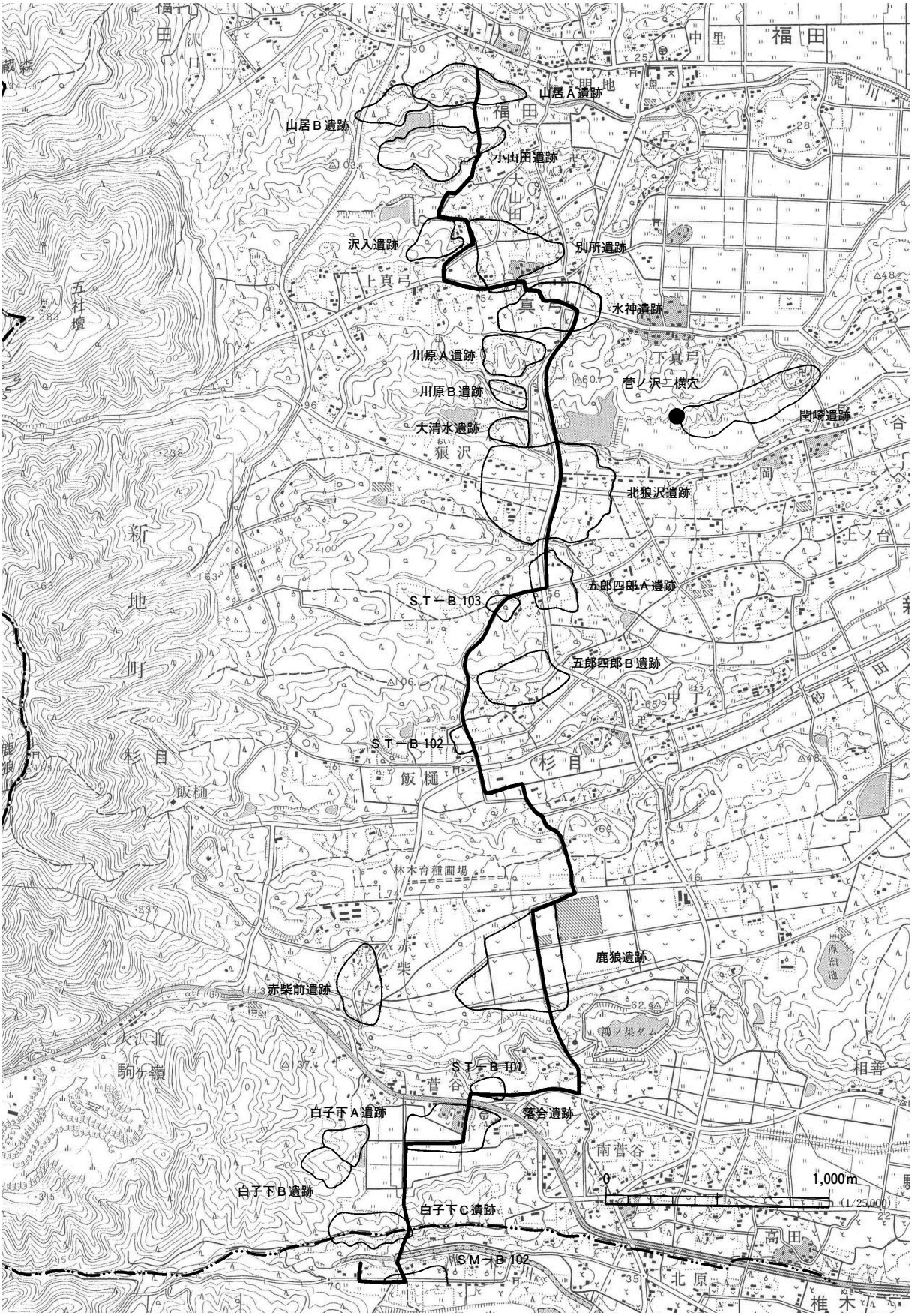


図75　新地町の遺跡と遺跡推定地

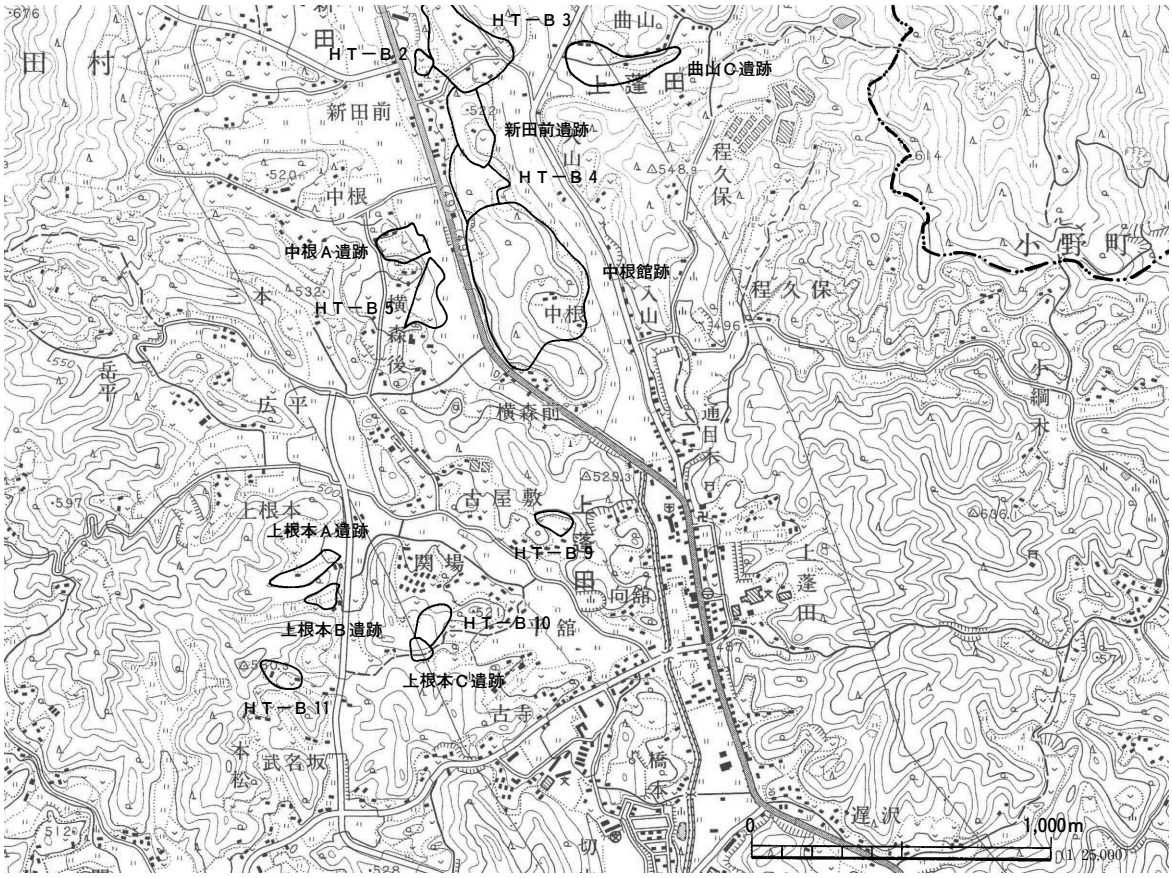


図76　平田村の遺跡と遺跡推定地

表31　地域高規格道路（福島空港・あぶくま南道路）関連新発見遺跡・遺跡推定地一覧（平田村）平成14年３月現在

No.	遺跡名	所在地	現況	地形	遺跡面積	備考
1	ＨＴ－Ｂ10	上蓬田字上根本	山林	丘陵	9,800㎡	集落跡の可能性
2	ＨＴ－Ｂ11	上蓬田字上根本	宅地・水田	東向き沢地	7,500㎡	上根本Ａ・Ｂ遺跡の南側にあり同様の地形を呈する

第３節　一般国道289号南倉沢バイパス建設予定地

一般国道289号は，下郷町南倉沢と西郷村甲子の間の甲子峠において交通不能となっている。この交通不能区間を解消し，県南地域と南会津地域の交流や連携をはかるべく広域幹線道路の整備が急がれている。

今回は，周知遺跡の現況確認を兼ね，南倉沢バイパス建設予定地周辺の表面調査を行った。調査は，道路建設予定沿線12.5kmを対象に，平成13年７月30日～８月３日にかけて実施した。調査により遺跡２カ所，遺跡推定地７カ所を確認した。各遺跡・遺跡推定地の位置等については，本書第２章の図63と表25に掲載した。表面調査の終了後，平成13年９月から試掘調査を実施した（本書55頁）。

調査区西～中央部の標高640m～935mの一帯に緩勾配で幅広い観音川台地が広がっている。この台地は東方の観音山（1,640m）の西側山腹が大規模に崩壊・移動して形成されたもので，南倉沢・稲干場遺跡，ＣＧ－Ｂ１～Ｂ６がこの台地上に立地している。調査区東部の標高935m～960m一帯の観音川沿いに，起伏がほとんどない平坦な地形が広がっている。これは，観音山の崩壊による堰止め湖によって形成されたもので，ＣＧ－Ｂ７がここに立地している。

第４節　こまちダム建設予定地

こまちダムは，田村郡小野町菖蒲谷・雁股田地区の黒森川流域に建設が予定されている。こまちダム建設予定地内の表面調査は，平成10年度から継続的に実施されている。平成10年度は，小野町教育委員会によって実施された（『こまちダム関連遺跡群分布調査報告書』）。平成11年度は，県道矢吹小野線の付け替え予定地（福島県教育委員会1999『福島県内遺跡分布調査報告６』），平成12年度は，工事にともなう道路建設予定地と湛水線内について調査を実施している（同2000『福島県内遺跡分布調査報告７』）。平成13年度は，黒森川右岸側の道路予定地について表面調査を実施した。

調査の結果，新たに遺跡推定地Ｂ15を確認した。Ｂ15は，堂田遺跡から東側へ約150ｍ離れた地点にある。その地形は，北側の黒森川に向かって開けた沢で，縄文土器を確認採集した西隣の堂田遺跡と同様の地形である。そのため，Ｂ15においても縄文時代の遺構・遺物が存在する可能性がある。

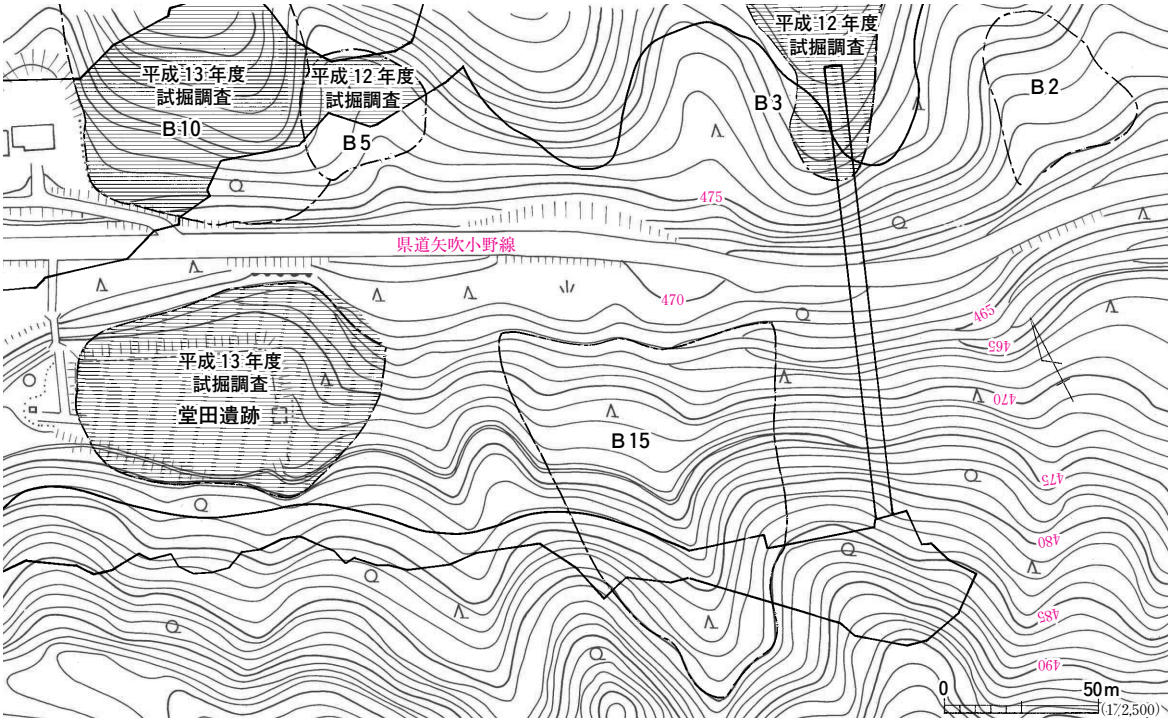


図77　Ｂ15位置図

表32　こまちダム関連新発見遺跡・遺跡推定地一覧

No.	遺跡名	所在地	現況	地形	遺跡面積	備考
1	Ｂ15	菖蒲谷字西田・反田	山林	沢地	1,600㎡	西側に周知の遺跡堂田遺跡が隣接している

第４章　ま　と　め

平成13年度の福島県内遺跡分布調査は，試掘調査８事業（10市町村：計337,090㎡），表面調査４事業（５市町村：計195ha）について実施した。各事業の調査成果については前章で記載してきたとおりであるが，本章では，表33～40に本年度までの試掘調査成果をまとめた。

表33　地域高規格道路（福島空港・あぶくま南道路）関連遺跡試掘調査成果一覧

No.	遺跡名(市町村)	試掘対象総面積	年度別試掘対象面積			未試掘面積(範囲未確定面積)	保存面積	備考
			年度	面積	報告書			
1	黒森館跡　(小野)	2,600㎡	H13	2,600㎡	(５頁)	0㎡	0㎡	試掘調査終了。
2	ＯＮ－Ｂ３　(小野)［関場Ｂ遺跡］	2,400㎡	H13	2,400㎡	(６頁)	0㎡	1,200㎡	試掘調査終了。H13発掘調査実施（『あ発16』）。
3	ＯＮ－Ｂ５　(小野)［仁井殿遺跡］	8,300㎡	H13	8,300㎡	(７頁)	0㎡	2,100㎡	試掘調査終了。
4	ＯＮ－Ｂ６　(小野)	3,400㎡	H13	3,400㎡	(９頁)	0㎡	0㎡	試掘調査終了。
5	ＯＮ－Ｂ７　(小野)［反田Ｂ遺跡］	5,000㎡	H13	5,000㎡	(９頁)	0㎡	1,300㎡	試掘調査終了。H13発掘調査実施（『あ発16』）。
6	中根館跡　(平田)	26,000㎡	H13	26,000㎡	(11頁)	1,100㎡	22,000㎡	
7	後曲遺跡　(平田)	3,200㎡	H13	3,200㎡	(15頁)	1,000㎡	未確定	
8	曲山Ｂ遺跡　(平田)	4,400㎡	H13	4,400㎡	(15頁)	0㎡	0㎡	試掘調査終了。
9	曲山Ｃ遺跡　(平田)	6,500㎡	H13	6,500㎡	(16頁)	1,800㎡	0㎡	
10	ＨＴ－Ｂ１　(平田)	4,400㎡	H13	4,400㎡	(17頁)	0㎡	0㎡	試掘調査終了。
11	宮ノ前Ａ遺跡(玉川)	3,900㎡	H11 H12 H13	600㎡ 3,000㎡ 300㎡	『県内分6』 『県内分7』 (17頁)	0㎡	0㎡ 3,000㎡ 300㎡	試掘調査終了。H11・600㎡は除外，H13発掘調査実施（『あ発15』）。
		70,100㎡	(H13)	70,100㎡ (66,500)		3,900㎡	29,900㎡	

［用例］『県内分＊』→『福島県内遺跡分布調査報告＊』　『あ発＊』→『福島空港・あぶくま南道路遺跡発掘調査報告＊』
『常磐＊』→『常磐自動車道遺跡調査報告＊』　『会北＊』→『会津縦貫北道路遺跡調査報告＊』　（＊頁）→本報告書掲載ページ　以下，共通

表34　こまちダム関連遺跡試掘調査成果一覧（小野町）

No.	遺跡名(市町村)	試掘対象総面積	年度別試掘対象面積			未試掘面積(範囲未確定面積)	保存面積	備考
			年度	面積	報告書			
1	堂田Ａ遺跡	1,900㎡	H12 H13	1,300㎡ 600㎡	『県内分7』 (19頁)	0㎡	200㎡ 600㎡	試掘調査終了。H12対象面積内1100㎡は工区外へ。
2	Ｂ８［西田Ｈ遺跡］	9,000㎡	H13	7,400㎡	(21頁)	1,600㎡	7,400㎡	
3	西田Ｃ遺跡	2,000㎡	H13	2,000㎡	(25頁)	0㎡	0㎡	試掘調査終了。
4	堂田遺跡	2,800㎡	H13	2,800㎡	(25頁)	0㎡	0㎡	試掘調査終了。
5	Ｂ10	4,000㎡	H13	4,000㎡	(25頁)	0㎡	0㎡	試掘調査終了。
6	Ｂ11	1,300㎡	H13	1,300㎡	(26頁)	0㎡	0㎡	試掘調査終了。
7	Ｂ12	4,100㎡	H13	4,100㎡	(27頁)	0㎡	0㎡	試掘調査終了。
		25,100㎡	(H13)	23,500㎡ (22,200)		1,600㎡	8,200㎡	

表35　国営隈戸川農業水利事業関連遺跡試掘調査成果一覧（大信村）

No.	遺跡名(市町村)	試掘対象総面積	年度別試掘対象面積			未試掘面積(範囲未確定面積)	保存面積	備考
			年度	面積	報告書			
1	田ノ沢Ｃ遺跡	30,900㎡	H13	30,900㎡	(28頁)	0㎡	20,000㎡	試掘調査終了。
2	田ノ沢Ｇ遺跡	13,000㎡	H13	13,000㎡	(31頁)	0㎡	2,900㎡	試掘調査終了。
3	Ｂ１［田ノ沢Ｈ遺跡］	64,300㎡	H13	64,300㎡	(32頁)	0㎡	1,600㎡	試掘調査終了。
4	Ｂ６	1,000㎡	H13	1,000㎡	(34頁)	0㎡	0㎡	試掘調査終了。
5	Ｂ７	2,400㎡	H13	2,400㎡	(34頁)	1,500㎡	0㎡	
		111,600㎡		111,600㎡		1,500㎡	24,500㎡	

表36　常磐自動車道関連遺跡試掘調査成果一覧

No.	遺跡名(市町村)	試掘対象総面積	年度別試掘対象面積 年度	面積	報告書	未試掘面積(範囲未確定面積)	保存面積	備考
1	後作Ａ遺跡（富岡）	22,000㎡	Ｈ９ Ｈ11 Ｈ13	3,600㎡ 5,800㎡ 7,830㎡	『県内分4』 『県内分6』 （37頁）	4,770㎡	0㎡ 1,800㎡ 4,600㎡	Ｈ13発掘調査実施（『常磐36』）。
2	大石原遺跡（富岡）	22,100㎡	Ｈ８ Ｈ９ Ｈ10 Ｈ11 Ｈ13	600㎡ 2,800㎡ 9,900㎡ 6,960㎡ 1,840㎡	『県内分3』 『県内分4』 『県内分5』 『県内分6』 （40頁）	0㎡	0㎡	試掘調査終了。
3	清水遺跡（富岡）	19,070㎡	Ｈ８ Ｈ10 Ｈ11 Ｈ12 Ｈ13	4,900㎡ 2,500㎡ 2,100㎡ 4,900㎡ 4,670㎡	『県内分3』 『県内分5』 『県内分6』 『県内分7』 （40頁）	0㎡	0㎡	試掘調査終了。
4	Ｔ－Ｂ25（富岡）	7,000㎡	Ｈ13	7,000㎡	（41頁）	0㎡	0㎡	試掘調査終了。
5	萩平遺跡（双葉）	500㎡	Ｈ13	500㎡	（41頁）	0㎡	0㎡	試掘調査終了。
6	Ｆ－Ｂ１（双葉）	6,600㎡	Ｈ13	4,200㎡	（42頁）	2,400㎡	0㎡	
7	Ｆ－Ｂ２（双葉）	5,500㎡	Ｈ13	5,500㎡	（43頁）	0㎡	0㎡	試掘調査終了。
8	Ｆ－Ｂ３（双葉）	27,000㎡	Ｈ13	10,000㎡	（44頁）	17,000㎡	0㎡	
		109,770㎡	（Ｈ13）	85,600㎡ （41,540）		24,170㎡	6,400㎡	

表37　一般国道６号相馬バイパス関連遺跡試掘調査成果一覧

No.	遺跡名(市町村)	試掘対象総面積	年度別試掘対象面積 年度	面積	報告書	未試掘面積(範囲未確定面積)	保存面積	備考
1	本笑和田横穴墓群（相馬）	4,600㎡	Ｈ11 Ｈ13	300㎡ 4,300㎡	『県内分6』 （45頁）	0㎡	0㎡	試掘調査終了。
2	山中Ｂ遺跡（新地）	14,800㎡	Ｈ13	8,100㎡	（46頁）	6,700㎡	3,350㎡	
3	洞山Ａ遺跡（新地）	2,700㎡	Ｈ13	800㎡	（48頁）	1,900㎡	0㎡	
4	ＳＴ－Ｂ２（新地）	5,000㎡	Ｈ13	1,300㎡	（50頁）	3,700㎡	未確定	
		27,100㎡	（Ｈ13）	14,800㎡ （14,500）		12,300㎡	3,350㎡	

表38　県営かんがい排水事業相馬第二地区関連遺跡試掘調査成果一覧（相馬市）

No.	遺跡名(市町村)	試掘対象総面積	年度別試掘対象面積 年度	面積	報告書	未試掘面積(範囲未確定面積)	保存面積	備考
1	堂ヶ平Ａ遺跡	800㎡	Ｈ13	450㎡	（51頁）	350㎡	0㎡	
2	ＳＭ－Ｂ101 ［宿仙木Ａ遺跡］	2,000㎡	Ｈ13	1,000㎡	（51頁）	1,000㎡	1,000㎡	
		2,800㎡		1,450㎡		1,350㎡	1,000㎡	

表39　地域高規格道路（会津縦貫北道路）関連遺跡試掘調査成果一覧（塩川町）

No.	遺跡名(市町村)	試掘対象総面積	年度別試掘対象面積 年度	面積	報告書	未試掘面積(範囲未確定面積)	保存面積	備考
1	荒屋敷遺跡	21,900㎡	Ｈ12 Ｈ13	14,400㎡ 7,500㎡	『県内分7』 （54頁）	0㎡	9,700㎡ 2,100㎡	Ｈ12・9700㎡についてＨ13発掘調査実施（『会北２』）。
		21,900㎡	（Ｈ13）	21,900㎡ （7,500）		0㎡	11,800㎡	

表40　一般国道289号南倉沢バイパス関連遺跡試掘調査成果一覧（下郷町）

No.	遺跡名(市町村)	試掘対象総面積	年度別試掘対象面積 年度	面積	報告書	未試掘面積(範囲未確定面積)	保存面積	備考
1	南倉沢遺跡	4,300㎡	Ｈ13	4,300㎡	（56頁）	0㎡	3,100㎡	試掘調査終了。
2	稲干場遺跡	8,000㎡	Ｈ13	8,000㎡	（59頁）	0㎡	6,200㎡	試掘調査終了。
3	ＣＧ－Ｂ１	5,800㎡	Ｈ13	5,800㎡	（60頁）	0㎡	0㎡	試掘調査終了。
4	ＣＧ－Ｂ２	3,800㎡	Ｈ13	3,800㎡	（60頁）	0㎡	0㎡	試掘調査終了。
5	ＣＧ－Ｂ３	9,300㎡	Ｈ13	9,300㎡	（60頁）	0㎡	0㎡	試掘調査終了。
6	ＣＧ－Ｂ４	7,600㎡	Ｈ13	7,600㎡	（60頁）	0㎡	0㎡	試掘調査終了。
7	ＣＧ－Ｂ５	16,600㎡	Ｈ13	2,900㎡	（62頁）	13,700㎡	未確定	
8	ＣＧ－Ｂ６	8,900㎡	Ｈ13	3,600㎡	（62頁）	5,300㎡	0㎡	
9	ＣＧ－Ｂ７	28,300㎡	Ｈ13	26,500㎡	（64頁）	1,800㎡	未確定	調査区北東側1800㎡再調査必要。
		92,600㎡		71,800㎡		20,800㎡	9,300㎡	

福島県文化財調査報告書第385集

福島県内遺跡分布調査報告８

平成14年３月31日発行

編　集　㈶福島県文化振興事業団
〒960－8116　福島市春日町５－54

発　行　福島県教育委員会
〒960－8688　福島市杉妻町２－16

印　刷　株式会社山川印刷所
〒960－2153　福島市庄野字清水尻１－10

２００２